

令和元年度  
消防防災年報

福 井 県  
＜令和2年刊行＞



## はじめに

本県の消防防災体制は、関係各位のたゆまぬ努力により着実に充実強化されてきており、地域住民の安全・安心の確保に大きな役割を果たしているところです。

近年、我が国においては、地震、豪雨など様々な災害や火災が全国各地で発生しており、本年7月に発生した令和2年7月豪雨は、九州、中部、東北地方を中心に広範な地域で甚大な被害をもたらしました。また新型コロナウイルス感染症が国際的な広がりを見せる中、これまでの災害対応に加えて、新型コロナウイルス感染症を踏まえた対応が求められているところです。

このような状況にあって、災害や事故に的確に対応し、住民の生命、身体および財産を守るためには、住民と行政が一体となって、地域防災力の充実強化を推進していく必要があります。

県においては、消防防災の基本である災害発生の予防や初動対応の充実を図るため、消防団や自主防災組織の育成強化を図り、自助、共助、公助のバランスのとれた、安全で安心できる社会の実現を目指しております。

今後とも消防防災行政の推進について、より一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この消防防災年報は、市町および消防本部等関係機関からの報告をもとに令和元年度における消防、防災、保安行政の現況を取りまとめたものです。各方面で、消防防災に関する参考資料として活用され、安全で安心な地域づくりの一助となれば幸いです。

令和2年9月

福井県安全環境部危機対策・防災課

課長 加藤 和彦



# 目 次

## 〔消 防 編〕

### 第1章 消防の概要

第1表 福井県常備消防体制	1
第2表 消防の概況表	2

### 第2章 火災の実態

1 概況	4
2 出火件数および損害額の状況	4
3 出火原因	4
4 火災による死者の状況	5
第1表 1日当たりの損害状況	5
第2表 令和元年火災発生状況と前年比較表	6
第1図 過去10年間の出火件数と損害額の推移	7
第2図 過去10年間の死傷者数の推移	7
第3図 火災発生件数の内訳	8
第4図 うち建物火災件数の内訳	8
第5図 損害額の内訳	8
第3表 令和元年月別火災発生状況表	9
第4表 市町別火災発生状況表	10
第5表 市町別月別火災発生件数、損害額および出火率	12
第6表 全火災の出火原因別損害状況表	14
第6図 全火災の出火原因別状況	14
第7表 死者の死因別発生状況表	15
第8表 死者の経過別および年齢別発生状況表	15

### 第3章 救急業務の実態

1 救急体制	16
2 救急医療体制	16
3 救急活動状況	16
第1表 救急体制状況表	17
第2表 医療機関状況表	17
第3表 救急活動状況表	17
第4表 高速自動車道における救急活動状況表	17
第1図 過去10年間の救急活動の推移	18
第2図 出場件数の事故種別内訳	18
第3図 搬送人員の事故種別内訳	18

### 第4章 予防行政の概況

1 防火対象物定期点検報告制度	19
第1表 防火対象物定期点検報告制度実施状況表	19
2 消防設備士試験および講習の状況	20
第2表 消防設備士試験実施状況表	20
第3表 消防設備士法定講習実施状況表	20

### 第5章 危険物規制

1 概況	21
第1図 危険物施設構成比	21
第2図 過去10年間の危険物施設の推移	21
第1表 施設別危険物施設数	22
第2表 指定数量別および類別危険物施設数	23

第3表	危険物施設に対する立入検査状況	24
第4表の1	容量別屋外タンク貯蔵所数	25
第4表の2	品名別屋外タンク貯蔵所数	25
第5表	危険物取扱者試験実施状況	26
第6表	危険物取扱者保安講習実施状況	26
2	危険物施設の火災および漏えい事故等	27
第7表	過去5年間の危険物施設における災害事故発生件数	27

## 第6章 消防の概要

1	消防の組織	28
2	消防施設	28
3	民間防火組織	28
4	表彰	29
5	消防の現況	29
第1表	消防職団員数の推移	29
第2表	消防機関の現況	29
第3表	消防の概況	30
第4表	階級別消防職員数	31
第5表	階級別非常勤消防団員数	32
第6表	年齢別消防吏員および消防団員数	33
第7表	在職年数別消防吏員および消防団員数	34
第8表	消防ポンプ自動車等現有数（消防本部および署）	35
第9表	消防ポンプ自動車等現有数（消防団）	36
第10表	化学消火薬剤備蓄状況	37
第11表	消防水利の状況	38
第12表	消防機関の出動状況	39
第13表	消防吏員および団員の公務による死傷者数	39
第14表	火災通報施設等の現況	40
第15表	無線通信施設等の現況	41
第16表	幼年消防クラブの現況	42
第17表	少年消防クラブの現況	43
第18表	女性防火クラブの現況および活動状況	44
第19表	消防表彰受賞状況	45

## 第7章 消防教育訓練

1	消防学校の概要	46
2	教育訓練	46
第1表	令和元年度消防本部(局)別受講者数	47
第2表	令和元年度消防学校教育訓練実施状況	48
第3表	令和元年度消防大学校派遣者数	48

## [防災編]

### 第1章 災害の発生状況

1	令和元年中の災害発生状況	49
第1表	令和元年中の災害発生状況	49
2	過去5年間の災害発生状況	51

### 第2章 令和元年の天候概況

1	天候の特徴	60
2	月別気象概況	61

<b>第3章 防災訓練の実施状況</b>	
Ⅰ 総合防災訓練	6 4
Ⅱ 原子力防災訓練	6 8
Ⅲ 過去5年間の総合防災訓練等の実施状況	7 6
Ⅳ 市町別自主防災組織の結成状況	7 7

<b>第4章 令和元年度防災行政無線利用状況</b>	
1 無線局の現況	7 8
2 利用状況	8 0
3 多重局通信回数集計表	8 2
4 端末局無線通信回数調	8 3
5 非常通信訓練実施状況	8 4

<b>第5章 防災ヘリコプターの運航体制</b>	
1 運航基地	8 7
2 組織図	8 7
3 運航時間	8 7
4 活動業務	8 7
第1表 福井県防災ヘリコプター運航実績表	8 8

<b>第6章 衛星車載局の運用体制</b>	
1 収容	8 9
2 運用組織図	8 9
3 運用	8 9
4 主な仕様	8 9

## [保安編]

<b>第1章 高压ガス保安</b>	
概況	9 1
第1表 市町別高压ガス関係事業所数	9 2
第2表 ガスの種類別高压ガス製造事業所数	9 3
第3表 処理量別および製造形態別製造事業所数	9 4
第4表 高压ガス貯槽数	9 5
第5表 令和元年度高压ガス製造保安責任者試験実施状況	9 6
第6表 令和元年度高压ガス販売主任者試験実施状況	9 7
第7表 令和元年度液化石油ガス設備士試験実施状況	9 7
第8表 令和元年度高压ガス関係免状交付状況	9 7
第9表 令和元年度高压ガス関係申請状況	9 8
第10表 令和元年度高压ガス事故発生状況	9 9

<b>第2章 火薬類保安</b>	
概況	1 0 0
第1表 火薬類関係事業所数	1 0 1
第2表 銃砲関係事業所数	1 0 1
第3表 火薬類(爆薬)の消費量の推移	1 0 1
第4表 火薬類取扱および丙種火薬類製造保安責任者試験実施状況	1 0 1
第5表 令和元年度火薬類保安講習関係講習会実施状況	1 0 1
第6表 令和元年度火薬類許可申請等の状況	1 0 2
第7表 令和元年度事故発生状況	1 0 3

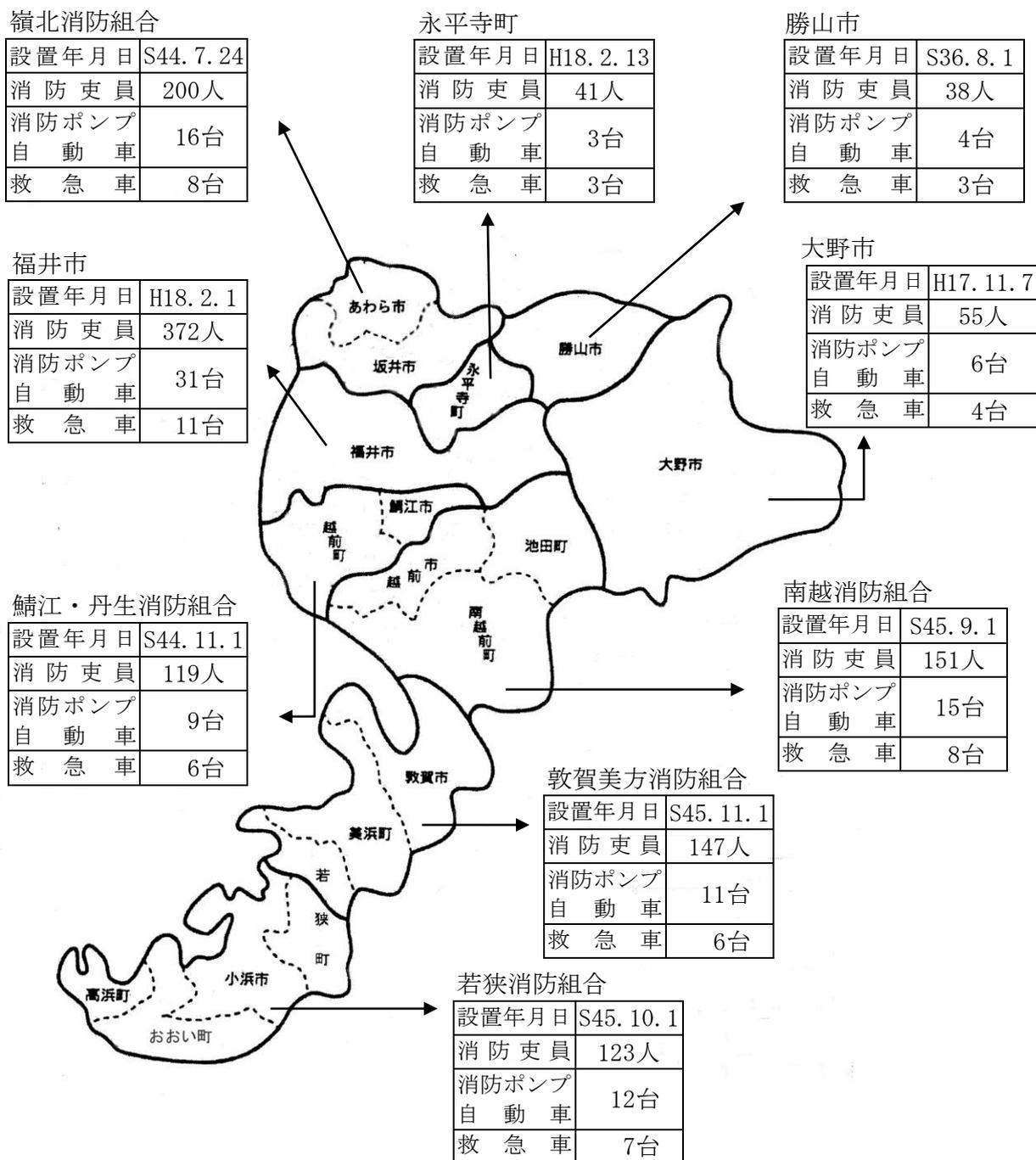


# 消 防 編



# 第1章 消防の概要

## 第1表 福井県常備消防体制(令和2年4月1日現在)



※台数については、消防団分を含まない

第2表 消防の概況表

面積（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」R2. 1. 1現在）		4,190.52 km <sup>2</sup>	
平成27年国勢調査（確定値）人口		786,740 人	
推計人口（令和2年4月1日現在）		764,076 人	
推計世帯数（令和2年4月1日現在）		289,357 世帯	
65歳以上高齢者数（福井県の推計人口 令和2年1月1日現在）		231,300 人	
高齢化率（ ” ” ）		30.3 %	
地域別人口	福井坂井地区（平成27年国勢調査 確定値）	404,796 人	
	奥越地区	57,234 人	
	丹南地区	184,783 人	
	嶺南地区	139,927 人	
令和元年火災状況	火災件数	170 件	
	うち	建物火災件数	103 件
		林野火災件数	4 件
	建物焼損面積	11,009 m <sup>2</sup>	
	林野焼損面積	30 a	
	損害額	1,040,114 千円	
	うち	建物火災	1,008,998 千円
	死者（自殺者数内数）	10 (1) 人	
負傷者	30 人		
出火率（人口1万人に対する出火件数） ※人口：平成31年3月31日現在		2.17 件	
令和元年救急状況	救急出場件数	30,091 件	
	うち	急病	18,600 件
		交通事故	2,389 件
		一般負傷	4,703 件
搬送人員		28,613 人	
消防本部・署所	消防本部	単独設置市	3
		単独設置町	1
		消防一部事務組合	5
	消防署数		19
	出張所数		28
	消防職員	消防吏員	1,246 人
		その他の職員	22 人
合計		1,268 人	
消防団	消防団数		18
	分団数		238
	消防団員	非常勤団員数	5,814 人
		常勤団員数	—
		合計	5,814 人

消 防 車 両 等	区 分		消防本部・署所	消 防 団	
	普通消防ポンプ自動車			54 台	136 台
水槽付消防ポンプ自動車			23 台	—	
はしご付消防ポンプ自動車			12 台	—	
屈折はしご付消防ポンプ自動車			2 台	—	
大型高所放水車			1 台	—	
泡原液搬送車			2 台	—	
化学消防自動車			15 台	—	
指揮車			20 台	—	
小型動力ポンプ付積載車			—	208 台	
小型動力ポンプ(車両に積載していないもの)			29 台	97 台	
広報車			34 台	—	
資機材搬送車			27 台	—	
屈折放水塔車			0 台	—	
救急自動車			56 台	—	
救助工作車			15 台	—	
その他の車両			27 台	—	
消 防 水 利	消火栓	公 設		18,651 個	
		私 設		98 個	
	防火水槽	100m <sup>3</sup> 以上		136 基	
		60m <sup>3</sup> 以上 100m <sup>3</sup> 未満		143 基	
		40m <sup>3</sup> 以上 60m <sup>3</sup> 未満		4,850 基	
		20m <sup>3</sup> 以上 40m <sup>3</sup> 未満		476 基	
	井戸	公 設		80 個	
		私 設		—	
そ の 他				573 個	
通 信 施 設 等	消防用無線		基地局および固定局		67 局
			移動局		936 局
	防災行政無線	市町	同報無線	同報親局	28 局
				同報受信設備	25,194 局
			移動無線	基地局	19 局
		移動局		767 局	
		県	固定系	地上系	29 局
				衛星系	71 局
	移動系		基地局等	19 局	
			移動局等	222 局	
	テレビ監視装置				2 基
	火災報知専用電話				104 回線
消防電話				224 回線	

## 第2章 火災の実態

### 1 概況

令和元年中の火災発生件数は170件、死者10人、負傷者33人、損害額10億4,011万円、焼損棟数155棟、り災世帯数86世帯、り災人員197人となっており、一日当たりの損害状況は第1表のとおりで、概ね毎日285万円が灰じんに帰していることになる。

火災発生件数、損害額および死傷者数の過去10年間の推移は、第1図、第2図のとおりであり、火災発生件数においては、平成25年中が最も多く、平成29年中が最も少ない。

### 2 出火件数および損害額の状況

#### (1) 出火件数

総出火件数は170件で、これを火災種別ごとにみると、第3図のように建物火災が103件で全体の60.6%を占め、林野火災4件(2.4%)、車両火災34件(20.0%)、その他火災29件(17.1%)となっている。

また、建物火災だけでみると、第4図のように一般住宅が28件(27.2%)で最も多く、次いで工場22件(21.4%)、共同住宅9件(8.7%)、事務所7件(6.8%)、併用住宅5件(4.9%)、飲食店5件(4.9%)、複合用途(特定)5件(4.9%)、その他22件(21.4%)となっている。

第3表の月別火災発生状況表を見ると、3月の発生件数が21件で最も多く、10月が6件と最も少ない。

第4表では、市町別の火災発生状況を示している。

#### (2) 損害額

損害額は10億4,011万円で、これを火災種別ごとにみると、第5図のように建物火災が10億899万円で全体の97%を占め、次いで車両火災約2,257万円(2.2%)となっている。火災1件当たりの損害額は約612万円となる。

第3表の月別火災発生状況表をみると、6月の損害額が約5億9,141万円で最も多く、7月が約171万円で最も少ない。

### 3 出火原因

全火災の出火原因別状況を表したのが第6図であり、出火原因別損害状況を表したのが第6表である。

第6図をみると、出火原因ではこんろが最も多く15件で8.8%を占め、次いで、たばこ12件(7.1%)、電気機器10件(5.9%)、電灯電話等の配線8件(4.7%)、排気管7件(4.1%)などとなっている。

#### 4 火災による死者の状況

死者の死因別発生状況を表したのが第7表であり、死者の経過別、年齢別発生状況を表したのが第8表である。

第7表をみると、死因では、火傷が3人、自殺が1人となっている。

また、令和元年中の死者に占める高齢者は3人で全体の30%となった。

第1表 1日当たりの損害状況

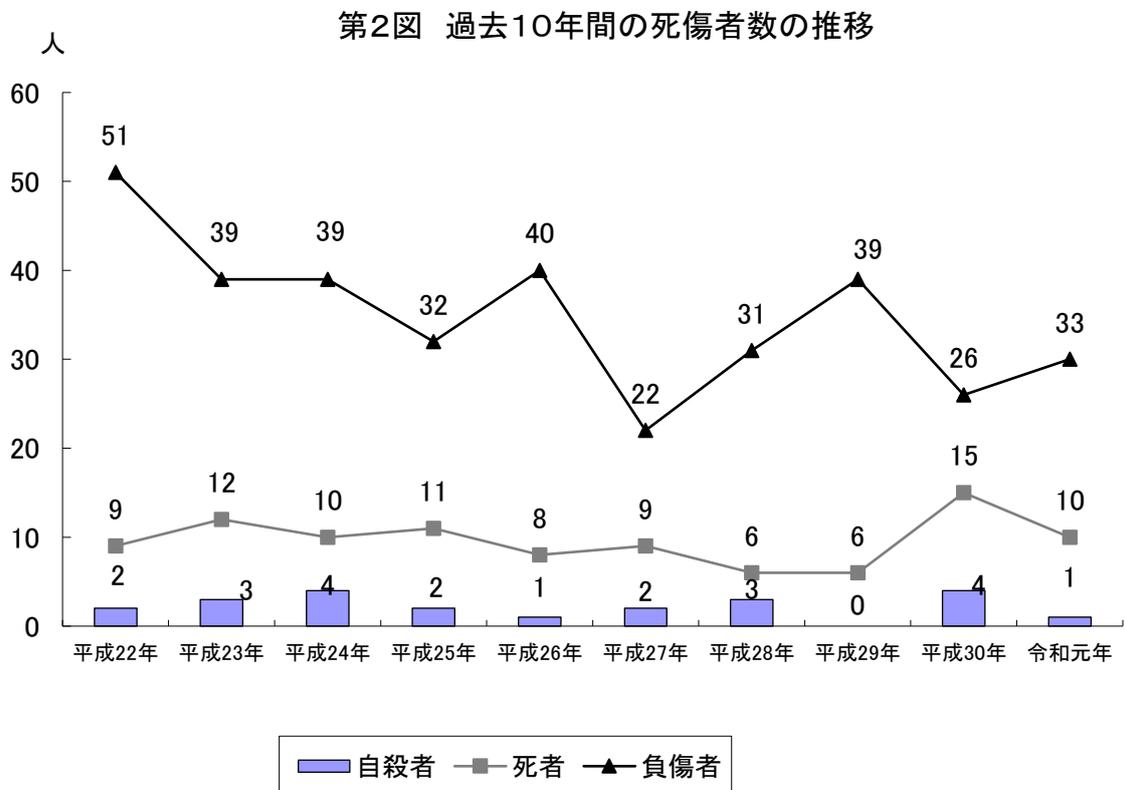
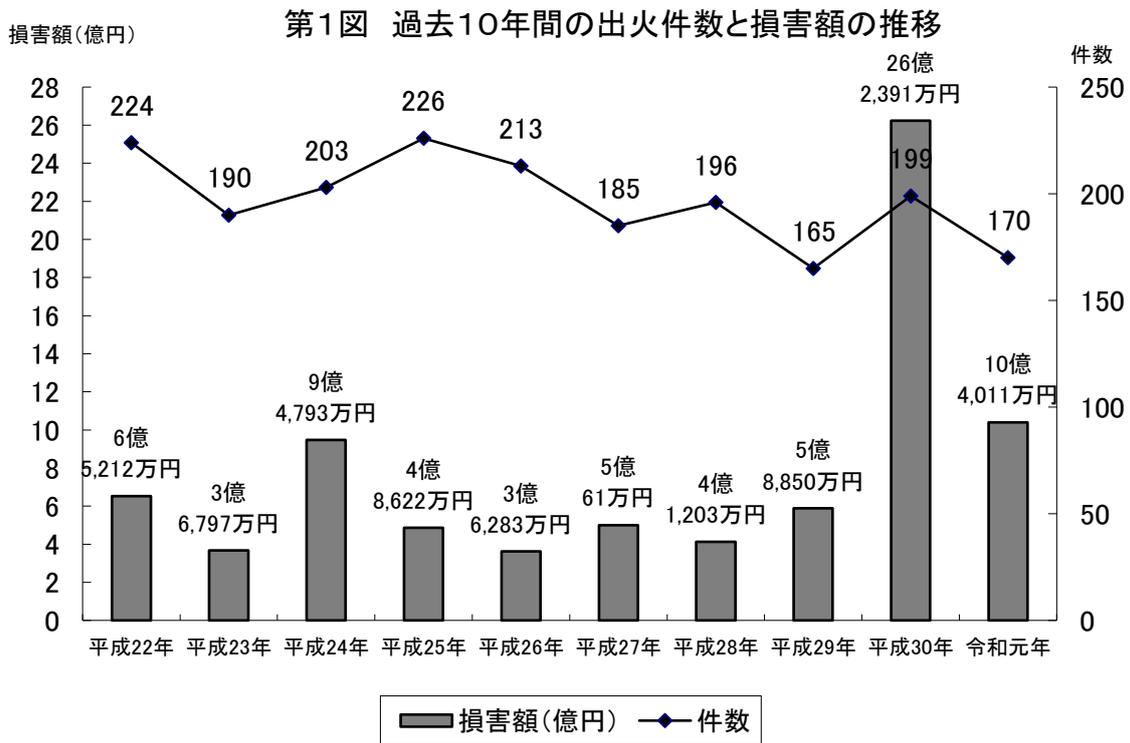
区 分	単位	令和元年 (A)	平成30年 (B)	対前年増加数 (A) - (B)
出 火 件 数	件	0.47	0.55	△0.08
損 害 額	万円	285	719	△434
焼 損 棟 数	棟	0.42	0.51	△0.09
り 災 世 帯 数	世帯	0.24	0.32	△0.08
り 災 人 員	人	0.54	0.84	△0.30

第2表 令和元年火災発生状況と前年比較表

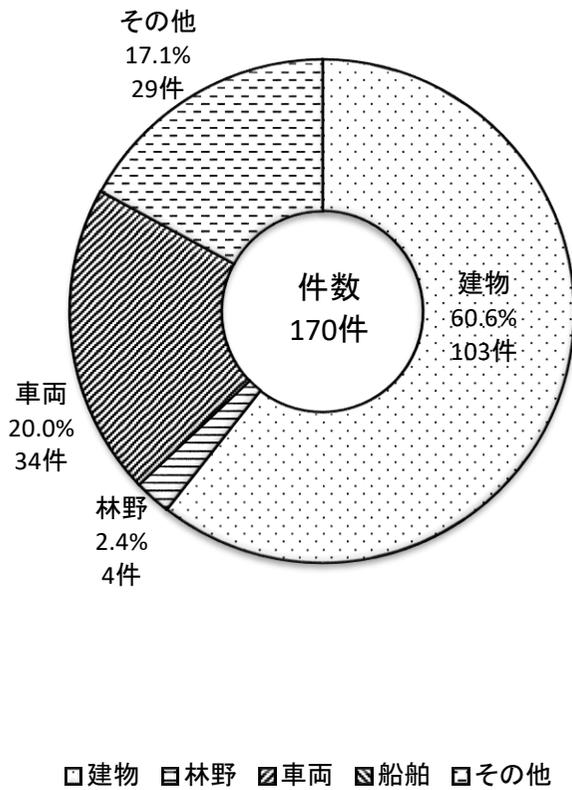
区 分	令和元年(A)	平成30年(B)	対前年増加数 (A) - (B) = (C)
総 出 火 件 数	170	199	△ 29
建 物	103	108	△ 5
林 野	4	4	0
車 両	34	33	1
船 舶	0	1	△ 1
そ の 他	29	53	△ 24
焼 損 棟 数 ( 棟 )	155	185	△ 30
全 焼	36	44	△ 8
半 焼	9	15	△ 6
部 分 焼	42	52	△ 10
ぼ や	68	74	△ 6
り 災 世 帯 数 ( 世 帯 )	86	118	△ 32
全 損	20	32	△ 12
半 損	7	10	△ 3
小 損	59	76	△ 17
り 災 人 員 ( 人 )	197	305	△ 108
建 物 焼 損 面 積 ( m <sup>2</sup> )	11,009	26,530	△ 15,521
林 野 焼 損 面 積 ( a )	30	29	1
損 害 額 合 計 ( 千 円 )	1,040,114	2,623,913	△ 1,583,799
建 物	1,008,998	2,330,254	△ 1,321,256
林 野	310	578	△ 268
車 両	22,567	32,053	△ 9,486
船 舶	0	116	△ 116
そ の 他	6,066	260,912	△ 254,846
爆 発	2,173	0	2,173
死 者 ( 人 )	10	15	△ 5
( ) は 放 火 自 殺 者 内 数	(1)	(4)	(△ 3)
建 物	9 (1)	10 (1)	△ 1 0
林 野	0	0	0
車 両	1	0	1 0
船 舶	0	0	0
そ の 他	0	5 (3)	△ 5 (△ 3)
負 傷 者 ( 人 )	33	26	7
建 物	25	22	3
林 野	0	0	0
車 両	4	2	2
船 舶	0	0	0
そ の 他	4	2	2
出 火 率 <small>(人口1万人に対する出火件数)</small>	2.17	2.53	

令和元年人口：平成31年3月31日現在の住民基本台帳人口による。

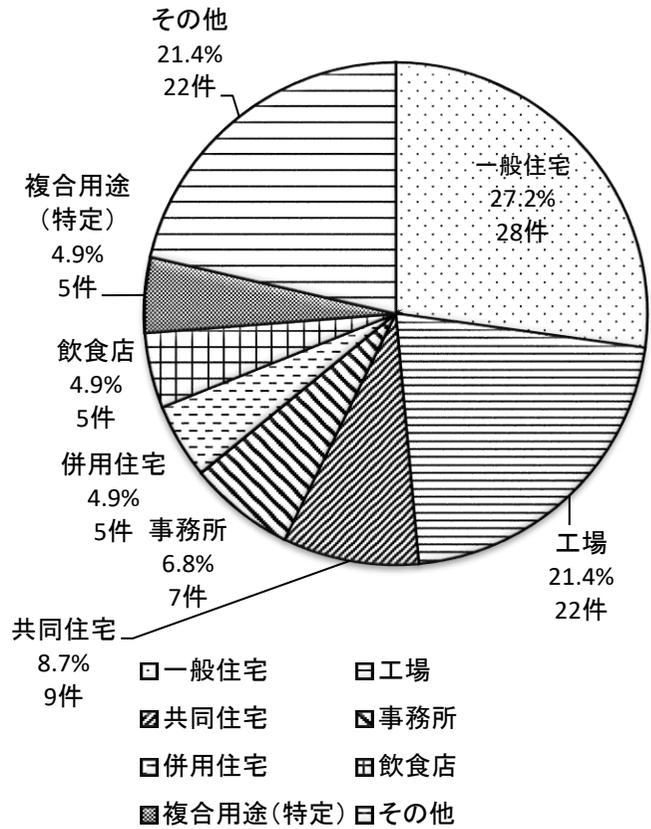
平成30年人口：平成30年3月31日現在の住民基本台帳人口による。



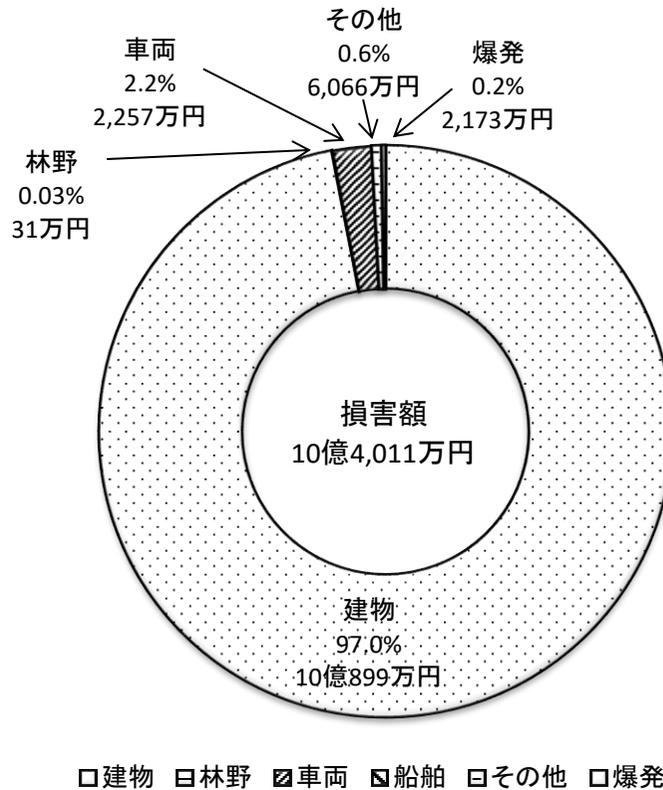
第3図 火災発生件数の内訳



第4図 うち建物火災件数の内訳



第5図 損害額の内訳



第3表 令和元年月別火災発生状況表

月	出火件数(件)					焼損棟数(棟)				焼損面積		り災世帯数(世帯)			り災人員(人)	死(内は放火自殺者)(人)	負傷者(人)	損害額(千円)									
	合計	建物	林野	車両	船舶	その他	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	建物(m <sup>2</sup> )	林野(a)	合計				全	半	小	合計	建物	林野	車両	船舶	その他	爆
1	13	10	0	2	0	1	10	0	1	3	6	41	0	6	0	1	5	14	1(1)	2	5,998	0	194	0	15	0	
2	16	8	0	4	0	4	24	5	1	12	6	1,345	0	12	2	0	10	33	1(0)	0	134,634	0	1,839	0	4,077	0	
3	21	14	1	2	0	4	13	3	0	2	8	802	1	5	1	3	13	0(0)	4	48,076	46,844	37	648	0	4	543	
4	18	8	2	6	0	2	8	1	1	0	6	270	26	4	0	1	3	7	0(0)	5	47,591	42,354	251	4,985	0	1	0
5	16	8	1	0	0	7	10	3	1	3	3	587	3	7	5	0	2	14	1(0)	4	62,672	61,241	22	0	0	26	1,383
6	10	9	0	0	0	1	15	7	1	3	4	4,142	0	7	0	1	6	20	4(0)	6	591,405	590,742	0	361	0	55	247
7	13	7	0	6	0	0	8	2	0	0	6	96	0	5	1	0	4	14	0(0)	2	1,709	840	0	869	0	0	0
8	13	6	0	5	0	2	9	2	0	3	4	712	0	6	3	0	3	15	0(0)	3	15,541	11,997	0	2,346	0	1,198	0
9	18	12	0	1	0	5	17	4	2	4	7	494	0	9	3	1	5	25	1(0)	4	39,550	38,524	0	465	0	561	0
10	6	2	0	3	0	1	3	1	0	1	1	155	0	1	0	0	0	4	0(0)	0	18,007	10,250	0	7,756	0	1	0
11	15	11	0	2	0	2	18	5	1	4	8	751	0	9	1	1	7	23	0(0)	2	37,501	36,260	0	1,126	0	115	0
12	11	8	0	3	0	0	20	3	1	7	9	1,614	0	15	3	1	11	15	2(0)	1	37,430	35,439	0	1,978	0	13	0
計	170	103	4	34	0	29	155	36	9	42	68	11,009	30	86	20	7	59	197	10(1)	33	1,040,114	1,008,998	310	22,567	0	6,066	2,173

第4表 市町別火災発生状況表

区分	出火件数(件)							焼損棟数(棟)					り災世帯数(世帯)				り災人員(人)
	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	計	全損	半損	小損	
福井市	51	38	0	7	0	0	6	52	10	4	14	24	32	7	4	21	71
敦賀市	12	6	0	4	0	0	2	6	0	2	1	3	4	1	1	2	15
小浜市	15	7	0	4	0	0	4	11	6	1	0	4	5	5	0	0	8
大野市	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
勝山市	6	3	1	0	0	0	2	5	1	0	2	2	4	1	0	3	15
鯖江市	18	15	0	3	0	0	0	15	1	0	2	12	6	1	0	5	17
あわら市	3	3	0	0	0	0	0	11	3	0	5	3	3	1	0	2	10
越前市	18	8	2	4	0	0	4	20	4	2	9	5	17	2	2	13	24
坂井市	23	15	0	4	0	0	4	22	5	0	8	9	12	2	0	10	33
市計	147	95	3	26	0	0	23	142	30	9	41	62	83	20	7	56	193
永平寺町	4	1	0	2	0	0	1	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0
池田町	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南越前町	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0
越前町	3	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
美浜町	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	2	0	0	2	3
高浜町	4	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0
おおい町	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
若狭町 (内訳)	5	1	0	2	0	0	2	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1
旧三方町 敦賀美方消防管轄	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧上中町 若狭消防管轄	4	1	0	2	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1
町計	23	8	1	8	0	0	6	13	6	0	1	6	3	0	0	3	4
県計	170	103	4	34	0	0	29	155	36	9	42	68	86	20	7	59	197

若狭町は、旧三方町と旧若狭町では消防の管轄が異なるため、内訳を記載

期間:平成31年1月1日～令和元年12月31日

死傷者数(人)		焼 損 面 積			損 害 額(千円)						
死 者	負 傷 者	建 物 床 (m <sup>2</sup> )	建 物 表 (m <sup>2</sup> )	林 野 (a)	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	爆 発
4	9	1,744	375	0	155,456	154,306	0	1,051	0	99	0
0	1	182	7	0	18,616	15,484	0	3,116	0	16	0
0	2	1,143	1	0	74,035	71,008	0	3,022	0	5	0
0	0	0	0	0	4,074	0	0	0	0	4,074	0
1	4	121	14	4	15,007	13,571	52	0	0	1	1,383
0	3	178	6	0	8,459	8,283	0	176	0	0	0
0	0	639	57	0	94,031	93,865	0	163	0	3	0
0	3	2,044	63	25	33,638	30,877	221	1,107	0	1,433	0
0	4	1,226	42	0	66,325	56,008	0	9,110	0	417	790
5	26	7,277	565	29	469,641	443,402	273	17,745	0	6,048	2,173
4	5	3,714	0	0	565,556	565,450	0	106	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	8	8	0	0	0	0	0
0	0	18	0	1	147	70	37	40	0	0	0
0	0	0	0	0	48	48	0	0	0	0	0
0	0	0	4	0	33	16	0	0	0	17	0
1	1	0	0	0	3,247	0	0	3,247	0	0	0
0	1	0	0	0	1,434	4	0	1,429	0	1	0
0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
0	1	0	0	0	1,433	4	0	1,429	0	0	0
5	7	3,732	4	1	570,473	565,596	37	4,822	0	18	0
10	33	11,009	569	30	1,040,114	1,008,998	310	22,567	0	6,066	2,173

第5表 市町別月別火災発生件数、損害額および出火率

区 分	総計		1月		2月		3月		4月		5月		6月	
	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)
福井市	51	155,456	5	5,479	3	818	6	9,917	8	42,145	5	24,340	3	20,840
敦賀市	12	18,616	1	73	1	35	2	17	3	2,666	2	31	0	0
小浜市	15	74,035	1	9	3	20	1	30,850	1	239	2	36,472	1	2,686
大野市	1	4,074	0	0	1	4,074	0	0	0	0	0	0	0	0
勝山市	6	15,007	0	0	1	0	0	0	2	53	1	1,383	0	0
鯖江市	18	8,459	1	195	1	1	5	6,256	0	0	1	400	0	0
あわら市	3	94,031	0	0	2	94,026	0	0	0	0	1	5	0	0
越前市	18	33,638	1	34	1	288	3	452	1	199	1	22	1	532
坂井市	23	66,325	4	208	1	33,901	1	543	1	700	2	2	3	1,885
市 計	147	469,641	13	5,998	14	133,163	18	48,035	16	46,002	15	62,655	8	25,943
永平寺町	4	565,556	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	565,450
池田町	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
南越前町	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
越前町	3	147	0	0	0	0	1	37	0	0	0	0	0	0
美浜町	2	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高浜町	4	33	0	0	0	0	1	4	1	0	1	17	1	12
おおい町	3	3,247	0	0	1	1,471	0	0	1	1,589	0	0	0	0
若狭町 (内訳)	5	1,434	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧三方町 <small>敦賀美方消防管轄</small>	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧上中町 <small>若狭消防管轄</small>	4	1,433	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
町 計	23	570,473	0	0	2	1,471	3	41	2	1,589	1	17	2	565,462
県 計	170	1,040,114	13	5,998	16	134,634	21	48,076	18	47,591	16	62,672	10	591,405

若狭町は、旧三方町と旧若狭町では消防の管轄が異なるため、内訳を記載した。

出火率(人口1万人に対する出火件数)は、平成31年3月31日現在の住民基本台帳人口により算定

期間:平成31年1月1日～令和元年12月31日

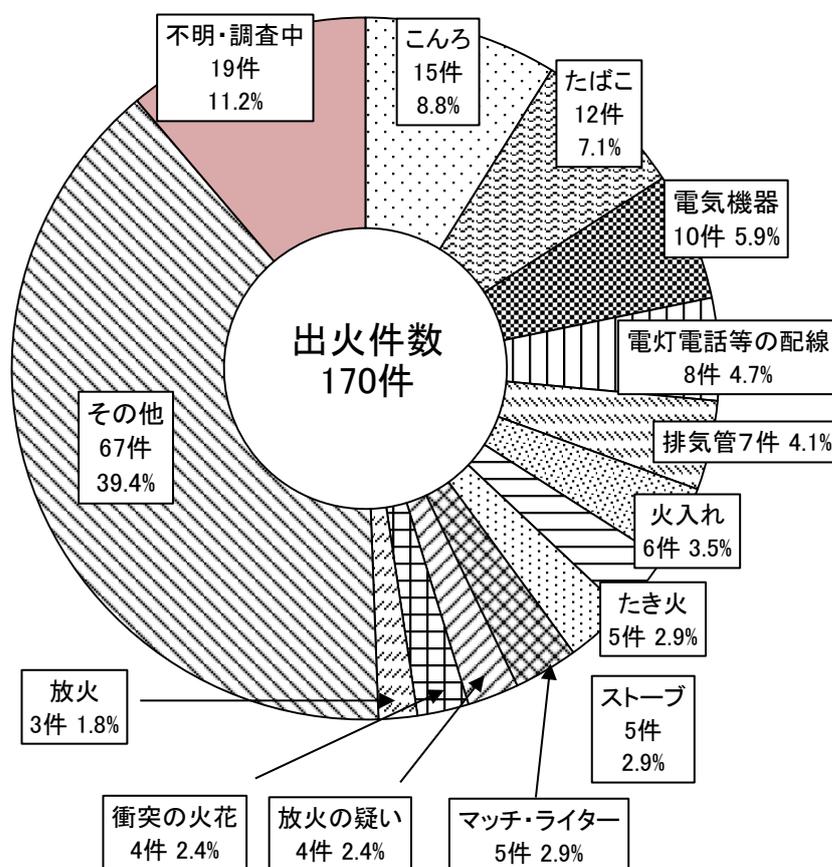
7月		8月		9月		10月		11月		12月		出火率 (人口 1万人に 対する 出火件数)
件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	
5	168	2	5,462	5	489	1	10,150	4	24,084	4	11,564	1.94
0	0	1	462	1	11,669	0	0	1	3,663	0	0	1.83
1	747	2	1,083	0	0	0	0	1	5	2	1,924	5.13
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.30
0	0	0	0	2	13,571	0	0	0	0	0	0	2.59
1	14	1	86	2	1,211	3	114	1	58	2	124	2.59
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.06
1	12	5	8,385	2	247	0	0	1	3	1	23,464	2.18
2	172	1	23	4	12,285	1	7,742	2	8,514	1	350	2.51
10	1,113	12	15,501	16	39,472	5	18,006	10	36,327	10	37,426	2.14
1	31	0	0	0	0	0	0	2	75	0	0	2.16
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.89
0	0	0	0	1	8	0	0	0	0	0	0	0.94
0	0	1	40	1	70	0	0	0	0	0	0	1.39
0	0	0	0	0	0	0	0	2	48	0	0	2.11
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.84
1	187	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.64
1	378	0	0	0	0	1	1	1	1,051	1	4	3.38
0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	
1	378	0	0	0	0	0	0	1	1,051	1	4	
3	596	1	40	2	78	1	1	5	1,174	1	4	2.39
13	1,709	13	15,541	18	39,550	6	18,007	15	37,501	11	37,430	2.17

第6表 全火災の出火原因別損害状況表

期間：平成31年1月1日～令和元年12月31日

出火原因	出火件数(件)	焼損床面積(m <sup>2</sup> )	焼損棟数(棟)	り災世帯数(世帯)	損害額(千円)
こ ん ろ	15	430	18	11	42,531
た ば こ	12	265	12	9	19,475
電 気 機 器	10	208	6	2	24,563
電灯電話等の配線	8	998	13	11	61,097
排 気 管	7	0	0	0	912
火 入 れ	6	486	1	0	12,492
た き 火	5	0	0	0	89
ス ト ー ブ	5	563	6	4	29,235
マッチ・ライター	5	0	1	1	1,107
放 火 の 疑 い	4	0	4	0	531
衝 突 の 火 花	4	0	0	0	2,576
放 火	3	0	2	1	30
そ の 他	67	1,996	55	22	192,373
不 明 ・ 調 査 中	19	6,063	37	25	653,103
合 計	170	11,009	155	86	1,040,114

第6図 全火災の出火原因別状況



第7表 死者の死因別発生状況表

死因 火災種別	一酸化炭素 中毒・窒息	火傷	打撲・骨折 等	自殺	その他	不明	合計(人)
建 物 火 災	0	3	0	1	0	5	9
林 野 火 災	0	0	0	0	0	0	0
車 両 火 災	0	0	0	0	1	0	1
そ の 他 火 災	0	0	0	0	0	0	0
合 計 ( 人 )	0	3	0	1	1	5	10

第8表 死者の経過別および年齢別発生状況表

経過別 年齢別(歳)	0 ～ 5	6 ～ 10	11 ～ 20	21 ～ 30	31 ～ 40	41 ～ 50	51 ～ 60	61 ～ 64	65 ～ 70	71 ～ 80	81～	不明	合計 (人)
熟睡により発見遅れる											1		1
延焼拡大早く避難できず							1				1		2
放火自殺							1						1
その他				1									1
不明・調査中				2			2		1				5
合計(人)	0	0	0	3	0	0	4	0	1	0	2	0	10

## 第3章 救急業務の実態

### 1 救急体制

災害により生じた事故もしくは屋外もしくは公衆の出入りする場所、または屋内において生じた事故で、迅速に搬送する手段がない場合に傷病者を医療機関等へ搬送する業務が救急業務であるが、令和2年4月1日現在、第1表のとおり、救急自動車56台(うち高規格救急自動車56台)、救急隊員531名(うち救急救命士244名)で救急業務にあたっている。

### 2 救急医療体制

救急隊が搬送する傷病者を受け入れる救急告示医療機関数は、令和2年4月1日現在、第2表のとおり51施設である。

### 3 救急活動状況

救急活動状況を表したのが第3表であり、救急出場件数は30,091件、搬送人員は28,613人となっている。県内1日あたりの出場件数は約82件となり、約18分に1回の割合で救急隊が出場したことになる。

過去10年間の出場件数および搬送人員の推移を表したのが第1図であり、出場件数、搬送人員ともに平成30年まで増加傾向にあったが、令和元年は災害や猛暑による救急需要が少なかったこともあり、いずれも前年比で約3%の減少となった。

出場件数、搬送人員の事故種別内訳を表したのが第2図、第3図であり、出場件数の事故種別内訳では、急病が18,600件で、全体の61.8%を占め、次いで一般負傷4,703件(15.6%)、交通事故2,389件(7.9%)などとなっている。搬送人員では急病が17,521人で全体の61.2%を占め、次いで一般負傷4,514人(15.8%)、交通事故2,584人(9.0%)などとなっている。

第1表 救急体制状況表

令和2年4月1日現在

消防(局)本部名	救急自動車			救急隊員					
	高規格救急車	通常型	合計	専任		兼任		合計	
				救急救命士		救急救命士		救急救命士	
福井市	11	0	11	54	38	27	18	81	56
大野市	4	0	4			46	17	46	17
勝山市	3	0	3			28	9	28	9
永平寺町	3	0	3			36	14	36	14
嶺北消防組合	8	0	8			90	35	90	35
鯖江・丹生消防組合	6	0	6			90	35	90	35
南越消防組合	8	0	8			74	27	74	27
敦賀美方消防組合	6	0	6	18	14	18	13	36	27
若狭消防組合	7	0	7	7	5	43	19	50	24
合計	56	0	56	79	57	452	187	531	244

第2表 医療機関状況表

令和2年4月1日現在

告示別	種別	国・公立	公的	私的		合計
				病院	診療所	
救急告示医療機関		7	5	28	11	51
その他の医療機関		14	7	24	473	518
合計		21	12	52	484	569

第3表 救急活動状況表

(令和元年中)

	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
救急出場件数	30,091	103	1	62	2,389	364	223	4,703	70	202	18,600	3,374
搬送人員	28,613	20	1	24	2,584	364	226	4,514	60	127	17,521	3,172

第4表 高速自動車道における救急活動状況表

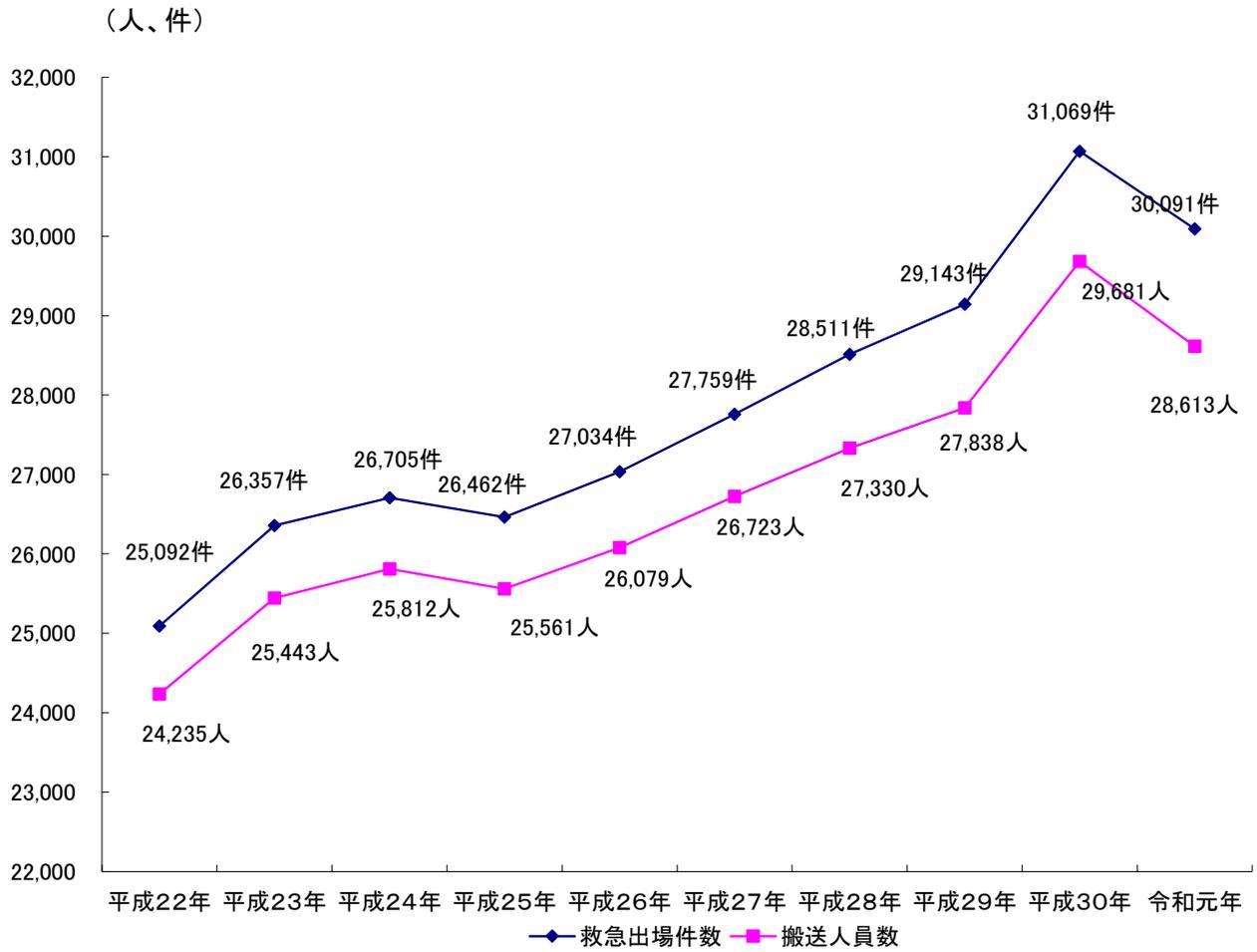
(令和元年中)

高速道路名	北陸自動車道										小計
担当消防本部名	嶺北消防組合消防本部		福井市消防局		鯖江・丹生消防組合消防本部		南越消防組合消防本部		敦賀美方消防組合消防本部		
I C 名	金津	丸岡	福井北	福井	鯖江	武生	今庄	敦賀			
救急出動数	4	10	3	5	8		17	27	27		101
搬送人員	3	10	3	5	9		17	29	30		106

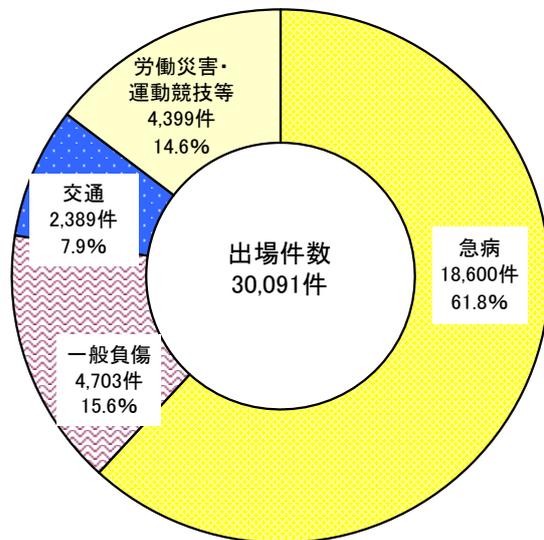
  

高速道路名	舞鶴若狭自動車道										小計	計
担当消防本部名	敦賀美方消防組合消防本部					若狭消防組合消防本部						
I C 名	舞鶴美浜	若狭三方	敦賀南	三方五湖	大飯高浜	小浜西	小浜	若狭上中	三方五湖			
救急出動数	2	1	5	3	3	0	2	0	0	16	117	
搬送人員	2	1	3	3	5	0	1	0	0	15	121	

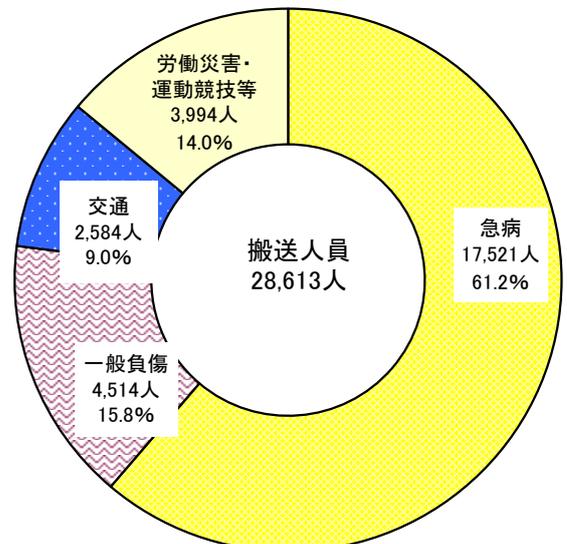
第1図 過去10年間の救急活動の推移



第2図 出場件数の事故種別内訳



第3図 搬送人員の事故種別内訳



## 第4章 予 防 行 政 の 概 況

### 1 防火対象物定期点検報告制度

不特定多数の人が出入りするなど一定の防火対象物について、所有者や賃借人等のうち管理について権原を有する人が、火災予防のために資格者による定期点検を行い、その結果を消防機関へ報告する制度である。

この制度による平成31年4月1日から令和2年3月31日までの状況は第1表のとおりである。

**第1表 防火対象物定期点検報告制度実施状況表**

防火対象物の区分			点検を要する 防火対象物数		点検報告済 防火対象物数		特例認定済 防火対象物数	
			第1号該当	第2号該当	第1号該当	第2号該当	第1号該当	第2号該当
1	イ	劇場、映画館、演芸場または観覧場	33		14		7	
	ロ	公会堂または集会場	219	1	102	1	40	
2	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブその他これらに類するもの						
	ロ	遊技場またはダンスホール	56		34		8	
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等						
	ニ	カラオケボックス等	3		3			
3	イ	待合、料理店その他これらに類するもの	3	9	3	3		
	ロ	飲食店	6	43	5	10		
4		百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗または展示場	186	18	120		10	1
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所その他これらに類するもの	39	81	21	22	10	24
6	イ	病院、診療所または助産所	36	7	19	2	10	4
	ロ	老人短期入所施設、養護老人ホーム、精神障害者社会復帰施設等	5	4	2	1	3	
	ハ	老人デイサービスセンター、老人福祉センター、精神障害者社会復帰施設（軽微）等	2	3	3	1	1	
	ニ	幼稚園または特別支援学校	2		1			
9	イ	公衆浴場のうち、蒸気浴場、熱気浴場その他これらに類する公衆浴場	3				1	
16	イ	複合用途防火対象物のうち、その一部が上記に該当する用途に供されているもの	205	43	102	9	29	3
16の2		地下街						
合 計			798	209	429	49	119	32

**【備考】**

- ・点検報告済防火対象物とは、1年に1回、防火対象物点検資格者による点検報告が必要なもので、点検の結果、点検基準に適合していると認められた防火対象物。「防火基準点検済証」を表示することができる。
- ・特例認定済防火対象物とは、一定の要件を満たしているもので、申請によって点検報告の義務が3年間免除される防火対象物「防火優良認定証」を表示することができる。
- ・第1号該当とは、収容人員が300人以上の防火対象物
- ・第2号該当とは、収容人員が30人以上300人未満の防火対象物で次の要件に該当する防火対象物
  - 特定用途部分が地階または3階以上に存するもの（避難階は除く）
  - 階段が2以上設けられていないもの
- ・調査基準日…令和2年3月31日
- ・調査期間……平成31年4月1日～令和2年3月31日

## 2 消防設備士試験および講習の状況

消防設備士は、甲種・乙種合わせて651人の受験者に対して249人が合格し、合格率は38.2%であった。その状況は第2表のとおりである。

また、免状所有者に対する義務講習は611人が受講した。その状況は第3表のとおりである。

### 第2表 消防設備士試験実施状況表

試験日：令和元年8月25日（日）

令和2年2月16日（日）

区 分	令和元年度								免状交付延べ数	
	受験者数（人）		合格人数（人）		合格率（%）		免状交付数			
	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種
特 類	2		0		0.0%		0		19	
第 1 類	61	18	12	5	19.7%	27.8%	9	3	1,265	315
第 2 類	14	9	6	5	42.9%	55.6%	4	6	366	340
第 3 類	24	8	12	2	50.0%	25.0%	12	2	292	111
第 4 類	159	69	48	30	30.2%	43.5%	47	28	2,863	68
第 5 類	22	7	5	0	22.7%	0.0%	3	0	315	1155
第 6 類		170		65		38.2%		64		127
第 7 類		88		59		67.0%		45		3,316
計	282	369	83	166	29.4%	45.0%	75	148	5,120	5,432

### 第3表 消防設備士法定講習実施状況表

区 分	受 講 対 象 者 区 分	受講者数（人）	実 施 年 月 日
消 火 設 備	(甲・乙)第1類, 第2類, 第3類 消防設備士	115	令和元年8月27日（火）
避難設備・消火器	(甲・乙)第5類, (乙)第6類 消防設備士	163	令和元年8月28日（水）
警 報 設 備	(甲・乙)第4類, (乙)第7類 消防設備士	333	令和元年8月29日（木） 令和元年8月30日（金）
合 計		611	

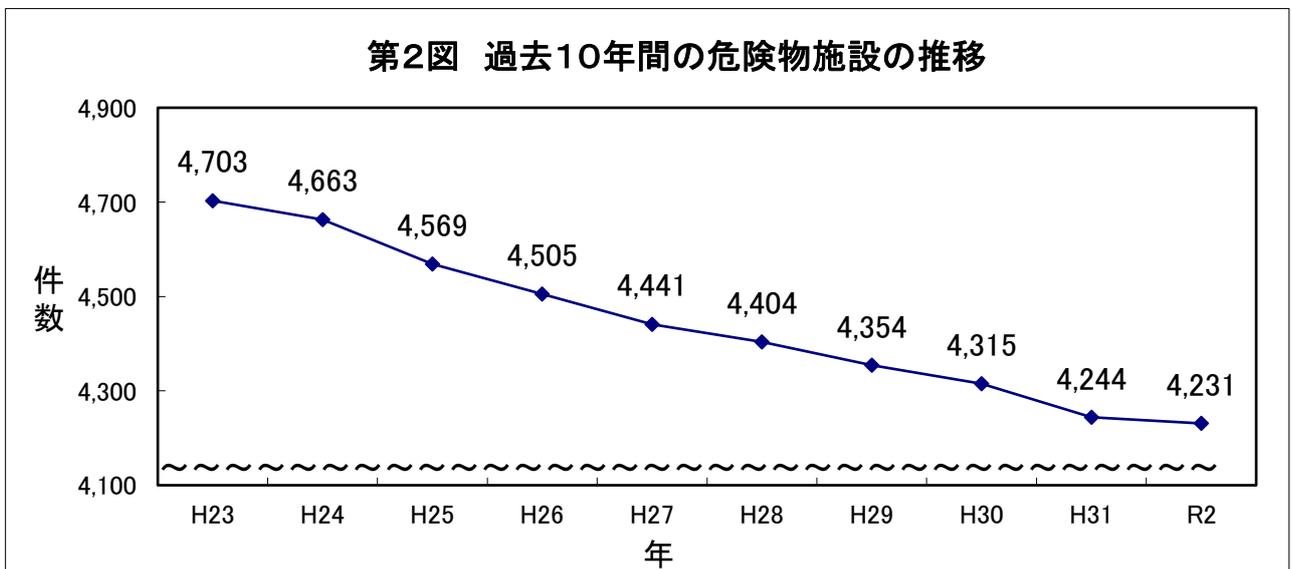
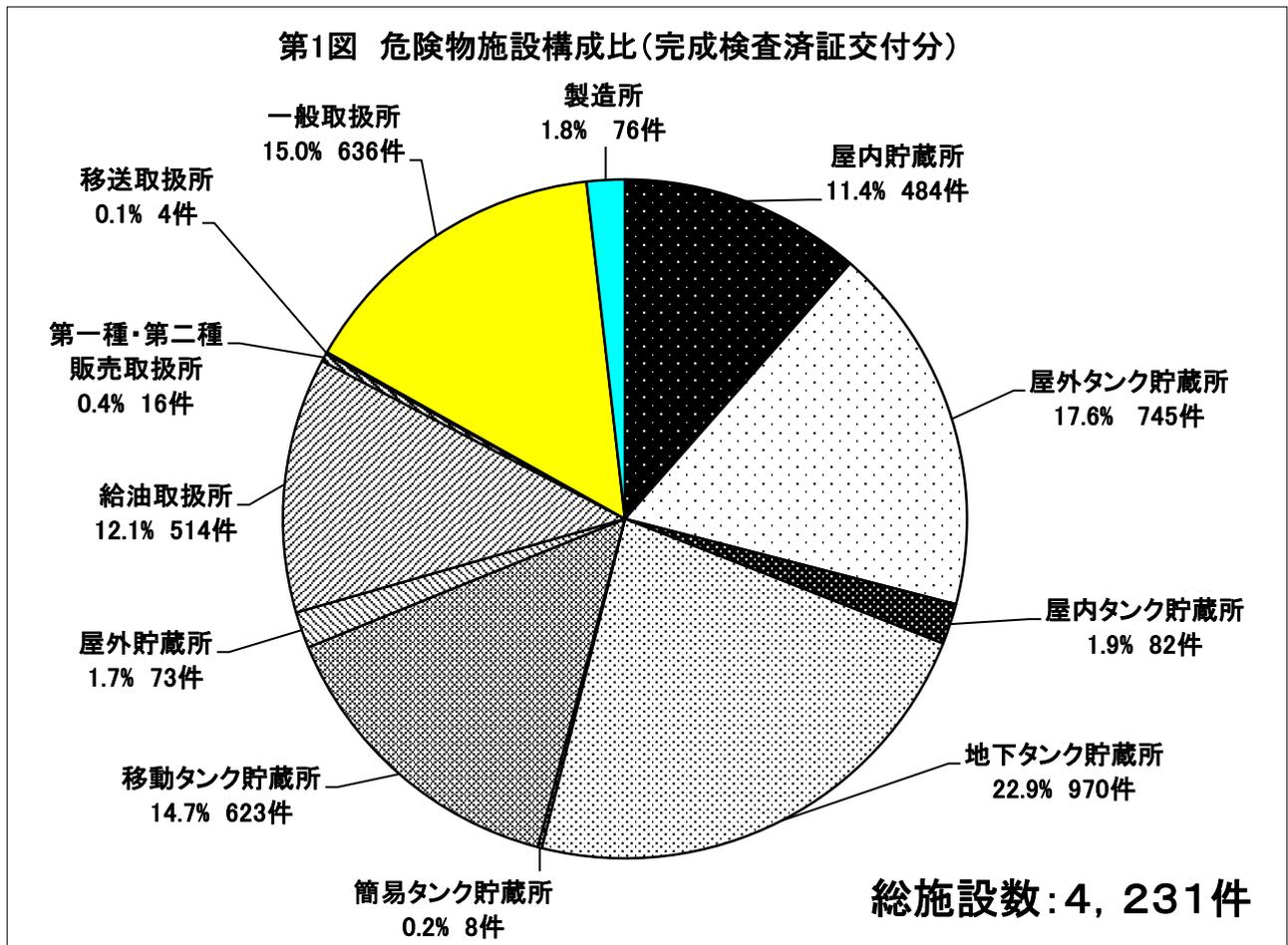
## 第5章 危険物規制

### 1 概況

(1) 危険物規制は、福井市、大野市、勝山市および永平寺町においては当該市町が、またその他の市町においてはそれぞれの加入する消防組合が行なっている。

なお、県内の総施設数は第1図のとおりである。(令和2年3月31日現在)

(2) 危険物の総施設数の推移は第2図のとおり減少傾向であり、前年に対し13件減少している。



第1表 施設別危険物施設数

令和2年3月31日現在

危険物施設の別 消防(局)本部名	製 造 所 (A)	貯 蔵 所										取 扱 所					合 計 (A + B + C)	事 業 所	
		屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タン ク 貯 蔵 所	準 特 定 屋 外 タン ク 貯 蔵 所	特 定 屋 外 タン ク 貯 蔵 所	屋 内 タン ク 貯 蔵 所	地 下 タン ク 貯 蔵 所	簡 易 タン ク 貯 蔵 所	移 動 タン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計 (B)	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所	一 般 取 扱 所			小 計 (C)
福 井 市	21	109	190	5	20	27	259	1	167	18	771	131	8	0	1	139	279	1,071	517
大 野 市	0	8	15	0	0	0	50	0	34	0	107	24	0	0	0	26	50	157	92
勝 山 市	3	8	28	0	0	1	44	0	19	2	102	17	0	0	0	20	37	142	80
永 平 寺 町	0	4	5	0	0	2	21	0	15	0	47	7	0	0	0	11	18	65	37
嶺北消防組合	31	99	182	3	36	11	171	1	113	22	599	89	0	0	2	165	256	886	317
鯖江・丹生消防組合	5	61	60	0	0	6	112	0	47	9	295	43	3	4	0	49	99	399	276
南越消防組合	12	74	109	0	0	11	115	2	79	84	474	64	0	0	0	75	139	625	248
敦賀美方消防組合	1	58	103	7	8	14	123	0	92	5	395	92	0	0	1	94	187	583	225
若狭消防組合	3	63	53	0	0	10	75	4	52	2	259	50	1	0	0	57	108	370	154
合 計	76	484	745	15	64	82	970	8	618	142	3,049	517	12	4	4	636	1,173	4,298	1,946

- 注：1 貯蔵所および取扱所の区分は危険物の規制に関する政令の区分による（以下の表においても同様）。
- 2 本表には、設置を許可した施設のうち、完成検査済証を交付した施設数から廃止届を受理した施設数を除いた数を記載（以下の表においても同様）
- 3 準特定屋外タンク貯蔵所には、屋外タンク貯蔵所のうち、貯蔵し、または取り扱う液体の危険物の最大数量が五百キロリットル以上千キロリットル未満のものを記載（以下の表においても同様）
- 4 特定屋外タンク貯蔵所数は、屋外タンク貯蔵所のうち、貯蔵し、または取り扱う液体の危険物の最大数量が千キロリットル以上のものを記載（以下の表においても同様）
- 5 事業所数は、危険物施設を有する事業所の数を記載

第2表 指定数量別および類別危険物施設数

令和2年3月31日現在

危険物施設の別 数量別・類別	製 造 所 (A)	貯 蔵 所									取 扱 所						合 計 (A + B + C)		
		屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	準 特 定 屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	特 定 屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計 (B)	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所	一 般 取 扱 所		小 計 (C)	
5倍以下	3	215	130			57	523	8	470	19	1,422	38	6			273	317	1,742	
5倍を超えて10倍以下	7	112	103			20	226		16	24	501	54	3			155	212	720	
10 " 50 "	37	87	254			5	159		23	27	555	134	3	4		125	266	858	
50 " 100 "	14	20	87				34		88	2	231	72				36	108	353	
100 " 150 "	3	25	45				15		25		110	53				17	70	183	
150 " 200 "		9	8	1			5			1	23	59				8	67	90	
200 " 1,000 "	12	14	52	9	3		8		1		75	104				15	119	206	
1,000 " 5,000 "		2	25	5	20						27					3	3	30	
5,000 " 10,000 "			3		3						3					2	2	5	
10,000倍を超えるもの			38		38						38				4	2	6	44	
合 計	76	484	745	15	64	82	970	8	623	73	2,985	514	12	4	4	636	1,170	4,231	
単 独	第 1 類	1	10								10							11	
	第 2 類	1	4								4					3	3	8	
	第 3 類		3								3					5	5	8	
	第 4 類	52	423	741	15	64	82	970	8	623	72	2,919	514	12	4	4	602	1,136	4,107
	第 5 類		17	2							19								19
	第 6 類			2							2								2
混 在	22	27								1	28					26	26	76	
合 計	76	484	745	15	64	82	970	8	623	73	2,985	514	12	4	4	636	1,170	4,231	

注：1 数量別の欄は、危険物施設で貯蔵または取り扱う危険物の最大数量（許可数量）を指定数量の倍数によって表したものである。  
 2 類別の欄の単独には、類を同じくする危険物のみを貯蔵または取り扱っている危険物施設の数、混在には、類を異にする危険物を貯蔵または取り扱っている危険物施設の数に記載

第3表 危険物施設に対する立入検査状況

平成31年4月1日から  
令和2年3月31日まで

危険物施設の別 製造所 (A)		貯蔵所								取扱所					合計 (A+B+C)		
		屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計 (B)	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所		小計 (C)	
消防(局)本部名	検査施設数	21	101	186	22	237	1	171	13	731	129	6		1	130	266	1,018
	延回数	23	105	188	22	247	1	182	13	758	175	6		1	139	321	1,102
福井市	検査施設数					8		29		37	1					1	38
	延回数					8		29		37	1					1	38
大野市	検査施設数																
	延回数																
勝山市	検査施設数	2	2	9	1	29		19	1	61	16				20	36	99
	延回数	2	2	9	1	29		19	1	61	16				20	36	99
永平寺町	検査施設数		4	5	2	21		15		47	7				11	18	65
	延回数		4	5	2	21		15		47	7				11	18	65
嶺北消防組合	検査施設数	23	55	106	5	109	1	116	15	407	78			2	101	181	611
	延回数	23	55	106	5	109	1	116	15	407	79			2	101	182	612
鯖江・丹生消防組合	検査施設数	1	11	21		28		48	2	110	3				19	22	133
	延回数	1	11	21		28		48	2	110	3				19	22	133
南越消防組合	検査施設数	1	3	4		16		67		90	34				15	49	140
	延回数	1	3	4		16		71		94	35				15	50	145
敦賀美方消防組合	検査施設数	1	6	32	6	51		97		192	35				32	67	260
	延回数	1	6	32	6	51		97		192	35				32	67	260
若狭消防組合	検査施設数		13	23	3	28	2	45		114	29				25	54	168
	延回数		13	24	3	28	2	45		115	29				25	54	169
合計	検査施設数	49	195	386	39	527	4	607	31	1,789	332	6		3	353	694	2,532
	延回数	51	199	389	39	537	4	622	31	1,821	380	6		3	362	751	2,623

注：1 検査施設数の欄は、立入検査を行った施設数を危険物施設の区分ごとに記載  
2 延回数の欄は、立入検査を行った延回数を危険物施設の区分ごとに記載

第4表の1 容量別屋外タンク貯蔵所数

令和2年3月31日現在

消防(局)本部名 容量別	福	大	勝	永	嶺	鯖	南	敦	若	合
	井	野	山	平	北	江・	越	賀	狭	計
	市	市	市	町	消	・	消	美	消	
					防	丹	防	方	防	
					組	生	組	消	組	
					合	消	合	防	合	
						防		組		
						組		合		
						合				
100kl未満	148	15	28	5	130	43	103	63	47	582
100kl～500kl未満	17	0	0	0	17	17	10	25	6	92
500kl～1,000kl未満	5	0	0	0	3	0	0	7	0	15
1,000kl～5,000kl未満	0	0	0	0	21	0	0	8	0	29
5,000kl～10,000kl未満	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
10,000kl～50,000kl未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50,000kl～100,000kl未満	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
100,000kl以上	20	0	0	0	10	0	0	0	0	30
合計	190	15	28	5	186	60	113	103	53	753

第4表の2 品名別屋外タンク貯蔵所数

令和2年3月31日現在

品名別 容量別	第4類										第4類以外の類(B)	合計(A+B)
	原	ナ	ガ	灯	軽	重	第4	アル	そ	小		
	油	フ	ソ	油	油	油	石	コ	の	計		
		サ	リ				油	ール	他	(A)		
			ン				類	類		)		
100kl未満	0	0	0	75	35	172	18	54	212	566		566
100kl～500kl未満	0	0	0	3	16	41	7	0	24	91		91
500kl～1,000kl未満	3	0	1	0	1	7	0	0	3	15		15
1,000kl～5,000kl未満	0	0	6	3	4	9	0	0	7	29		29
5,000kl～10,000kl未満	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2		2
10,000kl～50,000kl未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
50,000kl～100,000kl未満	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3		3
100,000kl以上	30	0	0	0	0	0	0	0	0	30		30
合計	33	0	7	83	56	232	25	54	246	736	0	736

第5表 危険物取扱者試験実施状況

区 分 種 別		平成28年度 合 格 率 ( % )	平成29年度 合 格 率 ( % )	平成30年度 合 格 率 ( % )	令和元年度		
					受 験 者 数 ( 人 )	合 格 者 数 ( 人 )	合 格 率 ( % )
甲 種		32.1	30.9	37.9	159	63	39.6
乙 種	第 1 類	65.9	60.4	63.0	189	129	68.3
	第 2 類	76.0	74.1	71.8	174	116	66.7
	第 3 類	68.1	63.8	59.6	188	132	70.2
	第 4 類	27.0	34.3	37.8	2,570	997	38.8
	第 5 類	68.1	66.4	65.0	192	138	71.9
	第 6 類	66.5	58.5	63.2	226	133	58.8
	小 計	39.2	43.8	45.4	3,539	1,645	46.5
丙 種		57.5	58.7	51.2	537	263	49.0
合 計		41.0	45.3	46.0	4,235	1,971	46.5

第6表 危険物取扱者保安講習実施状況

区 分 講習種別		平成28年度 受 講 者 数 ( 人 )	平成29年度 受 講 者 数 ( 人 )	平成30年度 受 講 者 数 ( 人 )	令和元年度	
					受 講 者 数 ( 人 )	講 習 実 施 回 数 ( 回 )
給 油 取 扱 所		456	410	425	461	8
石 油 コ ン ビ ナ ー ト		50	56	44	51	1
そ の 他		1,471	1,456	1,647	1,584	11
合 計		1,977	1,922	2,116	2,096	20

- 注：1 「給油取扱所」は、給油取扱所において危険物の取扱作業に従事している危険物取扱者を対象とした講習種別である。
- 2 「石油コンビナート」は、石油コンビナート等災害防止法上の特定事業所における危険物施設において危険物の取扱作業に従事する危険物取扱者を対象とした講習種別である。
- 3 「その他」は、「給油取扱所」および「石油コンビナート」以外の危険物施設において危険物の取扱作業に従事する危険物取扱者を対象とした講習種別である。

## 2 危険物施設の火災および漏えい事故等

- (1) 過去5年間における危険物の災害事故発生件数は、平成28年が9件と最も多い。  
 (2) 過去5年間の危険物施設別の災害事故発生件数は、移動タンク貯蔵所での事故が12件と最も多い。

第7表 過去5年間の危険物施設における災害事故発生件数

年	危険物施設の別 内訳	製造所 (A)	貯蔵所							取扱所					その他 (D)	合計 (A+B+C+D)	
			屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計 (B)	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所			一般取扱所
平成27年	火災	1							0						0		1
	漏えい							2	2	1				1	2		4
	その他			1					1						0		1
平成28年	火災								0					4	4		4
	漏えい							1	1					1	1		2
	その他							2	2					1	1		3
平成29年	火災	1							0						0		1
	漏えい					1			1						0		1
	その他								0					1	1		1
平成30年	火災								0					1	1		1
	漏えい							2	2	1					1		3
	その他	1							0	1					1		2
令和元年	火災	3							0						0		3
	漏えい							3	3						0		3
	その他							2	2						0		2
火災計		5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	10
漏えい計		0	0	0	0	1	0	8	0	9	2	0	0	2	4	0	13
その他計		1	0	1	0	0	0	4	0	5	1	0	0	2	3	0	9
総計		6	0	1	0	1	0	12	0	14	3	0	0	9	12	0	32

注： 危険物施設の別の「その他」には、危険物運搬中の事故または無許可の危険物施設など、許可を受けている危険物施設以外での事故件数を記載

## 第6章 消防の概要

### 1 消防の組織〈消防機関と人員〉

昭和23年消防組織法施行後、市町村消防の原則が確立され、昭和48年7月1日大野地区消防組合が発足したことにより、県下全域にわたり消防の常備化が実現した。消防吏員は令和2年4月1日現在で1,246名である。

また、消防団員数は令和2年4月1日現在で5,814名であるが、近年の社会経済情勢の変化の影響を受けて、団員数の減少、サラリーマン団員の増加等の課題に直面しており、消防団の充実強化を一層推進することが必要である。

### 2 消防施設

#### (1) 消防機械

消防機械の保有状況は第8表および第9表のとおりであるが、特に近年の救急需要の増加に伴い、各消防本部とも高規格救急自動車の導入を推進している。これにより、高度な救急処置を実施することができ、救命率の向上を図っている。

#### (2) 消防水利

消防水利は、消防機械とともに、火災鎮火のために重要不可欠なものである。

これについては、消防に必要な水利の確保と管理のため「消防水利の基準」が定められ、その基準に適合したものを消防水利としている。消防水利には、消火栓、防火水槽、プール等の人工水利と河川等の自然水利があり、その保有状況は第11表のとおりである。

### 3 民間防火組織

#### (1) 幼年消防クラブ

幼年消防クラブは、幼年期における防火教育の重要性、防火活動を通じての正しい社会的態度の養成の必要性などの観点からはじめられたもので、幼稚園、保育園の指導者を中心に消防機関の協力を得て幼年消防活動を行うことにより、父母兄弟や近隣住民に対する防火思想の普及も効果的に図られている。

#### (2) 少年消防クラブ

少年消防クラブは、少年のころから火災予防に関する知識を身に付け、学校や各家庭における火災防止を図るとともに、火に関する諸原理を実際に即して勉強し、学校教育としての社会科、理科および家庭科の学習の補助を目的とするものであって、昭和25年に少年消防クラブ取扱要綱が制定され、続いて昭和28年に「全国少年消防クラブ運営指導協議会」（会長：消防庁長官）が設けられ、今日に至っている。

#### (3) 女性防火クラブ

女性防火クラブは、家庭において火を使用する機会の多い女性を対象に、火災予防の知識を養うことが必要であることから、任意に結成されたものであり、消防職団員の指導のもとに各家庭の防火診断、火災の初期活動等、重要な役割を果たしている。

## 4 表 彰

消防職員および消防団員の士気高揚を図るとともに、地域住民の消防に対する正しい認識と円滑な協力援助関係を確立するため、消防に関して功労のあった消防職団員、消防機関その他の団体または個人に対し、各種表彰を行っている。

また、昭和58年より新たに県知事の定例表彰の中で、30年以上勤続の消防団員の配偶者等も表彰することにした。

## 5 消防の現況

第1表 消防職団員数の推移(各年4月1日現在)

区分	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
消防職員数	150	163	203	201	231	227	262	257	268	293	328	351	354	372	381	421	461	521	594
消防団員数	11,835	10,701	8,487	8,275	8,091	7,342	7,174	7,147	7,118	6,744	6,759	6,731	6,751	6,754	6,491	6,388	6,303	6,191	6,019

47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元	2	3	4
693	743	785	785	832	851	872	895	922	937	950	974	974	982	982	983	999	1,009	1,010	1,032	1,052
5,814	5,703	5,647	5,635	5,633	5,623	5,629	5,616	5,549	5,623	5,616	5,608	5,588	5,549	5,545	5,485	5,471	5,453	5,437	5,488	5,492

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
1,090	1,101	1,119	1,141	1,162	1,169	1,183	1,186	1,190	1,188	1,190	1,193	1,192	1,190	1,189	1,184	1,183	1,180	1,192	1,196	1,189
5,497	5,519	5,502	5,533	5,523	5,518	5,497	5,499	5,483	5,460	5,436	5,439	5,442	5,406	5,411	5,411	5,480	5,560	5,656	5,688	5,661

26	27	28	29	30	令和元	2
1,188	1,206	1,206	1,226	1,238	1,235	1,246
5,720	5,797	5,781	5,809	5,825	5,824	5,814

第2表 消防機関の現況

区 分		平成31年4月(A)	令和2年4月(B)	増減(B-A)
消 防 本 部 ・ 署	消 防 本 部 数	9	9	0
	消 防 署 数	19	19	0
	出 張 所 数	28	28	0
	消 防 職 員 数	1,235	1,246	11
消 防 団	消 防 団 数	18	18	0
	分 団 数	237	238	1
	消 防 団 員 数	5,824	5,814	△ 10

第3表 消防の概況

令和2年4月1日現在

区分	消防本部・署所						消防団						消防水利			基地局および固定局	移動局			
	設置別		消防署数	出張所数	(実) 消防員数	普通消防ポンプ数	水槽付消防ポンプ数	消防団数	分団数	消防団常備部数	団員数		普通自動車ポンプ数	小型動力ポンプ積載車	付小型動力ポンプ積載車			火栓(公設)	防火水槽	
	消防本部のみ設置	消防本部署を併設									計	常勤							非常勤	40以上
消防(局)本部名																				
福井市	○		4	15	372	20	3	1	54		1,010	1	52	41	9,569	823	30	15	174	
大野市		○	1	1	55	4		1	10		455	10	22		481	293	26	3	37	
勝山市		○	1		38	2	1	1	12		295	2	11		432	200	13	16	42	
永平寺町		○	1		41		3	1	11		262	10	11		177	253	11	3	27	
嶺北消防組合		○	4	1	200	6	4	2	33		710	35	7		1,448	1,251	103	4	131	
鯖江・丹生消防組合		○	1	4	119	5	1	2	36		575	34	3	3	1,658	894	39	5	98	
南越消防組合		○	3	2	151	7	4	3	33		809	12	27	1	2,506	688	32	7	155	
敦賀美方消防組合		○	3	1	147	3	4	3	16		732	23	31	6	1,301	223	164	8	137	
若狭消防組合		○	1	4	123	7	3	4	33		966	9	44	46	1,079	504	58	6	135	
計	1	8	19	28	1,246	54	23	18	238	0	5,814	136	208	97	18,651	5,129	476	67	936	

第4表 階級別消防職員数

令和2年4月1日現在

区分	消防(局)本部名													消防職員				その他の職員			条 例 定 数
	消防(局)本部名													消防職員(実員)			その他の職員			小 計 (C)	
	計 (A) + (B) (C)	うち 女性 (B) (C)	消 防 司 監	消 防 正 監	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	小 計 (B)	事 務 職 員	技 術 職 員	単 純 勞 務 職 員						
福井市	380	6	1	6	25	80	69	49	73	69	372	8	( )	( )	8	356					
大野市	56	2	( )	( )	1	9	17	10	6	12	55	1	( )	( )	1	55					
勝山市	40	1	( )	( )	4	4	15	2	8	5	38	2	( )	( )	2	42					
永平寺町	41	1	( )	( )	3	6	13	3	6	10	41	( )	( )	( )	0	45					
嶺北消防組合	203	9	1	3	7	37	42	38	33	39	200	3	( )	( )	3	206					
鯖江・丹生消防組合	121	6	( )	1	11	31	23	18	16	19	119	2	( )	( )	2	120					
南越消防組合	155	6	( )	1	10	36	34	26	18	26	151	4	( )	( )	4	154					
敦賀美方消防組合	148	2	( )	1	11	25	25	28	30	27	147	1	( )	( )	1	156					
若狭消防組合	124	1	( )	1	7	28	22	13	27	25	123	1	( )	( )	1	130					
計	1,268	34	0	13	79	256	260	187	217	232	1,246	22	0	0	22	1,264					

注1: 下段の( )は、女性職員の内数

注2: 条例定数に含まれない派遣・出向職員および短時間勤務の再任用職員がいるため、条例定数を超えている場合がある。

第5表 階級別非常勤消防団員数

令和2年4月1日現在

階級別 消防(局)本部	合計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	条約定数
福井市	1010 (48)	1 ( )	8 ( )	54 (2)	54 (2)	102 (4)	103 (5)	688 (35)	1,055
大野市	455 (100)	1 ( )	2 ( )	10 (1)	11 (2)	35 (3)	70 (6)	326 (88)	485
勝山市	295 (25)	1 ( )	2 ( )	12 ( )	12 ( )	25 (1)	34 (2)	209 (22)	299
永平寺町	262 (19)	1 ( )	2 ( )	11 (1)	11 (1)	)	34 (1)	203 (16)	315
嶺北消防組合	710 (20)	2 ( )	7 ( )	33 ( )	52 ( )	2 (2)	63 (2)	551 (16)	773
鯖江・丹生消防組合	575 (21)	2 ( )	5 ( )	34 ( )	34 ( )	)	81 (1)	419 (20)	647
南越消防組合	809 (52)	3 ( )	9 ( )	32 (2)	32 (2)	)	83 (5)	650 (43)	826
敦賀美方消防組合	732 (29)	3 ( )	4 ( )	16 ( )	16 ( )	52 (1)	87 (3)	554 (25)	761
若狭消防組合	966 (30)	4 ( )	6 ( )	33 ( )	23 ( )	54 (1)	97 (1)	749 (28)	970
計	5,814 (344)	18 (0)	45 (0)	235 (6)	245 (7)	270 (12)	652 (26)	4,349 (293)	6,131

注：下段の( )は、女性団員の内数

第6表 年齢別消防吏員および消防団員数

令和2年4月1日現在

年齢別 消防(局)本部分名	消 防 団 員										消 防 吏 員														
	(C)のうち										団員数 (C)	(A)のうち										平均年齢 (B)			
	18歳 〜 19歳	20歳 〜 24歳	25歳 〜 29歳	30歳 〜 34歳	35歳 〜 39歳	40歳 〜 44歳	45歳 〜 49歳	50歳 〜 54歳	55歳 〜 59歳	60歳 〜 64歳		65歳 以上	18歳 〜 19歳	20歳 〜 24歳	25歳 〜 29歳	30歳 〜 34歳	35歳 〜 39歳	40歳 〜 44歳	45歳 〜 49歳	50歳 〜 54歳	55歳 以上				
福 井 市	0	11	34	53	126	161	190	164	133	115	23	1,010	14,847	39.9	9	47	42	44	25	37	57	39	72	14,847	39.9
大 野 市	0	4	12	46	48	84	79	69	58	43	12	455	2,116	38.5	1	5	8	8	5	10	5	8	2,116	38.5	
勝 山 市	0	5	6	18	50	53	52	34	43	31	3	295	1,576	41.5	0	4	1	7	1	6	13	2	4	1,576	41.5
永 平 寺 町	4	15	15	19	40	53	57	28	21	10	0	262	1,513	36.9	0	8	4	6	1	8	8	2	4	1,513	36.9
嶺 北 消 防 組 合	0	11	10	70	84	142	151	115	74	36	17	710	7,412	37.1	5	24	27	31	18	25	41	16	13	7,412	37.1
鯖 江 ・ 丹 生 消 防 組 合	0	13	33	74	113	122	139	44	27	6	4	575	4,251	35.7	3	19	12	16	10	21	21	5	12	4,251	35.7
南 越 消 防 組 合	0	7	32	66	87	142	168	132	98	55	22	809	5,684	37.6	4	21	24	19	5	23	27	11	17	5,684	37.6
敦 賀 美 方 消 防 組 合	1	13	60	147	170	142	82	48	29	33	7	732	5,262	35.8	7	13	23	22	29	30	14	6	3	5,262	35.8
若 狭 消 防 組 合	3	22	88	176	206	214	129	68	41	14	5	966	4,677	38.0	4	19	20	22	9	14	15	8	12	4,677	38.0
計	8	101	290	669	924	1,113	1,047	702	524	343	93	5,814	47,338	38.0	33	160	161	175	103	169	206	94	145	47,338	38.0

注:18歳〜19歳の欄は18歳未満含む。

第7表 在職年数別消防吏員および消防団員数

令和2年4月1日現在

年数別 消防(局)本部名	消 防 吏 員						消 防 団 員									
	消			防			常 勤			非 常 勤						
	合 計	5 年 未 満	5 10 年 未 満	10 15 年 未 満	15 20 年 未 満	20 25 年 未 満	25 30 年 未 満	30 年 以 上	合 計	5 年 未 満	5 10 年 未 満	10 15 年 未 満	15 20 年 未 満	20 25 年 未 満	25 30 年 未 満	30 年 以 上
福 井 市	372	85	57	33	25	30	48	94	1,010	243	188	212	120	102	71	74
大 野 市	55	7	9	6	6	7	8	12	455	71	135	74	48	47	44	36
勝 山 市	38	3	6	4	4	6	6	9	295	52	55	49	54	40	27	18
永 平 寺 町	41	8	8	2	3	6	8	6	262	85	73	45	26	18	12	3
嶺 北 消 防 組 合	200	32	31	35	15	16	41	30	710	130	135	146	108	99	49	43
鯖 江 ・ 丹 生 消 防 組 合	119	22	15	20	10	17	14	21	575	140	140	112	104	52	17	10
南 越 消 防 組 合	151	32	27	13	6	23	23	27	809	180	163	133	120	92	78	43
敦 賀 美 方 消 防 組 合	147	19	37	23	20	19	22	7	732	237	236	131	70	23	22	13
若 狭 消 防 組 合	123	18	29	16	12	12	15	21	966	428	228	166	88	43	10	3
計	1,246	226	219	152	101	136	185	227	5,814	1,566	1,353	1,068	738	516	330	243

第8表 消防ポンプ自動車等現有数(消防本部および署)

令和2年4月1日現在

区分	消防本部・署 現有													その他車両											
	普通消防ポンプ自動車	水槽付消防ポンプ自動車	はしご付消防ポンプ自動車 (ポンプ付でないものを含む)	18m級	24m級	30m級	38m級	消防ポンプは折し自動車付	大型高所放水車	泡原液搬送車	化学消防ポンプ自動車	指揮車	照明車		積載車 小型動力ポンプ 積載車 小型動力ポンプ	広報車	資器材搬送車	屈折放水塔車	水槽車	支援車	人員搬送車	防災指導車	救急自動車	救助工作車	
消防(局)本部名																									
福井市消防局	20	3	2	1	1	1	1	1	1	1	3	5		7	6	4			1	1	1		11 (11)	2	8
大野市消防本部	4				1						1	1			1	2		1					4 (4)	1	
勝山市消防本部	2	1	1		1							1			1	1							3 (3)	1	2
永平寺町消防本部		3										1		2	1	1						1 (3)	1		
嶺北消防組合	6	4				1		1			4	5		7	1	5			1				8 (8)	3	9
鯖江・丹生消防組合	5	1				1					2	2			10	2			1	1	1	1 (6)	6 (6)	1	
南越消防組合	7	4	1			1					2	3		1	7	5			1	1	1		8 (8)	3	
敦賀美方消防組合	3	4	1				1				2	1		6	1	5			1	1			6 (6)	2	8
若狭消防組合	7	3				1					1	1		6	6	2				1	1		7 (7)	1	
計	54	23	4	2	4	2	2	2	1	2	15	20	0	29	34	27	0	4	4	4	4	2	56 (56)	15	27

注:救急自動車の( )は高規格救急自動車で内数

第9表 消防ポンプ自動車等現有数（消防団）

令和2年4月1日現在

種別 消防(局)本部名	消防団現有			
	普通消防ポンプ自動車	水槽付消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ	
			小型動力ポンプ付積載車	車両に積載していないもの
福井市	1		52	41
大野市	10		22	
勝山市	2		11	
永平寺町	10		11	
嶺北消防組合	35		7	
鯖江・丹生消防組合	34		3	3
南越消防組合	12		27	1
敦賀美方消防組合	23		31	6
若狭消防組合	9		44	46
計	136	0	208	97

第10表 化学消火薬剤備蓄状況

令和2年4月1日現在

種別	計		化学消火剤種別													
	(A)	(B)	たん白系		合成界面	水成膜泡	水溶性液体用泡	粉末(kg)								
	(kg) (ア)～(オ)	(kg) (カ)～(ケ)	3%型 (kl) (ア)	6%型 (kl) (イ)	活性炭 (kl) (ウ)	消火薬剤 (kl) (エ)	消火薬剤 (耐アルコール用) (kl) (オ)	第1種 粉未 (カ)	第2種 粉未 (キ)	第3種 粉未 (ク)	第4種 粉未 (ケ)					
消防(局)本部名																
福井市	14.95	0.00	10.50	0.09	1.63	2.39	0.34									
大野市	1.37	0.00			1.37											
勝山市	0.84	0.00			0.84											
永平寺町	0.60	0.00			0.60											
嶺北消防組合	32.25	0.00	5.07		3.77	19.83	3.58									
鯖江・丹生消防組合	4.52	0.00			2.54	1.98										
南越消防組合	2.16	0.00			0.88	1.28										
敦賀美方消防組合	4.64	0.00	0.85		2.59	0.92	0.28									
若狭消防組合	1.34	0.00			1.34											
計	62.67	0.00	16.42	0.09	15.56	26.40	4.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00				



第12表 消防機関の出動状況

令和元年中

区分	種別	県計 (ア)~(カ)	火災 (ア)	風水害 等の 災害 (イ)	演習 訓練 (ウ)	広報 指導 (エ)	警防 調査 (オ)	火災 原因 調査 (カ)	特別 警戒 (キ)	捜索 (ク)	予防 査察 (ケ)	誤報等 (コ)	その他 (サ)
消防本部・署所	出動回数	21,050	174	5	1,797	3,819	5,578	240	1,578	23	6,501	76	1,259
	出動延人数	65,740	3,034	15	11,140	10,102	14,179	1,226	4,169	202	16,489	963	4,221
消防団	出動回数	3,552	100	5	1,089	278	6	0	564	0	0	25	1,485
	出動延人数	33,901	1,445	196	14,297	2,842	186	0	5,452	0	0	124	9,359

第13表 消防吏員および団員の公務による死傷者数

令和元年中

区分	種別	県計 (ア)~(キ)	火災 (ア)	風水害 等の 災害 (イ)	救急 業務 (ウ)	演習 訓練 (エ)	特別 警戒 (オ)	捜索 (カ)	その他 (キ)
消防吏員	死者	0	0	0	0	0	0	0	0
	負傷者	11	3	0	0	8	0	0	0
消防団	死者	0	0	0	0	0	0	0	0
	負傷者	6	0	0	0	6	0	0	0

第14表 火災通報施設等の現況

令和2年4月1日現在

区分	火災報知機			テレビ 監視装置 (基)	望 楼		電 話					救急指令装置	
	受信機 (基)	発信機			小計 (ウ)+(エ) (基)	24時間 監視体 制をとつ ているも の (ウ) (基)	その他 (エ) (基)	小計 (カ)+(キ)+(ク) (回線)	消防機関にあるもの		加入電話 (キ) (回線)	救 急 指 令 専 用	消 防 指 令 装 置 と 併 用
		小計 (ア)+(イ) (基)	公衆用 (ア) (基)						自衛用 (イ) (基)	火災報知 専用電話 (カ) (回線)			
消防(局)本部名													
福井市	0				0		276	18	198	160	60		1
大野市	0			1	0		32	9	2	5	21		
勝山市	0				0		12	5			7		
永平寺町	0				0		17	12			5		1
嶺北消防組合	0				0		47	14			33		
鯖江・丹生消防組合	0				0		58	13	5	229	40	1	1
南越消防組合	0				0		55	12	2	6	41		
敦賀美方消防組合	0				0		44	13	9	257	22		
若狭消防組合	0			1	0		48	8	8		32		
計	0	0	0	2	0	0	589	104	224	657	261	1	3

第15表 無線通信施設等の現況

令和2年4月1日現在

種別 消防(局)本部名	消防・救急業務用無線(デジタル方式)											携帯電話等			
	固定局		基地局および携帯基地局						移動局		その他の無線局数	衛星携帯電話保有数	救急車および救急隊	うち災害時 優先電話	
	局数		局数		電波の数				陸上移動局数	携帯局数					
	多重	その他	局の電波の数	その他 の電波 の数	基地局	携帯基地局	統制波	主運用波			活動波	防災相互波			
福井市	6			9		3	1	5		174			1	11	8
大野市				3		3	1	2		37			3	4	3
勝山市		13	13	3		3	1	2		42			1	2	2
永平寺町				3		3	1	2		12	15		1	3	3
嶺北消防組合				4		3	1	3		131			1	9	
鯖江・丹生消防組合				5		3	1	2		98			3	6	6
南越消防組合				7		3	1	3		155			5	8	8
敦賀美方消防組合				8		3	1	2		137			3	6	5
若狭消防組合				6		3	1	2	1	135			1	6	6
計	6	13	13	48	0	27	9	23	1	921	15	0	19	55	41

第16表 幼年消防クラブの現況

令和2年4月1日現在

種別	組織別クラブ数					組織別クラブ員数					指導者数			
	計	幼稚園 保育園 単位	学校 単位	市 単位	町 単位	地区 単位	その他	計	幼稚園 保育園 単位	学校 単位	市 単位	町 単位	地区 単位	その他
消防(局)本部名														
福井市	2	2						45	45					
大野市	14	14						1,029	1,029					
勝山市	12	12						462	462					
永平寺町	10	10						573	573					
嶺北消防組合	46	46						4,186	4,186					
鯖江・丹生消防組合	38	38						1,398	1,398					
南越消防組合	37	37						853	853					
敦賀美方消防組合	37	37						2,745	2,745					
若狭消防組合	1	1						18	18					
計	197	197	0	0	0	0	0	11,309	11,309	0	0	0	0	0

第17表 少年消防クラブの現況

令和2年4月1日現在

種別	組織別クラブ数					組織別クラブ員数					指導者数					
	計	学校単位		市町単位	地区単位	その他	計	学校単位		市町単位	地区単位	その他	学校単位		計	
		小学校	中学校					小学校	中学校				小学校	中学校		
消防(局)本部名																
福井市	50	50					2,756	2,756						70	70	
大野市	15	10	5			582	500	82					14	10	4	
勝山市	16	3		4	9	797	342				61	394	45	9		36
永平寺町	11				11	222						222	54			54
嶺北消防組合	26	26				1,109	1,109						26	26		
鯖江・丹生消防組合	20	20				2,691	2,691						118	118		
南越消防組合	21	21				835	835						34	34		
敦賀美方消防組合	12	12				419	419						12	12		
若狭消防組合	0					0							0			
計	171	142	5	4	20	9,411	8,652	82	0	61	616	373	279	4	90	

第18表 女性防火クラブの現況および活動状況

令和2年4月1日現在

種別	合計		周囲の状況						活動状況別組織数			
	組織数 (ア)+(イ)+(ウ)+(エ)	人員 (カ)+(キ)+(ク)+(ケ)	市街地		農山村地域		漁村地域		消火活動を行う (ア)	消火活動は行わないが、吹き出し、連絡、救護等を行う (b)	(a)(b)は行わず、予防の啓蒙活動を行っている (c)	
			組織数 (ア)	人員 (カ)	組織数 (イ)	人員 (キ)	組織数 (ウ)	人員 (ク)				組織数 (エ)
消防(局)本部名												
福井市	41	1,644	18	582	20	601	3	461	8			33
大野市	1	34			1	34			1			
勝山市	8	77	2	30	6	47			8			
永平寺町	1	18	1	18								1
嶺北消防組合	2	515	2	515								2
鯖江・丹生消防組合	22	1,125	7	109	12	445	3	571	12			10
南越消防組合	19	232	12	129	7	103				19		
敦賀美方消防組合	7	1,505	2	1,450	2	34	3	21	5	2		
若狭消防組合	14	194			8	134	6	60	14			
計	115	5,344	44	2,833	56	1,398	15	1,113	48	21	0	46

第19表 消防表彰受賞状況

種 類		年 度										
		22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和元	
叙 勲		23	22	21	22	23	21	31	33	21	23	
藍 綬 褒 章					3	3	2				3	
消 防 庁 長 官 表 彰	功 勞 章	2	1	2	2	2	1	1	1			
	永年勤続功労章	21	21	21	21	21	22	22	23	23	23	
	表 彰 旗											
	竿 頭 綬				1	1	1					
	消防団 地域 活動	消 防 団	1	1	1	1	1	1	1			
		事 業 所	1	1				1			1	4
	少 年 消 防 ク ラ ブ	表 彰 旗	1			1						
		表 彰 楯		1	1		1	1	1	1	1	1
		指 導 者										
	福 井 県 知 事 表 彰	功 勞 章	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
永年勤続精績章		142	155	152	154	177	132	168	149	154	137	
銀 杯		30 年 以 上										
		退職10～15年未満	66	70	67	71	73	49	55	67	58	68
感 謝 状		退 職 幹 部	24	22	22	33	16	49	23	20	17	19
		人 命 救 助 そ の 他										
		夫 人 表 彰	36	33	28	26	33	33	31	26	47	44
竿 頭 綬					35	46	46	47	49	52	45	
特 別 功 勞 章												

## 第 7 章 消防教育訓練

### 1 消防学校の概要

#### (1) 沿革

昭和 34 年 7 月 16 日 福井市水越町に福井県消防学校設置  
 昭和 47 年 11 月 1 日 福井市合谷町へ移転  
 平成 8 年 4 月 1 日 福井市大畑町へ再移転、現在に至る。

#### (2) 施設概要

ア 所在地等 (ア) 所在地 福井市大畑町97-21-3  
 (イ) 敷地面積 40,759.02㎡

イ 建物工作物等

建物構造および規模

・ 敷地面積…………… 40,759.02㎡    ・ 建物延面積…………… 8,001.62㎡

名 称	規模・構造	延べ面積(㎡)	内 容
教育管理棟 宿泊施設(3階)	R C 造 3 階	3,249㎡	1階 校長室 講師控室 職員室 会議室 女性専用寮室(2室) 宿直室 2階 普通教室(60人)(40人) 談話室 図書室 視聴覚室 理化学室(各種実習室併設) 等 3階 寮室(20室) トレーニングルーム 娯楽室
体育館	鉄骨造 2 階 建	2,106.25㎡	1階 食堂 学生ホール 和室 倉庫 2階 アリーナ
雨天訓練場	鉄骨平屋建	1,091.22㎡	訓練場(救助、ポンプ操法訓練施設) 訓練資器材庫 訓練車両庫
訓練塔(主)	S R C 造 地下1階建 地上8階建	594.84㎡	立坑訓練室 耐煙迷路室 消火設備実験室 垂直救助訓練 水平ロープ渡過 ブリッジ救出訓練施設 放水訓練室 水平救助・担架吊り下げ救出訓練施設 梯子車注水訓練室 積載梯子上救出訓練施設 梯子車進入訓練室 高所活動・人命検索訓練施設 救助袋等避難器具取扱訓練室 地下火災実験室
訓練塔(補助)	鉄骨造 地上7m	A塔 70.44㎡ B塔 32.86㎡	人命救助訓練施設 引上救助訓練施設 中高層建物防御訓練施設 斜め救助訓練施設 障害突破 垂直降下訓練施設
水難訓練用プール (兼、潜水訓練)	F R P 製	25m×5コース 水深1.5m～3.0m 容量630m³ 採水口4箇所(ポンプ車用) 機械室・便所(34.43㎡)	
その他施設			油火災消火訓練施設(耐火レンガ造) 直径3m×高さ0.5m 防火訓練壁 幅14m×高さ4m 受水槽20㎡ 煙道訓練施設 間口1.0m×1.0m 模擬火災訓練家屋(可搬式プレハブ型模擬ハウス) 山岳救助訓練施設(25m×60m)
屋外訓練場		7,800㎡(120m×65m)	1周200mグラウンド

### 2 教育訓練

消防職団員の各種教育訓練を第1表および第2表のように実施し、人的消防力の充実向上を図るとともに、より高度の専門的知識を修得させた。  
 また、第3表のとおり消防大学校へ職員を派遣した。

令和元年度 消防本部(局)別受講者数

区分	教育訓練の種類	項目	実施年月日	教育 実日数	延時間	消防本部(局)										合計		
						福井	敦賀美方	南越	若狭	大野	勝山	鯖江丹生	嶺北	永平寺	その他			
消防職員	初任教育(第54期) 幹部教育 専科教育	初級幹部科(第43期) 中級幹部科 上級幹部科(第14期) 警防科 特殊災害科(第9期) 予防査察科(第15期) 危険物科 火災調査科(第23期) 救助科(第43期) 救急科(第27期) 水難救助科(第24期) 特別講座等 操法指導員教育 起震車操作員教育(新規養成)	31. 4. 3~R1. 9. 26	117	814	11	3	9	4	2		6	5			40		
			R1. 12. 2~12. 13	10	70	2	2		1			2	4				16	
			隔年実施のため中止															
			R1. 6. 19~6. 21	3	21	2	2	1	2			1		2			11	
			隔年実施のため中止															
			R1. 11. 21~11. 29	7	49	2	2	2	2	1	1	1	2	4			16	
			R2. 2. 12~2. 26	10	70	2	2	2	2	1	1	1	1	4			15	
			隔年実施のため中止															
			R2. 1. 8~1. 22	10	70	2	2	2	2	1	1	1	1	4			15	
			R1. 10. 8~11. 12	23	161	2	2	2	2	1	1	1	1	4			15	
R2. 1. 28~3. 19	36	252	4	4	5	5	2	2	1	4	8			34				
R1. 7. 3~7. 19	12	84	2	2	1	2				1	4			12				
特別講座等 (下記公開講座に記載)																		
31. 4. 11~4. 12	2	14	5	4	4	4	4	4	4	2	4	4	2		33			
R1.5.16	1	3	3	4	3	2	1	2	1	2	6	4	4		25			
小計	231	1,608	37	29	33	29	15	11	28	47	2	2		232				
R1. 11. 9~11. 10	2	12	5	6	3	8	7	2	5	3	2	2		41				
消防団員	初級幹部科 指揮幹部科																	
一般・その他	現場指揮課程 分団指揮課程 消防団員指導員教育(日消) 小計 自衛消防隊幹部教育 女性防火クラブ員教育 自主防災組織員教育(第1回) 自主防災組織員教育(第2回)嶺南 自主防災組織員教育(第3回) 小計 合計	R1. 11. 16~11. 17	2	14	2	4	3	4	3	1	1	3	4	1		25		
		R1. 12. 7~12. 8	2	10	3	4	3	8	1	2	5	3	3	3		32		
		R1. 11. 2~11. 3	2	12	1	3	3	4	1	1	2	2	1	1		18		
		小計	8	48	11	17	12	24	12	6	15	12	7	7		116		
		R1.12.12	1	7	9	13	7	4	7	2	2	2	6	3		53		
		R2.3.1	1	6														
		R1.10.6	1	3	11		17	1	3	2	26					60		
		R1.12.1	1	3	53											53		
		R2.2.2	1	3		5					2	8	12			27		
		小計	5	22	20	66	12	4	24	3	7	16	41			193		
合計	244	1,678	68	112	57	57	51	20	50	75	50	1		541				
公開講座	上級幹部科 特殊災害科 予防査察科 救急科	R1.6.20	1	4	6	4	4	1	3	1	4				27			
		R1.11.26	1	4	9	4	4	5	1	2	3	6	2		36			
		R2.2.14	1	4	7	3	5	5	2	2	3	4	1		32			
		R2.3.11	1	4	6	8	6	7	2	7	7	8	8		59			
公開講座合計	4	16	28	19	19	21	6	14	14	22	11			154				
総計	248	1,694	96	131	76	78	57	34	64	97	61	1		695				

第2表 令和元年度消防学校教育訓練実施状況

区分	項目	入校者数	教育実日数	教育時間数	担当講師別時間数				
					学校	県	消防	専門	
消防職員	初任教育(第54期)	40	117	814	527	35	203	49	
	幹部教育	初級幹部科(第43期)	16	10	70	8	9	17	36
		中級幹部科							
		上級幹部科(第14期)	11	3	21	2		10	9
	専科教育	警防科							
		特殊災害科(第9期)	16	7	49	8	8	7	26
		予防査察科(第15期)	15	10	70	9	4	53	4
		危険物科							
		火災調査科(第23期)	15	10	70	15	11	37	7
		救助科(第43期)	15	23	161	23	8	116	14
	特別教育	救急科(第27期)	34	36	252	7	6	54	185
		水難救助科(第24期)	12	12	84	8		76	
		操法指導員教育	33	2	14	2		12	
起震車操作員教育(新規養成)		25	1	3	3				
小計		232	231	1,608	612	81	585	330	
消防団員	初級幹部科	41	2	12	10			2	
	指揮幹部科								
		現場指揮課程	25	2	14	1		13	
		分団指揮課程	32	2	10	6	4		
	消防団指導員教育(日消)	18	2	12	11	1			
小計		116	8	48	28	5	13	2	
一般・その他	自衛消防隊幹部教育	53	1	7	7				
	女性防火クラブ員教育		1	6	6				
	自主防災組織員教育	140	3	9	9				
	小計		193	5	22	22	0	0	0
合計		541	244	1,678	662	86	598	332	
公開講座	上級幹部科	27	1	4				4	
	特殊災害科	36	1	4				4	
	予防査察科	32	1	4				4	
	救急科	59	1	4				4	
	公開講座合計		154	4	16	0	0	0	16
総合計		695	248	1,694	662	86	598	348	

第3表 令和元年度消防大学校派遣者数

学科	派遣者数	備考
幹部科	(第58期)	若狭消防
	(第59期)	消防学校、永平寺町消防
	(第60期)	大野市消防
上級幹部科	1	消防学校
警防科	1	福井市消防
救助科	1	嶺北消防
救急科	1	南越消防
火災調査科	1	敦賀美方消防
新任教官科	1	福井市消防 (※短期スクーリング)
航空隊長コース	1	防災航空事務所
危機管理・国民保護コース	2	福井市役所、嶺北消防
自主防災組織育成コース	2	永平寺町役場、消防学校
自主防災組織育成短期コース	3	鯖江市役所、福井市消防、鯖江・丹生消防
合計	18	

防 災 編

---



## 第1章 災害の発生状況

### 1 令和元年中の災害発生状況

#### (1) 人的被害

死者1人、重傷者1人、軽傷者1人

#### (2) 住家被害

なし

**第1表 令和元年中の災害発生状況**

発生年月日		災害名	地滑り	雪害	台風10号	台風19号	計	
区分			H29年12月25日～H31年1月	1月2日	8月16日	10月12日～13日		
人的被害	死者	人		1			1	
	行方不明者	人					0	
	負傷者	重傷	人				1	1
		軽傷	人		1			1
住家被害	全壊	棟					0	
	半壊	棟					0	
	一部破損	棟					0	
	床上浸水	棟					0	
	床下浸水	棟					0	
非住家	公共建物	棟					0	
	その他	棟					0	
その他	田	流失・埋没	ha				0	
		冠水	ha				0	
	畑	流失・埋没	ha				0	
		冠水	ha				0	
	学校	箇所					0	
	病院	箇所					0	
	道路	箇所	1			1	2	
	橋りょう	箇所					0	
河川	箇所					0		

発生年月日		災害名		地滑り	雪害	台風10号	台風19号	計
区分				H29年12月25日～H31年1月	1月2日	8月16日	10月12日～13日	
その の	港湾	箇所						0
	砂防	箇所						0
	清掃施設	箇所						0
	崖くずれ	箇所						0
	鉄道不通	箇所						0
	被害船舶	隻						0
	水道	戸						0
	電話	回線						0
	電気	戸					1,200	1,200
	他	ガス	戸					0
火災 発生	建物	件						0
	危険物	件						0
	その他	件						0
り災世帯数		世帯						0
り災者数		人						0
公立文教施設		千円						0
農林水産業施設		千円				9,488		9,488
公共土木施設		千円	1,157,665				37	1,157,702
その他の公共施設		千円					1,099	1,099
公共施設被害市町村数		団体	1			1	2	4
その他被害		千円					25,726	25,726
被害総額		千円	1,157,665			9,488	26,862	1,194,015
都道府県	設置							
災害対策本部	解散							
災害対策本部設置市町村								0
災害救助法適用市町村								
消防職員出動延人数		人			6			6
消防団員出動延人数		人						0



年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2015 (平27) 10.1～2	大雨	(1) 公共土木施設被害 13,142 千円	前線を伴った低気圧が急速に発達しながら北陸地方を通過したため、大雨となったところがあった。 (日最大1時間降水量(2日)) 今庄 57.5 <sup>mm</sup> 、敦賀 48.0 <sup>mm</sup> (日降水量(2日)) 今庄 83.0 <sup>mm</sup> 、美山 73.0 <sup>mm</sup> (日最大風速) 小浜 14.6m/s(北西)2日01時21分 敦賀 14.4m/s(南南東)1日16時38分 (日最大瞬間風速) 敦賀 23.6m/s(西北西)2日01時02分 小浜 23.5m/s(北北西)2日01時09分
2015 (平27) 12.4	強風	(1) 公共土木施設被害 429,531 千円	日本付近は冬型の気圧配置となり、福井県では、大気の状態が不安定となった。 (日最大風速) 越廼 13.1m/s(西)4日05時02分 敦賀 12.1m/s(西)4日05時30分 (日最大瞬間風速) 三国 28.1m/s(西)4日00時53分 越廼 23.6m/s(西南西)4日01時24分
2015 (平27) 12.11	強風	(1) 人的被害 重傷 1人	本州上を前線を伴った低気圧が東北東進したため、大雨や強風となった。また、大気の状態が非常に不安定となり、竜巻等の激しい突風が発生しやすい状況となった。 (日最大1時間降水量(11日)) 武生 24.0 <sup>mm</sup> 、美浜 22.5 <sup>mm</sup> (日降水量(11日)) 大飯 92.5 <sup>mm</sup> 、小浜 86.0 <sup>mm</sup> (日最大風速) 春江 15.3m/s(北)11日12時26分 敦賀 15.3m/s(北北西)11日14時13分 (日最大瞬間風速) 小浜 24.7m/s(北北西)11日13時27分 敦賀 22.9m/s(北北西)11日14時04分
2015 (平27) 12.17  ～  2016 (平28) 2.29	大雪	(1) 人的被害 軽傷 4人	12月は低気圧の通過や冬型の気圧配置の影響で曇りや雨の日が多く、1月24日から25日にかけて嶺北中心に、2月中頃は嶺南中心に一時的に冬型の気圧配置が強まって大雪となった。 (日降雪量最大) 福井 36センチ1月24日 敦賀 21センチ2月16日 九頭竜 35センチ1月19日 大野 34センチ1月24日 武生 26センチ1月25日 今庄 50センチ1月25日 小浜 15センチ2月16日 (最深積雪最大値) 福井 47センチ1月26日 敦賀 21センチ2月16日 九頭竜 87センチ1月25日 大野 57センチ1月25日 武生 39センチ1月25日 今庄 59センチ1月25日 小浜 27センチ2月16日

年月日	種類	被害状況	気象状況
2016 (平28) 4.17	暴風	(1)人的被害 軽傷 2人 (2)その他被害 15,075千円	華中で前線上に発生した低気圧が、発達しながら北東に進み、17日未明には朝鮮半島に、その後も発達しながら日本海を北東に進み17日夜には北海道西海上に進んだ。この低気圧の影響で福井県内では、16日夜から風が強まり、17日昼過ぎにかけて非常に強い風を観測した所があった。 (日最大風速(17日)) 三国 21.2m/s(南)10時35分 敦賀 20.0m/s(南南東)06時41分 (日最大瞬間風速(17日)) 敦賀 32.9m/s(南南東)08時08分 三国 30.1m/s(南)11時13分
2016 (平28) 5.3	暴風	(1)人的被害 重傷 2人 軽傷 3人 (2)住家被害 一部破損 10棟 (3)非住家被害 その他 3棟 (4)農林水産業施設被害 15,000千円 (5)その他の公共施設被害 854千円 (6)その他被害 6,800千円	黄河下流で発生した低気圧は、ボツ海から黄海付近を通過し、中国東北区を進んだ3日昼頃にかけて急速に発達し、その後は東北東進した。この低気圧からのびる寒冷前線が、3日夜から4日未明にかけて北陸地方を通過した影響で、福井県内では、3日未明から風が強まり、夜遅くかけて非常に強い風を観測した所があった。 (日最大風速(3日)) 敦賀 22.9m/s(南南東)20時15分 三国 21.7m/s(南南東)22時05分 (日最大瞬間風速(3日)) 敦賀 35.8m/s(南東)11時17分 三国 31.6m/s(南)21時57分
2016 (平28) 6.25	大雨	(1)農林水産業施設被害 9,757千円	前線を伴った低気圧が日本海を北東進した影響で、嶺北を中心に大雨となり強い雨を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(26日)) 三国 42.0 <sup>mm</sup> 5時33分
2016 (平28) 9.20	台風 16号	(1)住家被害 床上浸水 1棟 一部破損 1棟 224,135千円 (2)公共土木施設被害 (3)その他被害 1,136千円 (4)災害対策本部設置市町村 敦賀市、池田町	台風16号が、太平洋沿岸を北東進した影響で、福井県では、19日から20日にかけて雨が降り、強い雨を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(20日)) 敦賀 33.5 <sup>mm</sup> 14時46分 九頭竜 28.5 <sup>mm</sup> 16時11分 小浜 28.5 <sup>mm</sup> 13時24分 (日降水量(20日)) 九頭竜 117.0 <sup>mm</sup> 、大飯 109.5 <sup>mm</sup>
2016 (平28) 10.5	台風 18号	(1)人的被害 軽傷 2人 (2)その他被害 300千円	台風18号が、対馬海峡から山陰沖を通過し能登半島沖に進んだ影響で、福井県では、5日昼前から風が強まり、5日夜遅くにかけて強い風を観測した所があった。 (日最大風速(5日)) 敦賀 16.0m/s(南南東)16時10分 三国 18.4m/s(南)19時31分 (日最大瞬間風速) 三国 26.4m/s(南)19時25分 敦賀 25.3m/s(南)15時52分

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2017 (平29) 8.7～8	台 風 5 号	(1)住家被害 全壊 1棟 床下浸水 3棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他被害 道路 3箇所 (4)その他被害 河川 24箇所 (5)その他被害 港湾 2箇所 (6)その他被害 砂防 5箇所 (7)公共土木施設被害 393,080千円 (8)災害対策本部設置市町村 小浜市	台風第5号は、四国の南を通り、7日15時半頃に暴風域を伴ったまま和歌山県北部に上陸した。上陸後は近畿地方を北東に進み8日には石川県白山市付近を通過した影響で、福井県では、7日から8日にかけて断続的に強い雨が降った。 8日は激しい雨を観測した所もあり、7日00時から8日24時にかけての総降水量は、奥越、嶺南を中心に200mmを超えた所があった。 (日最大1時間降水量(8日)) 美山 41.0mm 06時45分 小浜 35.0mm 00時55分 (7日～8日の期間降水量) 九頭竜 223.5mm、敦賀 207.5mm
2017 (平29) 8.12	大雨	(1)住家被害 床下浸水 1棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他被害 道路 1箇所 (4)公共土木施設被害 20,496千円 (5)災害対策本部設置市町村 高浜町	気圧の谷や湿った空気の影響で、嶺南では激しい雨を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(12日)) 小浜 45.5mm 04時14分
2017 (平29) 8.25	大雨	(1)住家被害 床下浸水 5棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他被害 砂防 1箇所 (4)公共土木施設被害 16,588千円 (5)災害対策本部設置市町村 永平寺町	低気圧から伸びる前線が北陸地方を南下したため、雷を伴って激しい雨の降った所があった。 (日最大1時間降水量(25日)) 勝山 42.0mm 10時03分 大野 39.0mm 11時00分 福井 34.5mm 09時45分 春江 34.0mm 09時27分
2017 (平29) 9.18	台 風 18 号	(1)住家被害 床下浸水 5棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他被害 港湾 1箇所 (4)その他被害 砂防 1箇所 (5)電気被害 31戸 (4)公共土木施設被害 275,419千円	台風第18号が、兵庫県明石市付近に上陸した後、17日夜遅くから18日未明にかけて福井県を通過した影響で、福井県では激しい雨の降った所があった。 また、台風が最も接近した17日夜遅くから風が強まり、18日未明に強い風を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(18日)) 越廼 43.5mm 00時12分 (日最大1時間降水量(17日)) 大飯 38.0mm 23時34分 三国 37.5mm 23時16分 九頭竜 35.0mm 23時25分 (17日～18日の期間降水量) 大飯 114.5mm、小浜 112.5mm (日最大風速(18日)) 敦賀 17.2m/s(北西)00時32分 小浜 16.8m/s(北西)00時49分 (日最大瞬間風速(18日)) 敦賀 26.2m/s(北西)00時24分 小浜 30.6m/s(北北西)00時40分

年月日	種類	被害状況	気象状況
2017 (平29) 10.22 ~ 23	台風 21 号	(1)人的被害 重傷 1人 軽傷 4人 (2)住家被害 全壊 1棟 半壊 6棟 一部破損 609棟 床上浸水 5棟 床下浸水 57棟 (3)非住家被害 公共施設 9棟 その他 87棟 (4)その他被害 学校 20箇所 (5)その他被害 病院 1箇所 (6)その他被害 道路 127箇所 (7)その他被害 橋りょう 1箇所 (8)その他被害 河川 89箇所 (9)その他被害 港湾 4箇所 (10)その他被害 砂防 31箇所 (11)その他被害 清掃施設 2箇所 (12)その他被害 崖くずれ 4箇所 (13)その他被害 被害船舶 9隻 (14)電話被害 4回線 (15)電気被害 7,545戸 (16)公共文教施設被害 15,912千円 (17)農林水産業施設被害 479,172千円 (18)公共土木施設被害 4,124,326千円 (19)その他の公共施設被害 129,904千円 (20)その他被害 592,067千円 (21)災害対策本部設置市町村 敦賀市、小浜市、鯖江市、 越前市、永平寺町、越前町、 高浜町、おおい町	台風第21号が、静岡県御前崎市付近に上陸した後、東海地方および関東地方を北東に進んだ影響で、福井県では激しい雨を観測した所があった。 台風が最も接近した22日夜遅くから23日未明にかけて、非常に強い風を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(22日)) 大飯 38.0mm 22時33分 越廼 34.5mm 23時21分 (日最大1時間降水量(23日)) 大飯 31.0mm 00時01分 (22日~23日の期間水量) 大飯 304.0mm、小浜 112.5mm 今庄 253.0mm、 (日最大風速(23日)) 春江 23.1m/s(北)01時47分 今庄 22.5m/s(北)02時43分 小浜 20.3m/s(北)01時04分 (日最大瞬間風速(23日)) 春江 33.4m/s(北)01時44分 今庄 36.8m/s(北)02時37分 小浜 38.8m/s(北)02時07分

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2018 (平30) 1.12～14	大雪	(1)人的被害 死者 1人 重傷 4人 軽傷 8人 (2)住家被害 一部損壊 1棟 (3)農産被害 24,314千円	1月中旬から2月中旬にかけて、強い寒気が周期的に入った。 特に、2月3日から8日は強い冬型の気圧配置が続いたため、嶺北を中心に記録的な大雪となった。 嶺北では5日夜遅くから6日昼前にかけて1時間に5cmを超える強い雪が断続的に降り、6日10時までの12時間で50cm前後の降雪量を観測した所があった。 7日15時には福井市の積雪がこの期間の最深の147cmに達し、昭和56年の豪雪(196cm)以来の大雪となった。 8日午後から10日は一時的に冬型の気圧配置は緩んだが、11日から13日前半にかけて再び冬型の気圧配置が強まり、嶺北中心に大雪となった。
2018 (平30) 1.24～29	大雪	(1)人的被害 重傷 6人 軽傷 1人 (2)その他 学校 1箇所	8日午後から10日は一時的に冬型の気圧配置は緩んだが、11日から13日前半にかけて再び冬型の気圧配置が強まり、嶺北中心に大雪となった。 ＜アメダスの最深積雪 (期間：2017年12月～2018年2月)＞ 福井147cm(2月7日) 武生130cm(2月13日) 大野177cm(2月13日) 九頭竜301cm(2月13日) 今庄162cm(2月13日) 敦賀57cm(2月8日) 小浜48cm(2月8日) ＜大雪警報発表日＞ 1月11日、1月12日、1月13日、 1月24日、2月4日、2月5日、 2月6日、2月7日、2月8日、 2月12日、2月13日
2018 (平30) 2.5～22	大雪	(1)人的被害 死者 12人 重傷 26人 軽傷 94人 (2)住家被害 全壊 1棟 半壊 6棟 一部破損 542棟 床下浸水 7棟 (3)非住家被害 公共建物 6棟 その他 121棟 (4)その他 学校 26箇所 (5)その他 道路 1箇所 (6)その他 橋梁 1箇所 (7)公立文教施設被害 5,627千円 (8)農林水産業施設被害 205,417千円 (9)公共土木施設被害 309,201千円 (10)その他公共施設被害 35,588千円 (11)その他被害 1,027,460千円 (12)災害対策本部設置市町 福井市、大野市、勝山市、 鯖江市、あわら市、越前市、 坂井市、永平寺町	＜アメダスの最深積雪 (期間：2017年12月～2018年2月)＞ 福井147cm(2月7日) 武生130cm(2月13日) 大野177cm(2月13日) 九頭竜301cm(2月13日) 今庄162cm(2月13日) 敦賀57cm(2月8日) 小浜48cm(2月8日) ＜大雪警報発表日＞ 1月11日、1月12日、1月13日、 1月24日、2月4日、2月5日、 2月6日、2月7日、2月8日、 2月12日、2月13日
2018 (平30) 3.5	大雪	(1)人的被害 死者 1人 (2)住家被害 一部破損 1棟	
2018 (平30) 3.8	融雪	(1)その他 道路 1棟 (2)公共土木施設被害 19,051千円	
2018 (平30) 3.22～23	融雪	(1)その他 道路 1棟 (2)公共土木施設被害 17,722千円	

年月日	種類	被害状況	気象状況
2018 (平30) 7.4~12	大雨	(1)住家被害 一部破損 4棟 床上浸水 3棟 床下浸水 18棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他 学校 2箇所 (4)その他 道路 26箇所 (5)その他 河川 37箇所 (6)その他 港湾 15箇所 (7)その他 崖崩れ 2箇所 (8)電気被害 24戸 (9)公立文教施設被害 450千円 (10)農林水産業施設被害 101,733千円 (11)公共土木施設被害 2,638,337千円 (12)その他の公共施設被害 458千円 (13)その他被害 1,157千円 (14)災害対策本部設置市町 敦賀市、大野市、あわら市、 越前市、永平寺町、 南越前町、越前町、高浜町	4日は台風第7号が日本海を北東に進み、その後、8日にかけて梅雨前線が本州付近に停滞した。 日本付近には暖かく湿った空気が供給され続けたため、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となった。 福井県では、多い所では4日から8日までの総降水量が400mmを超える大雨となった。 <4日から8日までの総降水量> 九頭竜 424.5mm、三国 417.0mm、越廼 330.0mm 三国、越廼、勝山、武生、今庄、美浜、大飯では7月の日降水量の極値を更新した。 <極値を更新したアメダス> 三国(7日:164mm)、越廼(7日:193mm)、 勝山(5日:178mm)、武生(5日:183mm)、 今庄(5日:161mm)、美浜(5日:131.5mm)、 大飯(7日:151mm)、 平成30年6月28日以降の台風第7号や梅雨前線の影響によって、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、全国各地で甚大な被害が発生したことを踏まえ、気象庁は、この大雨の名称を「平成30年7月豪雨」と定めた。
2018 (平30) 8.24	台風 20号	(1)人的被害 軽傷 3人 (2)住家被害 一部破損 24棟 (3)非住家被害 公共建物 1棟 その他 1棟 (4)田 冠水 3.0ha (5)その他 学校 2箇所 (6)その他 道路 17箇所 (7)その他 鉄道不通 1箇所 (8)その他 被害船舶 3隻 (9)電気被害 20戸 (10)公立文教施設被害 1,296千円 (11)農林水産業施設被害 146千円 (12)公共土木施設被害 20,992千円 (13)その他の公共施設被害 715千円 (14)その他被害 1,100千円 (15)災害対策本部設置市町 小浜市、鯖江市	台風第20号は、23日は、四国の南海上を北上し、強い勢力で暴風域を伴ったまま23日21時頃に徳島県南部に上陸した。その後も暴風域を伴ったまま四国から近畿地方を北上し、24日2時に日本海に抜けた後、15時に秋田県沖で温帯低気圧に変わった。 <日最大風速> 福井 17.4m/s (24日00時49分 南東) 敦賀 21.3m/s (24日03時00分 南南東) <最大瞬間風速> 福井 29.5m/s (24日03時16分 南) 敦賀 37.5m/s (24日00時50分 南東)

年月日	種類	被害状況	気象状況
2018 (平30) 9.4～5	台風 21号	(1)人的被害 重傷 1人 軽傷 6人 (2)住家被害 半壊 4棟 一部破損 115棟 (3)非住家被害 公共建物 1棟 その他 8棟 (4)その他 学校 12箇所 (5)その他 道路 9箇所 (6)その他 河川 6箇所 (7)その他 砂防 1箇所 (8)その他 鉄道不通 1箇所 (9)その他 被害船舶 1隻 (10)電気被害 5,200戸 (11)公立文教施設被害 7,674千円 (12)農林水産業施設被害 10,142千円 (13)公共土木施設被害 76,052千円 (14)その他の公共施設被害 82,999千円 (15)その他被害 2,792千円 (16)災害対策本部設置市町 敦賀市、小浜市、鯖江市、 永平寺町、南越前町	台風第21号は暴風域を伴い非常に強い勢力を維持して4日12時頃に徳島県南部に上陸した。 その後も暴風域を伴ったまま北北東に進み、14時頃に兵庫県神戸市付近に再上陸した。 15時には若狭湾に達し、日本海を北上した後、5日9時に間宮海峡で温帯低気圧に変わった。 <日最大風速> 福井 21.8m/s (4日15時59分 南南東) 敦賀 26.3m/s (4日15時29分 南南東) <最大瞬間風速> 福井 37.9m/s (4日16時22分 南) 敦賀 47.9m/s (4日15時00分 東南東)
2018 (平30) 9.30～ 10.1	台風 24号	(1)住家被害 一部破損 3棟 (2)その他 砂防 1箇所 (3)その他 鉄道不通 1箇所 (4)電話被害 6回線 (5)公共土木施設被害 7,430千円 (6)災害対策本部設置市町 敦賀市、小浜市、鯖江市、 永平寺町、南越前町、高浜町	台風第24号は、四国の南海上を北東に進み、非常に強い勢力を維持して30日20時頃に和歌山県田辺市付近に上陸した。 その後も暴風域を伴ったまま更に速度を速めて東海、関東甲信、東北地方を北東に進み、10月1日12時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。 <日最大風速> 福井 12.0m/s (1日00時27分 北北西) 敦賀 21.8m/s (30日23時49分 北北西) <最大瞬間風速> 福井 23.7m/s (1日00時08分 北) 敦賀 30.8m/s (30日23時42分 北北西)
2017 (平29) 12.25～ 2019 (平31) 1.4	地滑り	(1)公共土木施設被害 1,157,665千円	福井市蔵作町の主要地方道武生美山線において、12月25日に一次崩壊が発生し、12月29日から1月3日にかけて斜面が高さ85m、巾60m、深さ10mにわたる地すべりによって、約1万㎡の土砂が道路を寸断した。 12月25日～29日まで片側交互通行を行っていたが、12月29日から平30年1月4日までは全面通行止め。迂回路の設置完了に伴い、1月4日から今日まで片側交互通行となっている。

年月日	種類	被害状況	気象状況
2019 (令元) 8.16	台風 10号	(1)農林水産業施設被害 9,488千円	台風第10号は、日本の南海上を北西に進み、次第に進路を北に変え、15日11時過ぎに愛媛県佐田岬半島付近を通過した後、15日15時頃に広島県呉市付近に上陸し、中国地方を縦断後に日本海を北上した。 <日最大1時間降水量> 九頭竜 29.5mm 16日02時48分 <日降水量> 九頭竜 92.0mm 16日 <期間水量(15日～16日)> 九頭竜 138.0mm <日最大風速(15日～16日)> 福井 14.8m/s(15日21時33分 南南東) 敦賀 19.2m/s(15日19時07分 南南東) <日最大瞬間風速(15日～16日)> 福井 23.9m/s(15日19時17分 南東) 敦賀 33.5m/s(15日19時03分 南南東)
2019 (令元) 10.12～ 10.13	台風 19号	(1)人的被害 重傷 1人 (2)公共土木施設被害 37千円 (3)その他の公共施設被害 1,099千円 (4)その他被害 25,726千円	台風第19号は、マリアナ諸島を西に進み、一時大型で猛烈な台風が発達した後、次第に進路を北に変え、日本の南を北上し、12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した。その後、関東地方を通過し、13日12時に日本の東で温帯低気圧に変わった。 <日最大1時間降水量> 小浜 13.5mm 12日13時25分 今庄 12.0mm 12日15時03分 <日降水量> 小浜 113.0mm 12日 今庄 100.0mm 12日 <期間水量(12日～13日)> 小浜 127.0mm 今庄 111.0mm <日最大風速> 福井 12.5m/s(12日20時41分 北北西) 春江 18.7m/s(12日21時01分 北) 敦賀 20.0m/s(12日20時06分 北西) <日最大瞬間風速> 福井 22.3m/s(12日23時48分 北北西) 春江 27.8m/s(12日20時36分 北北西) 敦賀 29.9m/s(12日19時22分 北北西)

## 第2章 令和元年の天候概況

### 1 天候の特徴

#### ◇ 年（1月～12月）の概況

1月～2月は、高温、少雨・かなりの少雪。1月は冬型の気圧配置が現れやすく、雪や雨の日が多かったが、強い寒気が南下したのは一時的となったことから、降雪量はかなり少なかった。2月は寒気や発達した低気圧の影響は小さく、冬型の気圧配置は長続きしなかった。上旬から中旬にかけては、雨や雪の日が多かったが、下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。2月の降水量はかなり少なく、降雪量もかなり少なかった。

3月～5月は、高温・多照。3月、4月の天気は概ね数日の周期で変わったが、5月は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。福井と敦賀の5月の日照時間は統計開始以来、最も多く記録的な多照となった。また、晴れて強い日射の影響を受けたことや暖かい空気が流れ込みやすかったため春の平均気温は高かった。

6月～8月は、高温。6月は多雨。8月は高温・多雨。6月上旬は高気圧に覆われて晴れた日が多く、7月末から8月中旬にかけては太平洋高気圧の張り出しが強まり晴れて厳しい暑さが続いた。8月14日は台風第10号によるフェーン現象により記録的な高温となった所もあった。

北陸地方の梅雨入りは6月7日ごろで平年より早く（平年は6月12日ごろ）、梅雨明けは7月24日ごろで平年並となった（平年は7月24日ごろ）。

9月～11月は、かなりの高温・少雨・多照。9月は高気圧に覆われて晴れた日が多く、複数の台風が日本に接近または上陸・通過し、暖かい空気が流れこんだ影響もあり、かなりの高温、かなりの少雨、かなりの多照となった。10月は台風や低気圧および前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れこみやすく、かなりの高温、かなりの多雨、寡照となった。11月は気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨または雪の降った日もあったが、低気圧が日本の北を通過しやすく、高気圧に覆われて晴れた日が多く、かなりの少雨、かなりの多照となった。

12月は、冬型の気圧配置や気圧の谷、寒気の影響で、曇りや雨または雪の日が多く、寒気の影響が弱く冬型の気圧配置も一時的だったため、かなりの高温、かなりの少雪となった。

官署	平均気温			降水量			日照時間		
	本年 (℃)	平年差 (℃)	階級区分	本年 (mm)	平年比 (%)	階級区分	本年 (h)	平年比 (%)	階級区分
福井	15.6	+1.1	かなり 高い	1851.5	83	かなり 少ない	1777.1	110	かなり 多い
敦賀	16.3	+1.0	かなり 高い	1793.5	84	少ない	1732.2	111	かなり 多い

※平年差（比）は、平年値（1981年～2010年の30年平均値）から求めている。

#### ◇ 台風

台風の年間発生数は平年より多い29個（平年値25.6個）となり、日本への接近数は15個（平年値11.4個）、上陸数は平年を上回る5個（平年値2.7個）。北陸地方への接近数は6個（平年値2.5

個) となった。

【台風発生数・上陸数】

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	平年値
発生	1	1				1	4	5	6	4	6	1	29	25.6
上陸 (注1)							1	2	1	1			5	2.7
北陸地方に 接近した台風						1	1	1	2	1			6	2.5

(注1) 「上陸」は台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を指す。

※台風の中心が新潟県、富山県、石川県、福井県のいずれかの気象官署から300km以内に入った場合を「北陸地方に接近した台風」としている。

・接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

## 2 月別気象概況

◇ 2019年（令和元年）月別気象概況

### 1月

低気圧や冬型の気圧配置および寒気の影響で、雨や雪または曇りとなった日が多くなった。

月平均気温は、大野で平年並、その他の地点では平年より高くなった。

月降水量は、今庄で平年よりかなり少なく、勝山、美浜、小浜、大飯では平年並、その他の地点では平年より少なくなった。

月日照時間は、小浜で平年よりかなり少なく、三国、美浜は平年より少なく、敦賀は平年並、その他の地点では平年より多くなった。

### 2月

低気圧や冬型の気圧配置及び寒気の影響で、雨や雪または曇りとなった日が多くなったが、下旬は高気圧に覆われて晴れや薄雲りの日が多くなった。

月平均気温は、勝山、越廼、敦賀で平年よりかなり高く、その他の地点では平年より高くなった。

月降水量は、勝山、九頭竜、小浜、大飯で平年より少なく、その他の地点では平年よりかなり少なくなった。

月日照時間は、越廼で平年より多く、その他の地点では平年並みとなった。

### 3月

前半は高気圧に覆われて晴れや薄雲りの日もあったが、低気圧や冬型の気圧配置および寒気の影響で、雨や曇りとなった日が多くなった。

月平均気温は、全ての地点で平年よりかなり高くなった。

月降水量は、三国、越廼、美山、勝山、今庄で平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

月日照時間は、今庄で平年より多く、その他の地点では平年並となった。

#### 4月

高気圧に覆われて晴れや薄雲りの日もあったが、低気圧や西高東低の気圧配置および寒気の影響で、雨や曇りの日が多くなった。

月平均気温は、全ての地点で平年より低くなった。

月降水量は、三国で平年より少なく、敦賀では平年より多く、その他の地点では平年並となった。

月日照時間は、越廼で平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

#### 5月

高気圧に覆われて晴れた日が多くなったが、低気圧や前線の影響で、雨や曇りの日もあった。

月平均気温は、大野、今庄、美浜、小浜で平年より高く、その他の地点では平年よりかなり高くなった。

月降水量は、敦賀、小浜で平年並、その他の地点では平年より少なくなった。

月日照時間は、全ての地点で平年よりかなり多くなった。

#### 6月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、低気圧や前線の影響で、雨や曇りの日が多くなった。

月平均気温は、三国、美浜で平年より高く、その他の地点では平年並となった。

月降水量は、福井、美山、勝山、九頭竜、今庄、敦賀で平年より多く、その他の地点では平年並となった。

月日照時間は、勝山、越廼、今庄、敦賀、美浜、小浜で平年より多く、その他の地点で平年並となった。

#### 7月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、低気圧や前線の影響で雨や曇りの日が多くなった。

月平均気温は、全ての地点で平年並となった。

月降水量は、三国、大野、九頭竜、小浜で平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

月日照時間は、越廼、福井、大野、今庄、敦賀、美浜、小浜で平年より少なく、その他の地点で平年並となった。

#### 8月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、台風や停滞前線の影響で雨や曇りの日が多くなった。

月平均気温は、勝山で平年よりかなり高く、その他の地点では平年より高くなった。

月降水量は、三国で平年よりかなり多く、大飯で平年より少なく、その他の地点では平年より多くなった。

月日照時間は、全ての地点で平年並となった。

## 9月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、台風や前線の影響で雨や曇りの日もあった。

月平均気温は、越廼で平年より高く、その他の地点では平年よりかなり高くなった。

月降水量は、越廼で平年より少なく、その他の地点では平年よりかなり少なくなった。

月日照時間は、三国、越廼、福井で平年より多く、その他の地点では平年よりかなり多くなった。

## 10月

台風や前線の影響で雨や曇りの日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日もあった。

月平均気温は、全ての地点で平年よりかなり高くなった。

月降水量は、三国、勝山、大野、大飯で平年より多く、その他の地点では平年よりかなり多くなった。

月日照時間は、勝山、小浜で平年よりかなり少なく、その他の地点では平年より少なくなった。

## 11月

高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、前線や冬型の気圧配置の影響で雨や曇りの日もあった。

月平均気温は、三国、美浜で平年より高く、その他の地点では平年並となった。

月降水量は、小浜で平年より少なく、その他の地点では平年よりかなり少なくなった。

月日照時間は、全ての地点で平年よりかなり多くなった。

## 12月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、前線や低気圧及び冬型の気圧配置の影響で雨や曇りの日が多くなった。また、28日には初雪を観測した。

月平均気温は小浜で平年より高く、その他の地点では平年よりかなり高くなった。

月降水量は、九頭竜で平年より多く、三国で平年よりかなり少なく、美山、大野、今庄では平年並、その他の地点では平年より少なくなった。

月日照時間は、小浜で平年より少なく、今庄、美浜で平年並、その他の地点では平年より多くなった。

## 第3章 防災訓練の実施状況

### I 総合防災訓練

令和元年度福井県総合防災訓練を次のとおり実施した。

#### 1 目的

- ・災害対策基本法および福井県地域防災計画に基づき、防災関係機関が協力して迅速・的確に応急対策が実施できるよう、訓練会場の特色を活かした実践的な防災訓練を行い、併せて住民の防災に対する意識の高揚を図ることを目的に実施した。
- ・令和元年度は大野市真名川憩いの島を主会場に、福井県総合防災訓練および中部7県による緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練を実施した。
- ・大規模複合災害への着実な対応として、実動部隊による現地を活用した実践的な訓練、県整備臨時ヘリポートを使用した孤立集落救出訓練や防災関係機関によるライフライン復旧訓練、外国人避難者への避難支援、また、2市において住民避難・誘導訓練を実施した。

#### 2 日時、場所

- (1) 1日目：令和元年11月1日（金）8時30分～  
福井県庁、福井県消防学校、中部縦貫道建設工事現場（大野市）など
- (2) 2日目：令和元年11月2日（土）8時30分～12時00分
- 主訓練会場 真名川憩いの島（真名川河川敷、大野市中保地係）
  - サテライト会場 雁が原スキー場（勝山市170-11-1）  
奥越ふれあい公園（大野市篠座70-46） など

#### 3 主催

消防庁 福井県 福井県消防長会 緊急消防援助隊中部ブロック訓練実行委員会

#### 4 想定 奥越地域における大雨および地震による複合災害

- 1日目（緊急消防援助隊訓練の想定）  
奥越地域を震源とする地震（震度5強）により、緊急消防援助隊が参集し救助活動を実施
- 2日目（福井県総合防災訓練等の想定）  
奥越地域を震源とする地震（震度6強）により、自衛隊他防災機関が参集し救助活動を実施

## 5 参加機関 170機関 (約2,000人)

### (1) 国の行政機関

中部管区警察局福井県情報通信部、北陸総合通信局、敦賀海上保安部、東京管区気象台  
福井地方気象台、近畿地方整備局、近畿地方整備局福井河川国道事務所、近畿地方整備  
局九頭竜川ダム統合管理事務所

### (2) 自衛隊

自衛隊福井地方協力本部、陸上自衛隊第14普通科連隊、陸上自衛隊第10飛行隊、陸  
上自衛隊第372施設中隊、海上自衛隊舞鶴地方総監部、航空自衛隊第6航空団

### (3) 警察関係

福井県警察本部、大野警察署、勝山警察署、各市防犯隊

### (4) 応援県

石川県、富山県、岐阜県、奈良県

**緊急消防援助隊中部6県ブロック防災訓練関係**

石川県、富山県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

### (5) 消防関係

福井県消防長会、大野市消防本部、勝山市消防本部、福井市消防局、嶺北消防組合消防  
本部、鯖江・丹生消防組合消防本部、永平寺町消防本部、南越消防組合消防本部、敦賀  
美方消防組合消防本部、若狭消防組合消防本部、大野市消防団、勝山市消防団、自主防  
災組織、(公財)福井県消防協会

名古屋市消防局、静岡市消防局、浜松市消防局、金沢市消防局、富山市消防局、四日市  
市消防局、岐阜市消防局、大津市消防局、ほか緊急消防援助隊参加各消防本部

### (6) 医療関係

(一社)福井県医師会、(一社)勝山市医師会、(一社)大野市医師会、(一社)福井県歯科医  
師会、(公社)福井県看護協会、日本赤十字社福井県支部、福井県赤十字血液センター、  
福井県赤十字救護奉仕団、大野市赤十字奉仕団、勝山市赤十字奉仕団福井県無線赤十字  
奉仕団、赤十字飛行隊福井支隊、福井県立病院、福井赤十字病院、福井県済生会病院、  
福井大学医学部附属病院、福井勝山総合病院、公立丹南病院、市立敦賀病院、杉田玄白  
記念公立小浜病院、福井総合病院

### (7) 交通運輸関係

福井県倉庫協会、(一社)福井県トラック協会、日本通運(株)福井支店、(一社)日本自動  
車連盟、えちぜん鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)金沢支社福井地域鉄道部、中日本高速

道路(株)金沢支社、西日本高速道路(株)関西支社

## (8) ライフライン関係

西日本電信電話(株)福井支店、(株)NTTフィールドテクノ北陸支店、(公財)日本公衆電話会、(株)NTTドコモ北陸支社、ドコモCS北陸(株)、KDDI(株)北陸総支社、ソフトバンク(株)、北陸電力(株)福井支店、(一財)北陸電気保安協会福井支店、(一社)福井県電業協会、福井県管工事業協同組合、(一社)大野市建設業協会、(一社)福井県LPGガス協会、福井県高圧ガス地域防災協議会、(一社)日本コミュニティーガス協会近畿支部福井県防災会、福井県石油商業組合、関西電力(株)原子力事業本部、日本原子力発電(株)、(独)日本原子力研究開発機構

## (9) 各種団体

NHK福井放送局、北陸地方非常通信協議会、福井県行政書士会、福井県災害ボランティアセンター連絡会、大野市社会福祉協議会、大野和光園、福井県ドローン協会、日本郵便(株)、勝山市災害ボランティアセンター連絡協議会、(公財)福井県国際交流協会、協同組合中部研修機構、福井県石油業協同組合、(株)福井銀行、福井街角放送(株)、たんなん夢レディオ、(株)日立国際電気、大塚製薬(株)、福井県民生活協同組合

## (10) 地元地区関係

大野市、勝山市

## 6 主な訓練項目

### (1) 近年多発する大規模災害に対応した訓練

- ① ブラインドによる県災害対策本部運営訓練 (図上訓練)
  - ・ 災害情報共有システム(D-NET)を用いた情報共有
  - ・ 陸海空自衛隊が参加する合同調整会議を実施

### ② 実動機関による実践的な訓練

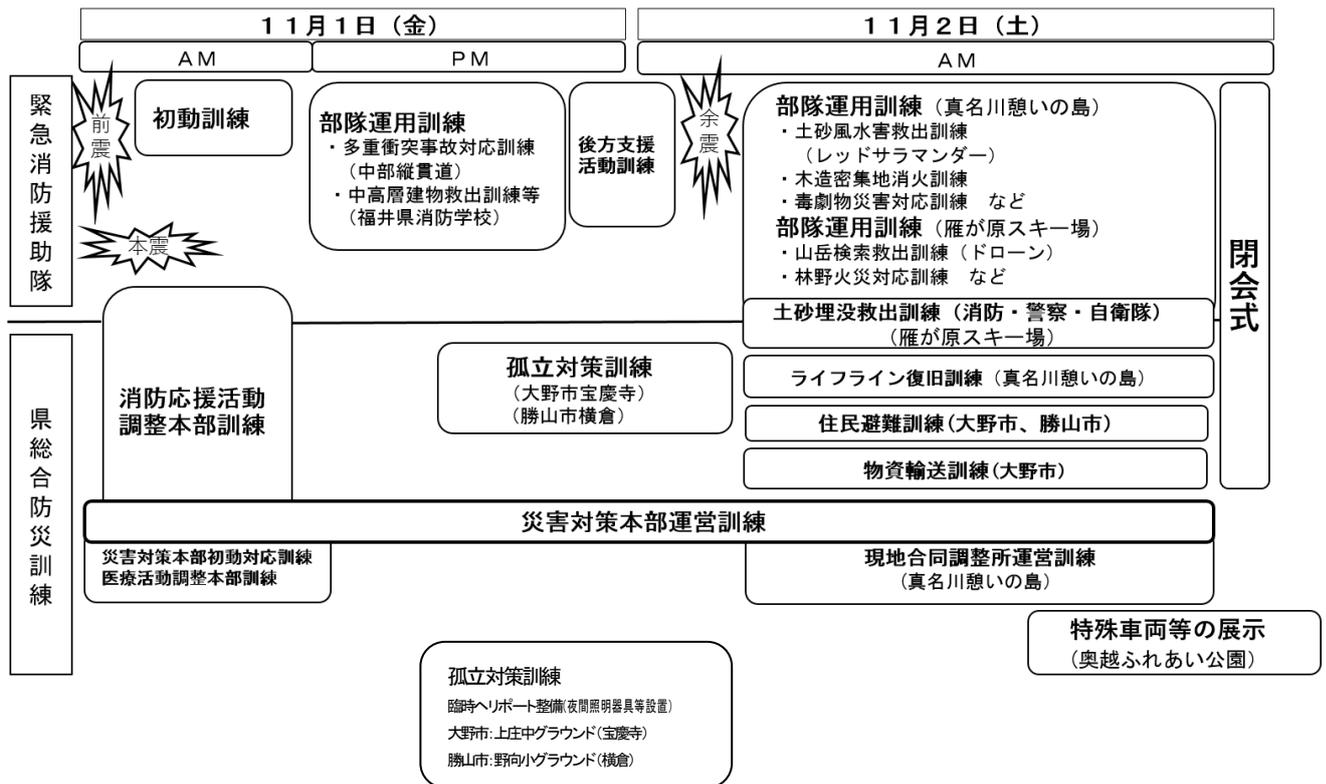
- 実際の災害現場に近い状況での実動訓練
  - ・ 消防装備のドローンを用いた山岳救助
  - ・ 全地形対応車による土砂災害対応
  - ・ 実際の斜面を用いた土砂埋没者の救出
- 現地を活用した実動訓練
  - ・ 中部縦貫道トンネル内での多重衝突事故からの救出

- ・孤立者の救出（孤立集落→県整備臨時ヘリポートへ）

### ③防災関係機関によるライフライン復旧訓練

- ・緊急送電による電力の復旧
- ・給水管の復旧

#### <訓練項目図>



### (2) 住民避難訓練・支援訓練

- ・大野市、勝山市全域 約3,000名が住民避難訓練に参加
- ・大野市小山小学校、勝山市北郷小学校、野向小学校で避難所運営訓練を実施
- ・外国人（大野市在住の技能実習生約20名）避難支援訓練
- ・陸路・空路による物資輸送（物資集積拠点→避難所へのラストワンマイル訓練）

## II 原子力防災訓練

### 1 目 的

福井県原子力防災計画および福井県広域避難計画要綱に基づき、国、県、関係市町、防災関係機関および地域住民が一体となった原子力総合防災訓練を実施し、国、地方公共団体、原子力事業者、関係機関における初動対応の確立、防災体制の確認、住民避難体制や緊急時医療措置等の災害対策の習熟、原子力災害対策に係る要員の技能の習熟および原子力防災に関する住民理解の促進を図ることを目的とする。

### 2 実施日

令和元年8月30日（金） 8：00～16：30

8月31日（土） 8：30～16：00

### 3 対象発電所 関西電力（株） 美浜発電所

### 4 場所

美浜町、敦賀市、小浜市、若狭町、越前市、南越前町、越前町等の訓練実施市町

### 5 訓練参加数

（機 関）

約100機関 約1,800人

（住 民）

避難訓練参加住民 約1,000人

屋内退避参加住民 約8,000人

合 計 約9,000人

### 6 参加・協力機関（順不同）

#### （1）指定行政機関

内閣府、原子力規制委員会 等

#### （2）指定地方行政機関

気象庁福井地方气象台、近畿地方整備局福井河川国道事務所、海上保安庁第八管区海上保安本部、舞鶴海上保安部、敦賀海上保安部、小浜海上保安署、陸上自衛隊中部方面総監部、陸上自衛隊第10師団司令部、陸上自衛隊第14普通科連隊、陸上自衛隊第10飛行隊、陸上自衛隊第372施設中隊、海上自衛隊舞鶴地方総監部、海上自衛隊舞鶴警備隊、航空自衛隊第6航空団、自衛隊福井地方協力本部 等

#### （3）指定公共機関

日本原子力研究開発機構 等

(4) 自治体関係

福井県、兵庫県、石川県、関西広域連合、福井県美浜町、敦賀市、小浜市、若狭町、越前市、南越前町、越前町、福井市、あわら市、坂井市、永平寺町、おおい町、兵庫県豊岡市、加西市 等

(5) 警察関係

福井県警察本部、敦賀警察署、小浜警察署、鯖江警察署 等

(6) 消防関係

若狭消防組合消防本部、敦賀美方消防組合消防本部、福井市消防局、敦賀美方消防組合美浜消防団、敦賀美方消防組合敦賀消防団、若狭消防組合小浜消防団、若狭消防組合上中消防団、若狭消防組合三方消防団等

(7) 学校関係

福井県教育委員会、美浜町教育委員会、敦賀市教育委員会、小浜市教育委員会、若狭町教育委員会、越前市教育委員会、南越前町教育委員会、越前町教育委員会 等

(8) 医療機関関係

(一社)福井県医師会、(一社)福井県薬剤師会、(公社)福井県診療放射線技師会、福井赤十字病院、福井県立病院、福井大学医学部附属病院、福井県済生会病院、国立病院機構あわら病院、坂井市立三国病院、地域医療機能推進機構福井勝山総合病院、越前町国民健康保険織田病院、公立丹南病院、市立敦賀病院、国立病院機構敦賀医療センター、レイクヒルズ美方病院、杉田玄白記念公立小浜病院、地域医療機能推進機構若狭高浜病院、広島大学 等

(9) 福祉関係

美浜町社会福祉協議会、敦賀市社会福祉協議会、(福)福井ゆうあい会 やはず苑  
(医)積善会 猪原病院 ヒバリヒルズ、(福)わかたけ共済部 第3和上苑  
(福)海楽園 海楽園、(福)町屋福祉会 こうの 等

(10) 交通運輸関係

(公社)福井県バス協会、(一社)福井県トラック協会、(一社)福井県タクシー協会、中日本高速道路(株)金沢支社、その他バス事業者 等

(11) 漁業関係

福井県無線漁業協同組合、福井県漁業協同組合連合会、敦賀市漁業協同組合、美浜町漁業協同組合、若狭三方漁業協同組合、大島漁業協同組合、若狭高浜漁業協同組合、河野村漁業協同組合、小浜市漁業協同組合、雄島漁業協同組合、三国港漁業協同組合、三国港機船底曳網漁業協同組合、福井市漁業協同組合、越廼漁業協同組合、越前町漁業協同組合 等

(12) その他

(株)NTTドコモ北陸支社、北陸地方非常通信協議会、(株)バロー 等

(13) 原子力事業者関係

関西電力(株)、日本原子力発電(株)、日本原子力研究開発機構、関電プラント(株) 等

## 7 事故想定

美浜発電所3号機において、若狭湾を震源とした地震による外部電源喪失後、原子炉冷却材の漏えいが発生。さらに設備故障等により非常用炉心冷却装置による原子炉への全ての注水が不能となり、全面緊急事態となる。

8 住民参加 8,988人

【PAZ】77人（県外0人、県内77人）

<8月30日（金）>

区分	避難元市町		避難先		人数
要配慮者等	美浜町	在宅要支援者	おおい町	いさいき長寿村	6

<8月31日（土）>

区分	避難元市町		避難先		人数
一般住民	美浜町		おおい町	おおい町総合町民体育館	63
	敦賀市		福井市	羽生小学校	8
合 計					71

【UPZ】962人（県外181人、県内781人）

区分	避難元市町・施設名		避難先		人数
一般住民	美浜町		おおい町	おおい町総合町民体育館	210
	敦賀市		福井市	羽生小学校	70
				少年自然の家	80
				美山公民館	123
				小浜市	豊岡市
	若狭町		加西市	加西市防災センター（県外）	83
	越前市		坂井市	春江中コミュニティセンター	89
			あわら市	金津東小学校	39
南越前町		永平寺町	上志比小学校	102	
越前町		坂井市	春江中コミュニティセンター	48	
病院・社会福祉施設	美浜町	やはす苑	おおい町	揚梅苑	3
	敦賀市	ヒバリヒルズ	福井市	ケアホーム・さいせい	4
		市立敦賀病院		福井県立病院	1
	越前市	第3和上苑	福井市	モアヤングこもれびホーム	3
	南越前町	こうの	福井市	たんぼぼ苑	3
	越前町	海楽園	坂井市	白楽荘	6
合 計					962

PAZ・UPZ 総計	1,039
------------	-------

屋内退避	7,949
------	-------

参加住民	8,988
------	-------

## 9 訓練項目

### (1) 住民避難訓練

#### ア 県内外の避難先施設への避難

県内避難 858人 (PAZ: 77人、UPZ: 781人)

県外避難 181人 (PAZ: 0人、UPZ: 181人)

#### イ 自衛隊車両、民間バス、自家用車による住民等の陸路からの避難

陸上自衛隊高機動車8台、県バス協会バス35台、自家用車64台

#### ウ 自衛隊、海上保安庁等のヘリコプターおよび船舶による住民等の空路、海路からの避難

[空路]陸上自衛隊ヘリ 2機、海上保安庁ヘリ 1機、県防災ヘリ 1機

[海路]海上自衛隊船舶 2隻、海上保安庁船舶 2隻

#### エ 避難車両中継所における自衛隊車両等から民間バスへの乗継

#### オ 消防団等による自家用車避難済み住民等の確認

### (2) 避難所開設運営訓練

#### ア 避難所の設置運営および受入マニュアル等に基づく避難者受入の実施

#### イ 県境を跨ぐ避難における受入訓練の実施

2施設 (五荘地区コミュニティセンター (兵庫県豊岡市)、加西市防災センター (兵庫県加西市))

#### ウ 避難元、避難先自治体における情報伝達の確認および福井県、兵庫県との連携

#### エ 避難者の受付 (避難退域時検査受検の有無の確認も含む)

#### オ 避難先施設における避難者への健康状態の確認

#### カ 災害時応援協定に基づく県トラック協会による物資の調達、搬送

#### キ 飲料水・飲食物の供給

#### ク 車両一時保管場所等 (車からバスへの乗換え、避難先への振分け場所) の設置 コウノトリ但馬空港 (兵庫県豊岡市)

#### ケ 避難先施設等における避難住民への事故状況等説明の実施

### (3) 避難行動要支援者避難訓練

#### ア 児童園児の保護者への引渡し

#### イ 引渡しできなかった児童園児は、職員と共に避難先施設等まで避難

美浜町 1施設 (美浜町東小学校)

#### ウ 入院患者、福祉施設入所者の避難先施設への搬送

美浜町 1施設 (やはす苑)

敦賀市 2施設 (市立敦賀病院、ヒバリヒルズ)

越前市 1施設 (第3和上苑)

南越前町 1施設 (こうの)

越前町 1施設 (海楽園)

#### エ 在宅の要配慮者の避難先となる福祉避難所への搬送

美浜町: おおい町いきいき長寿村

- オ 消防、市町社協、福祉施設、原子力事業者が保有する救急車や福祉車両による搬送  
救急車 1台  
福祉車両 9台
- カ 放射線防護のための換気設備を使用した屋内退避
- キ 避難先施設における避難者への健康状態の確認
- ク 警察による避難車両のパトカー先導

#### (4) 原子力災害医療措置訓練

- ア 福井県緊急時医療本部等の設置・運営
- イ 避難経路上における安定ヨウ素剤の緊急配布  
配布場所および配布数（11箇所、962人）  
（美浜東小学校、美浜西小学校、美浜町総合体育館、美浜町農村婦人の家、  
旧美浜北小学校、敦賀総合運動公園、県若狭合同庁舎、若狭町瓜生小学校、  
県丹南土木事務所、南越前町桜橋体育館、越前町越前地域福祉センター）
- ウ スクリーニングおよび簡易除染の実施  
実施場所および対象数等（2箇所、962人）  
（サンドーム福井、うみんぴあ大飯）  
自衛隊による車両除染の実施
- エ 発電所内で発生した被ばく患者の原子力災害拠点病院（福井赤十字病院）への搬送
- オ 原子力事業者、原子力災害医療協力機関の参画
- カ 広島大学（高度被ばく医療支援センター）との連携

#### (5) 屋内退避訓練

- ア UPZ圏住民による自宅等での屋内退避行動（戸締、情報収集等）の実施
- イ 避難に備え、非常用持出品（保険証、常備薬等）の準備
- ウ 家屋倒壊により屋内退避できない住民による近隣の指定避難所への退避
- エ 屋内退避の意義等の理解促進活動の実施（ケーブルテレビにおいて啓発番組の放送）

#### (6) 複合災害対応訓練

- ア 複合災害時における防災関係機関間の情報伝達、対応要請の確認
- イ 自衛隊、海上保安庁による住民避難の支援
- ウ 通行不能道路における道路啓開（障害物排除）の実施（1箇所）
- エ 家屋倒壊により屋内退避できない住民による近隣の指定避難所への退避【再掲】

#### (7) 緊急時通信連絡訓練

- ア 発電所から事故状況の通報連絡
- イ 国から県および関西広域連合、関係市町への通報連絡、避難指示等の伝達
- ウ 県、関係市町から自衛隊、海上保安庁、警察、消防、その他関係機関への通報連絡
- エ 事故発生から応急処理、復旧までの通信伝達、收受等
- オ 携帯型映像伝送装置等を利用した画像伝送

- カ 福井県警ヘリくずりゅうの映像伝送システムを利用した画像伝送
- キ 北陸地方非常通信協議会等による情報伝達

(8) 災害対策本部等運営訓練

- ア 福井県庁、各市町庁舎、福井県美浜原子力防災センターに災害対策本部等の設置・運営、情報収集・連絡体制を構築
- イ 災害対策本部等による住民に対する情報提供の実施  
(ホームページ(試行)、ケーブルテレビ、防災行政無線屋外拡声器、個別受信機、緊急情報メール、広報車、船舶等による地域住民・立入者等への広報)
- ウ テレビ会議システム等を活用し災害対策本部と現地災害対策本部との対策会議等の実施

(9) 原子力防災センター運営訓練

- ア 福井県美浜原子力防災センターへの要員派遣
- イ 現地事故対策連絡会議、原子力災害合同対策協議会の開催(実施方針の決定等)
- ウ 各機能班の活動
- エ 県および市町現地災害対策本部等と各機能班との連携
- オ 住民等の避難状況の確認
- カ 実施方針に基づいた応急対策(避難先等の決定、避難手段の確保など)

(10) 緊急時モニタリング訓練

- ア 緊急時モニタリングセンター等の設置・運営
- イ 緊急時モニタリング実施計画、緊急時モニタリング指示書の作成
- ウ 固定観測局および電子線量計観測局を活用したUPZ圏内の線量率の測定
- エ モニタリングカー、サーベイメータを活用した避難範囲の特定のための線量率の測定
- オ 「緊急時モニタリング情報共有システム(ラミセス)」を活用した関係機関との情報共有
- カ 固定観測局等のバックアップとしての可搬型モニタリングポストの設置および測定
- キ 環境試料の採取、受入
- ク 福井県モニタリング本部(美浜原子力防災センター)の設置・運営および後方支援
- ケ 原子力事業者間の相互応援による職員派遣および資機材の提供
- コ モニタリング要員被ばく管理および資機材等の汚染管理

(11) 自衛隊災害派遣運用訓練

- ア 福井県美浜原子力防災センターへの連絡要員の派遣
- イ 住民の避難支援【再掲】
- ウ スクリーニング会場における車両除染の実施【再掲】
- エ 通行不能箇所における道路啓開【再掲】

(12) 交通対策等措置訓練

ア 主要交差点等における渋滞抑制対策の実施

〔実施場所〕

美浜町 2箇所（美浜町佐田、若狭美浜 IC 口）

敦賀市 3箇所（敦賀市花城橋北詰、敦賀市運動公園北西、敦賀市岡山町）

イ 福井県警ヘリくずりゅうによる美浜発電所周辺地域の上空調査

ウ 道路管理者による道路点検の実施

エ 福井県警察本部のオフロードバイクによる避難地域の情報収集活動

オ 福井県警察警備艇わかさによる美浜発電所周辺の海上警備

カ 立入制限措置

キ 警察によるスクリーニング会場周辺道路における交通誘導

(13) 発電所事故制圧訓練

ア 緊急時活動レベル（EAL）による通報連絡訓練

イ 本店および発電所における緊急時対策本部設置・運営

ウ 規制庁ERCとの連携

エ 発電所における重大事故等発生時の対応

オ 原子力緊急事態支援組織の参画

カ 現地支援拠点等の支援体制の確立

Ⅲ 過去5年間の総合防災訓練等の実施状況

種別	年度	26	27	28	29	30	令和元
総合防災訓練	日時	平成26年11月1日(土)	平成27年8月30日(日)	平成28年10月30日(日)	平成29年8月27日(日)	平成30年11月9日(金)	令和元年11月1日(金)、2日(土)
	場所	弁天緑地、勝山市一円、大野市保健センター	小浜漁港、小浜市一円、県立大小学小浜キャンパス	北潟湖畔公園	南越前町日野川河川敷	テクノポート福井、永平寺河川公園	中部縦貫道、真名川憩いの島
	主催	福井県、勝山市	福井県、小浜市	福井県、あわら市	福井県、南越前町、越前市	福井県、福井市、あわら市、坂井市、永平寺町	消防庁 福井県 福井県消防長会 緊急消防援助隊中部ブロック訓練実行委員会
	参加機関	84	85	93	107	210	170
	訓練種目	39	48	44	41	92	75
想定	大雨と地震による災害	大雨による土砂災害および津波災害	大雨および地震・津波による災害	大雨と地震による災害	大雨と地震による災害	奥越地域における大雨および地震による複合災害	
参加人員	4,500	4,100	5,300	3,000	6,000	2,000	
石油コンビナート等	日時		平成27年8月9日(日)			平成30年11月10日(土)	
	場所		福井臨海地区石油コンビナート等特別防災区域およびその周辺海域			福井臨海地区石油コンビナート等特別防災区域およびその周辺海域	
	主催	未開催	福井県石油コンビナート等防災本部	未開催	未開催	福井県石油コンビナート等防災本部	未開催
	参加機関		30			30	
	訓練種目		28			9	
想定		地震による原油漏えい、防油堤一部破損および余震によるタンク火災			地震による原油漏えい、防油堤一部破損および余震によるタンク火災		
参加人員		451			100		
原子力防災訓練(総合訓練)	日時	平成26年8月31日(日)	平成27年10月16日(金) ※平成27年度は個別訓練	平成28年8月27日(土)、28日(日)		平成30年8月25日(土)、26日(日)	令和元年8月30日(金)、31日(土)
	訓練施設	関西電力(株) 高浜発電所3号機	関西電力(株) 高浜発電所	関西電力(株) 高浜発電所、大飯発電所		関西電力(株) 大飯発電所、高浜発電所	関西電力(株) 美浜発電所
	主催	福井県、高浜町、小浜市、おおい町、若狭町	福井県	福井県		国	福井県
	参加機関	120	86機関、442名 参加	高浜: 150 大飯: 100		191	100
	訓練種目	12	①最初対応訓練 ②安定ヨウ素剤緊急時配布訓練 ③スクリーニング・除染訓練 ④緊急時モニタリング訓練	13	未開催	13	13
想定	全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至り、放射性物質放出	全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至り、放射性物質放出	全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至り、放射性物質放出		全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至り、放射性物質放出	全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至り、放射性物質放出	
参加人員	4,100	6機関、84名 参加	5,546		7,457	8,988	

#### IV 市町別自主防災組織の結成状況

令和2年4月1日現在

	管内世帯数 (A)	自主防災組織 の組織数	隊員数	組織されている 地域の世帯数 (B)	組織率 (カバー率) (B/A)
福井市	104,511	1,146	75,692	102,482	98.1%
敦賀市	28,886	89	2,225	26,047	90.2%
小浜市	12,071	107	1,260	8,159	67.6%
大野市	11,250	205	6,013	10,850	96.4%
勝山市	7,039	117	1,630	6,779	96.3%
鯖江市	24,719	153	7,256	24,655	99.7%
あわら市	10,243	108	4,556	9,941	97.1%
越前市	30,829	239	9,520	30,621	99.3%
坂井市	32,147	320	4,411	23,400	72.8%
永平寺町	6,380	89	3,621	6,380	100.0%
池田町	921	20	145	720	78.2%
南越前町	3,419	70	1,034	3,002	87.8%
越前町	7,271	63	1,511	5,244	72.1%
美浜町	3,672	19	5,973	1,806	49.2%
高浜町	4,312	39	593	2,529	58.7%
おおい町	3,245	35	1,902	2,013	62.0%
若狭町	4,996	92	1,275	4,739	94.9%
合計・ 平均	295,911	2,911	128,617	269,367	91.0%

管内世帯数：住民基本台帳法に基づく人口、世帯数調べ（令和2年4月1日現在）

隊員数：自主防災組織の組織編成において隊員または班員等に位置づけられている実働隊員の総数（令和2年4月1日現在）

## 第4章 令和元年度防災行政無線利用状況

### 1 無線局の現況

防災行政無線局等一覧（令和2年4月1日現在）

〔固定系〕

区分	局数		設置場所	
	多重系	衛星系		
統制局	1	1	県庁	
中継局	7		越知山（越前町大谷寺） 久須夜ヶ岳（小浜市堅海） 村国山（越前市村国） 八ツ杉（越前市別印） 勝山（勝山市滝波町） 岳山（美浜町早瀬） 青葉山（高浜町中山）	
支部局	7	7	7土木（福井、三国、奥越、丹南、鯖江丹生、敦賀、小浜）	
合庁局	1	1	1合同庁舎（福井）	
ダム管等局	12		原子力センター 龍ヶ鼻ダム管※、龍ヶ鼻ダム下流連絡所※、永平寺堰堤※ 笹生川ダム管、笹生川堰堤※、浄土寺川堰堤※ 広野ダム管、広野堰堤※、榎谷堰堤※ 大津呂堰堤※、河内川堰堤※ ※水防無線局を含む	
小計	28	9		
端末局	県出先機関		13	健康福祉センター（福井、坂井、奥越、丹南、二州、若狭）、 県立病院、福井港湾、敦賀港湾、 衛生環境センター、防災航空事務所※ 坂井上水、日野川上水 ※福井空港は、併設局（防災航空隊）と共用
	市町		17	9市：福井、敦賀、小浜、大野、勝山、鯖江、あわら、越前、坂井 8町：永平寺、池田、南越前、越前、美浜、高浜、おおい、若狭
	消防本部		7	7消防本部 福井、大野、勝山、永平寺、嶺北、南越、若狭 ※鯖江丹生消防・敦賀美方消防は併設局（鯖江市・敦賀市）と共用
	国・公共機関等		19	福井气象台、鯖江自衛隊、舞鶴自衛隊、敦賀海保、福井海保 日赤福井、福井県医師会、福井火力、福井石油備蓄、原電敦賀 関電美浜・高浜・大飯、ふげん、もんじゅ オフサイトセンター（敦賀、美浜、大飯、高浜）
	小計		56	
衛星車載局		1		
可搬型地球局		3		
合計	28	69		

[移動系]

区 分		局 数	設 置 場 所
陸 上 基 地 局	全 県 移 動 260MHzデジタル	11	県庁統制局 中継局（越知山、久須夜ヶ岳、陣ヶ岡、村国山、岳山、青葉山、 八ツ杉、勝山） 土木事務所（敦賀） 笹生川ダム管
	F W A (18GHz)	1	坂井合同庁舎
	400MHz防災相互	1	防災航空事務所
	計	13	
航 空 局		6	防災航空事務所（可搬用含む）
陸 上 移 動 局	全 県 移 動 局 260MHzデジタル	車載型 47	県庁 3台 土木事務所 42台（福井6台、三国6台、奥越7台、丹南7台、鯖江丹生6台、 敦賀4台、小浜6台） 防災航空事務所、衛星車載局
		半固定型 39	県出先機関 8台：健康福祉センター（福井、坂井、奥越、丹南、二州、若狭） 県立病院、防災航空事務所
			9市：福井、敦賀、小浜、大野、勝山、鯖江、あわら、越前、坂井
			8町：永平寺、池田、南越前、越前、美浜、高浜、おおい、若狭
			9消防本部：福井、大野、勝山、永平寺、嶺北、鯖江丹生、南越、敦賀美方、若狭
		5防災関係機関：福井駅、NHK福井、福井放送、福井テレビ、FM福井	
	携帯型 70	県庁 30台、敦賀土木 20台、小浜土木 20台	
	携帯型(他機関) 44	原子力センター 3台、地域医療課 41台	
	小 計 200		
	F W A (18GHz)	1	陣ヶ岡中継局
	消 防 移 動 局	車載型 1	防災航空事務所
携帯型 8		県庁 1台、防災航空事務所 7台	
小 計 9			
防 災 移 動 局	携帯型 5	防災航空事務所、400MHz 防災相互	
計	215		
携 帯 局(へり用)		消防用 2	防災ヘリコプター
航 空 機 局		航行運航用 1	
簡 易 無 線 局		2	簡易画像伝送装置（衛星車載局に搭載）
へ り サ ツ ト 局	携帯基地地球局	固定型 1	県庁局
	ヘリコプター局	へり搭載型 1	防災ヘリコプター
	計	2	
合 計		241	

## 2 利用状況

### (1) 一般通話の利用状況

令和元年中

区 分	一年間の総計	一カ月当たりの平均使用回数	一局当たりの月平均使用回数
支 部 ・ 合 庁 局	338,158	28,180	(10局) 2,818
ダ ム 管 等 局	9,931	828	(11局) 75
県 出 先 機 関	7,957	663	(15局) 52
市 町	640	53	(17局) 3.1
消 防 本 部	237	20	(9局) 2.2
国 出 先 機 関	81	6.8	(5局) 1.4
公 共 機 関	95	7.9	(9局) 0.9
原 子 力 発 電 所 等	102	8.5	(10局) 0.9
合 計	357,201	29,767	(86局) 346

### (2) 一斉指令の利用状況

[指令内容別]

令和元年中

区 分	気 象 関 係				事務連絡	テスト	合 計
	警 報	注意報	情 報	計			
指 令 回 数	84	1,535	725	2,344	261	40	2,645
前年比 (%)	34	97	64	79	90	75	80

[指令種類別]

令和元年中

区 分	全 県	県出先	市 町	消 防	その他	合 計
指 令 回 数	2,396	54	184	160	0	2,794
前年比 (%)	87	86	67	64	—	84

(3)一斉指令月別通信回数

令和元年中

区分	月												計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
内容	気警報	0	0	0	0	28	2	34	0	20	0	0	84
	象注意報	146	110	135	128	98	153	167	72	139	140	135	1,535
	関係情報	95	68	79	22	16	53	127	37	58	21	71	725
別	係小計	241	178	214	150	114	208	328	109	217	161	206	2,344
	事務連絡	18	10	22	36	39	20	16	18	13	20	17	261
種別	テラスト	7	1	3	3	3	0	3	1	7	11	1	40
	計	266	189	239	189	156	228	347	128	237	192	224	2,645
種類別	全県	236	185	219	177	151	206	296	106	213	172	214	2,396
	県出先	4	1	3	4	3	5	3	7	4	6	5	54
	市町	16	2	18	6	4	18	48	15	20	11	5	184
	消防	10	3	17	6	3	13	45	15	16	7	5	160
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	266	191	257	193	161	271	242	392	143	253	196	229	2,794

備考:市町と消防へ一括して一斉指令した場合は、市町と消防の種類別において、それぞれ回数を計上

3 多重局通信回数集計表

令和元年中

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
福井支部	2,473	2,734	2,912	2,522	2,598	3,402	3,548	2,517	2,978	3,067	2,697	2,378	33,826
三国支部・坂井合庁	2,492	3,058	3,079	2,850	2,826	3,920	3,128	2,451	3,150	3,423	3,030	2,990	36,397
奥越支部・奥越合庁	2,724	2,964	3,215	3,398	2,779	3,460	3,324	2,743	2,978	3,400	2,981	2,751	36,717
勝山中継局	498	558	637	510	528	675	692	689	516	708	559	649	7,219
丹南支部・南越合庁	3,436	3,894	4,067	4,140	4,072	4,866	5,211	4,795	4,428	5,159	4,547	4,368	52,983
鯖江丹生支部	1,081	1,199	1,484	1,299	1,326	1,863	1,821	1,649	1,649	2,045	1,441	1,394	18,251
敦賀支部・敦賀合庁	2,793	2,916	3,203	2,996	3,138	4,202	4,425	3,343	3,176	4,067	3,254	3,279	40,792
小浜支部・若狭合庁	3,754	3,999	4,388	4,470	4,583	5,831	5,512	4,774	4,871	5,722	5,015	4,889	57,808
福井合庁	3,231	3,505	3,752	3,787	3,402	3,622	4,104	3,399	3,548	4,165	3,829	3,443	43,787
丹生合庁	498	737	589	703	830	1,015	1,154	929	919	1,054	1,015	935	10,378
原子力センター	413	493	478	436	502	528	441	376	345	506	434	534	5,486
笹生川ダム管	110	116	162	160	120	138	166	124	121	161	115	102	1,595
笹生川堰堤	0	0	0	11	16	28	23	25	11	8	26	3	151
浄土寺川堰堤	6	7	0	24	17	6	11	0	1	1	7	1	81
広野ダム管	81	114	129	150	108	175	134	140	133	183	142	140	1,629
広野堰堤	5	1	3	6	1	14	3	8	1	5	1	11	59
榑谷堰堤	8	1	8	0	1	16	4	6	2	1	1	11	59
龍ヶ鼻ダム管	58	61	76	72	74	103	68	65	34	64	40	79	794
永平寺堰堤	0	7	4	1	2	4	8	0	0	0	0	4	30
大津呂ダム管	0	0	0	9	1	9	0	3	0	3	0	5	30
河内川堰堤	0	0	0	0	0	7	1	0	0	0	2	7	17
計	23,661	26,364	28,186	27,544	26,924	33,884	33,778	28,036	28,861	33,742	29,136	27,973	348,089

※土木事務所(支部局)と合同庁舎が隣接している局については、合算している。

4 端末局無線通信回数調

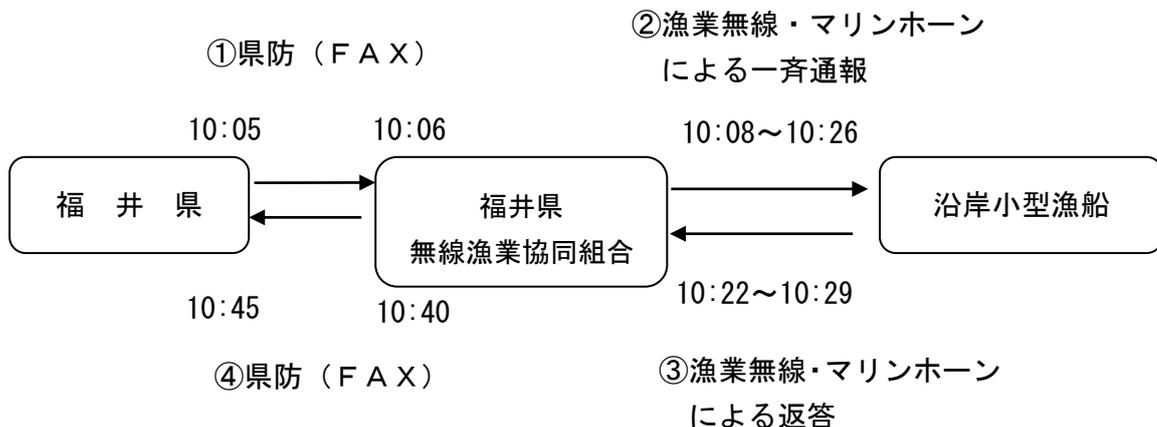
令和元年中

無 線 局	通信回数	無 線 局	通信回数	無 線 局	通信回数
福 井 市	57	福 井 消 防	19	福 井 気 象 台	56
敦 賀 市	30	大 野 消 防	65	鯖 江 自 衛 隊	9
小 浜 市	36	勝 山 消 防	28	舞 鶴 自 衛 隊	6
大 野 市	51	永 平 寺 消 防	30	敦 賀 海 保	6
勝 山 市	58	嶺 北 消 防	23	福 井 海 保	4
鯖 江 市	35	鯖江丹生消防	17	国 出 先 計	81
あ わ ら 市	51	南 越 消 防	12	福 井 駅	6
越 前 市	40	敦賀美方消防	15	N H K 福 井	5
坂 井 市	35	若 狭 消 防	28	福 井 テ レ ビ	4
市 計	393	消 防 計	237	福 井 放 送	4
永 平 寺 町	46	福 井 保 健	84	F M 福 井	4
池 田 町	30	若 狭 保 健	90	日 赤 福 井	16
南 越 前 町	27	二 州 保 健	164	福 井 県 医 師 会	10
越 前 町	32	丹 南 保 健	113	福 井 火 力	7
美 浜 町	23	坂 井 保 健	68	福 井 備 蓄	39
若 狭 町	38	奥 越 保 健	105	公 共 機 関 計	95
お お い 町	20	武 生 保 健	13	原 電 敦 賀	12
高 浜 町	31	衛 生 環 境 セ ン タ ー	2,581	関 電 美 浜	28
町 計	247	県 立 病 院	212	関 電 大 飯	8
市 町 計	640	防 災 航 空 隊	46	関 電 高 浜	8
		福 井 港 湾	537	原 子 力 機 構 ふ げ ん	9
		敦 賀 港 湾	2,361	原 子 力 機 構 も ん じ ゅ	13
		福 井 空 港	49	敦 賀 オ フ サ イ ト	6
		坂 井 上 水	485	美 浜 オ フ サ イ ト	6
		日 野 川 上 水	1,049	大 飯 オ フ サ イ ト	6
		県 出 先 計	7,957	高 浜 オ フ サ イ ト	6
				原 子 力 発 電 所 等 計	102
				合 計	9,112

※衛星回線による、端末局同士の通信回数はカウントされていない

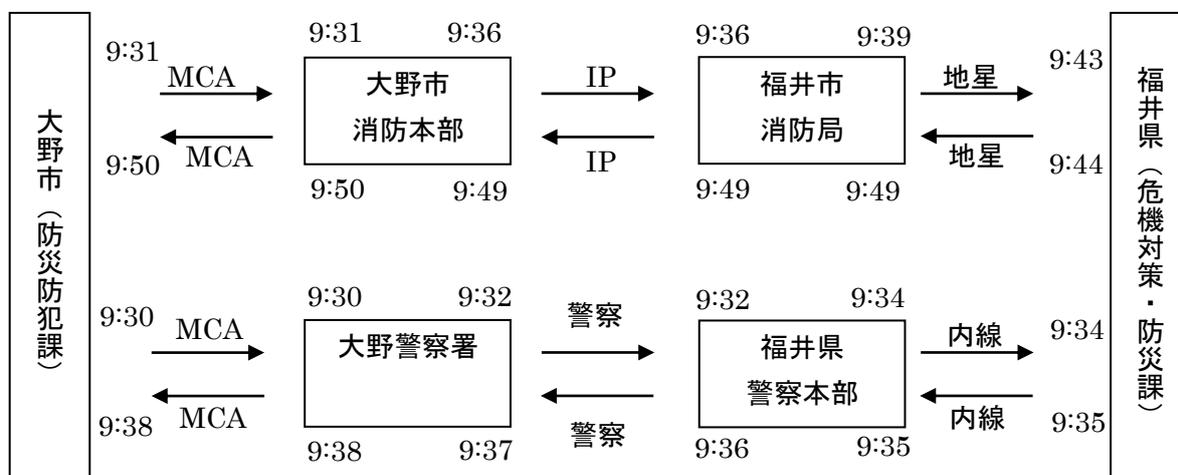
5 非常通信訓練実施状況

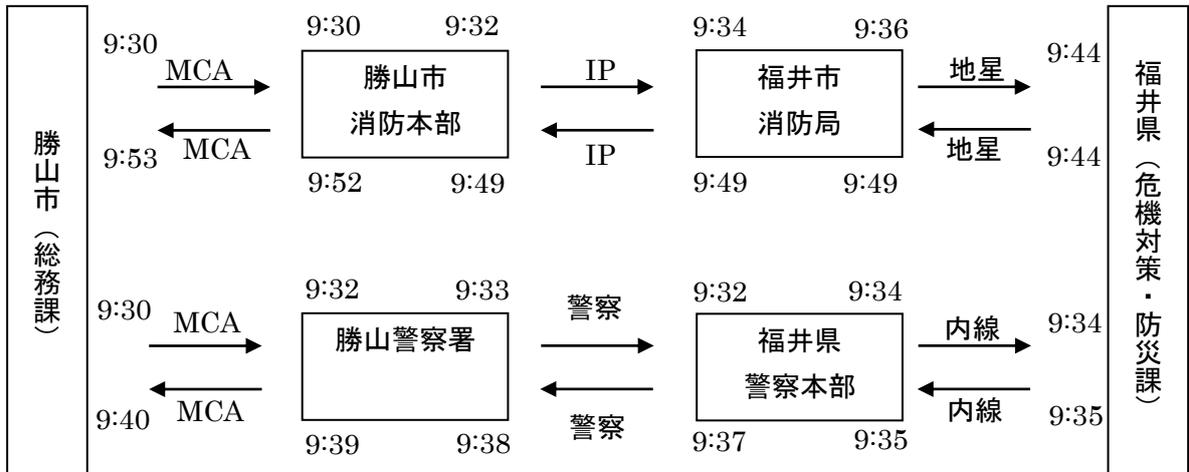
- (1) 令和元年度原子力総合防災訓練に伴う非常通信訓練（令和元年8月30日）  
 ・福井県から沿岸の船舶に向けて情報発信（漁業無線およびマリンホーンを使用）



- (2) 令和元年度福井県総合防災訓練における非常通信訓練、災害対策用移動通信機器貸出訓練（令和元年11月2日）

- ・大野市役所から福井県あて往復信（消防・警察ルートを使用）
- ・勝山市役所から福井県あて往復信（消防・警察ルートを使用）
- ・（一財）移動無線センターから携帯型MCA無線機を借り受け、大野市役所～大野市消防本部、大野市役所～大野警察署、勝山市役所～勝山市消防本部、勝山市役所～勝山警察署で非常通信訓練を実施
- ・県のIP無線機を貸し出し、大野市消防本部～福井消防局、勝山市消防本部～福井消防局で非常通信訓練を実施



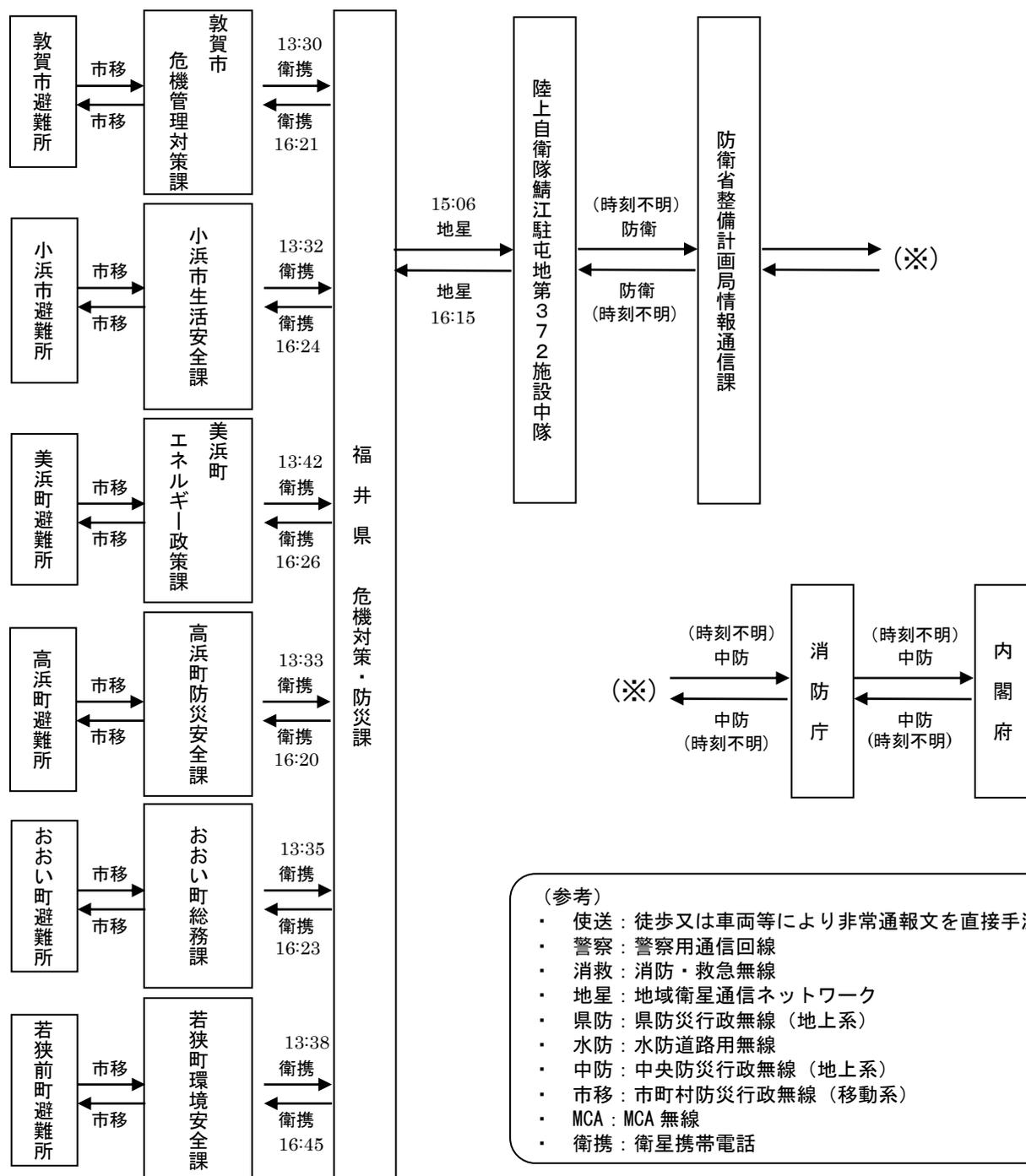


(参考)

- ・ MCA : MCA 無線機 (今回訓練用にセンターから貸出)
- ・ IP : IP 無線機 (今回訓練用に県から貸出)
- ・ 警察 : 警察用通信回線
- ・ 地星 : 地域衛星通信ネットワーク
- ・ 内線 : 県庁内線電話

(3) 令和元年度 第82回全国非常通信訓練 (令和元年12月19日)

- ・ 嶺南地方の各市町から福井県あて、福井県から内閣府へ往復信。市町～県庁間は衛星携帯電話 (ワイドスターII)、県庁～内閣府間は防衛省の防衛ルートを使用。
- ・ なお、訓練当日、担当者が急用のため不在となってしまった局があり、当初想定していたよりも大幅に時間がかかった。

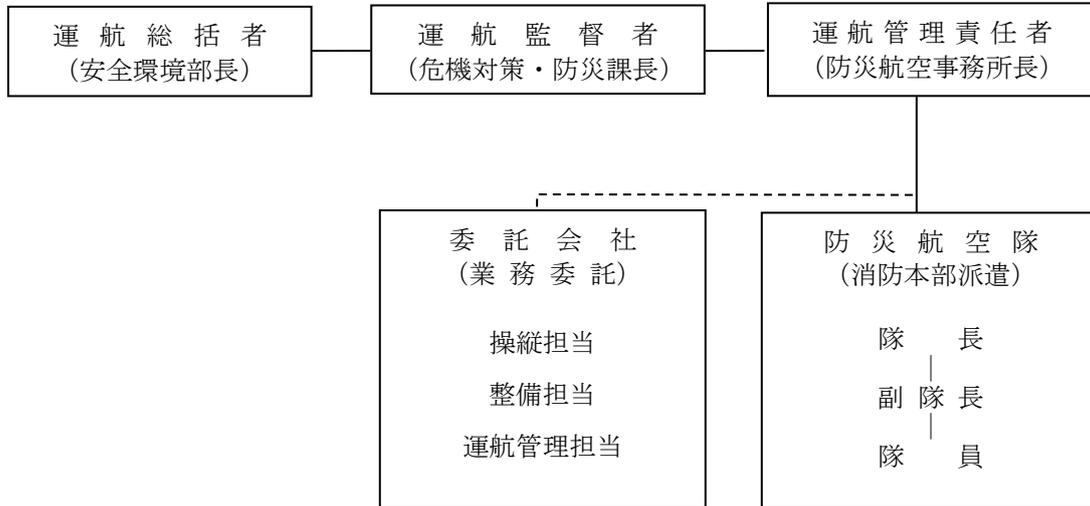


## 第5章 防災ヘリコプターの運航体制

### 1 運航基地

福井県防災航空事務所（福井空港内）

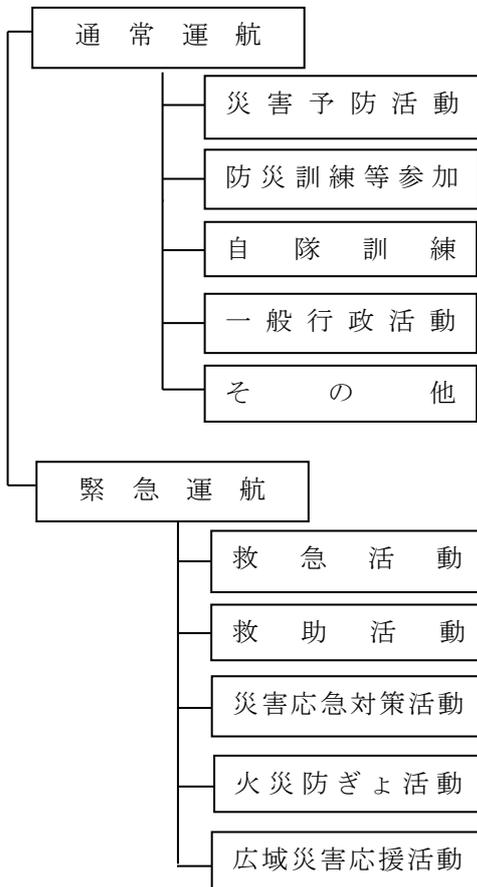
### 2 組織図



### 3 運航時間

毎日、午前8時30分から午後5時15分まで  
 （ただし、緊急運航の場合は日の出から日没まで）

### 4 活動業務



Blue Arrow 主要性能

機種	川崎BK117C-2
メーカー（製造国）	川崎重工業（日本）
エンジン最大出力	1,384SHP
エンジン基数	2基
搭乗人員	11人
最大全備重量	3,585kg
最大搭載可能重量	1,715kg
航続距離	685km
ホイスト装置	270kg
貨物吊り下げ装置	1,500kg
全長	13.03m
全高	3.95m
最大速度	278km/h
航続時間	約3.5h
着陸方式	スキッド式

第1表 福井県防災ヘリコプター運航実績表（年度別）

令和2年3月31日現在

区分	緊急運航						通常運航						合計	
	救急	救助	災害応急	火災防御	広域災害 応援	計	自隊訓練	防災訓練 参加	災害予防活動		一般行政	整備		その他
									危険箇所 調査	災害予防 広報				
平成22年度	件数 22 時間 9:31	26 19:26			15 21:26	63	128	40		4	3	4	3	245 269:40
平成23年度	件数 25 時間 10:01	26 10:46	4 4:03	1 3:19	6 11:09	62 39:18	125 151:46	39 29:10		4 16:10	4 5:08	3 5:23	4 3:31	241 250:26
平成24年度	件数 25 時間 13:51	24 18:31		1 0:52	11 13:25	61 46:39	162 183:11	39 27:30		3 11:08	1 1:40	5 7:41	5 2:03	276 279:52
平成25年度	件数 29 時間 15:24	23 19:33	9 13:12		12 13:28	73 61:37	158 184:16	33 21:18		3 11:11	1 1:40	5 5:54	4 4:05	277 290:01
平成26年度	件数 28 時間 12:35	29 20:32			12 12:35	69 45:42	139 146:21	33 26:36	1 1:43	3 11:43	4 2:16	8 8:02	8 5:26	265 247:49
平成27年度	件数 36 時間 19:30	36 26:08			6 9:38	78 55:16	162 174:09	40 25:37			2 2:24	6 4:16	3 2:37	291 264:19
平成28年度	件数 37 時間 20:50	31 30:03			10 14:41	78 65:34	142 152:04	40 29:34			2 3:17	9 10:26	2 1:21	273 262:16
平成29年度	件数 28 時間 15:55	40 29:37		1 1:04	14 14:55	83 61:31	152 159:41	27 20:22			1 1:26	7 5:06	3 1:34	273 249:40
平成30年度	件数 21 時間 15:19	18 9:26	1 0:25	1 0:24	21 12:56	62 38:30	176 188:45	32 22:58				8 5:48	4 1:44	282 257:45
令和元年度	件数 25 時間 13:50	36 24:25	2 1:23		28 24:21	91 63:59	167 183:15	25 22:10				11 6:49	4 2:23	298 278:36

※年間の飛行時間は300時間が限度であるが、耐空検査を年度中に実施しているため、年度合計は300時間を超える場合がある

## 第6章 衛星車載局の運用体制

### 1 収 容

福井県消防学校内

### 2 運用組織図

使用管理者 (危機対策・防災課長)	運用統括責任者：運用総括業務	1名
	通信機器操作員：通信機器類の操作、調整 県庁統制局の操作、調整	2名 1名
	情報収集伝達員：情報の収集、伝達	2名

### 3 運 用

<非常時の運用>

災害発生もしくは発生する恐れがあるときに、災害の予防、被災後の救助および復旧などの災害対策等に必要な情報の収集・伝達を行う。

<平常時の運用>

業務、事業、イベント等の紹介を行う。

非常時および平常時とも映像情報の伝送を可能としていることにより、より詳細な状況の把握、広報等が可能である。

### 4 主な仕様

<アンテナ装置>

反射鏡部	オフセットパラボラ	有効開口径 1.8 m
駆動部	電動/手動	
衛星捕捉	GPS等各種センサーおよび送受信装置受信偏波特性比較機による完全自動衛星捕捉が可能	

<送受信装置>

画像系電力増幅部	飽和最大出力	300W以上 (TWT)
個別通信系電力増幅部	飽和最大出力	40W以上 (SSPA)

<端局装置>

実装チャンネル数	個別最大通信回線用	4 CH
	デジタル画像送信用	1 CH
	デジタル画像受信用	1 CH

デジタル画像変復調部 動 画：6 Mbps

<その他端末装置>

全県移動車載型無線装置	260MHz デジタル通信 複信方式
衛星自動車電話	衛星携帯・自動車電話対応
簡易画像伝送装置	50GHz 帯回線構成での画像伝送



保 安 編



# 第1章 高圧ガス保安

## 概況

高圧ガスは、エネルギー、原料ガスおよび先端技術分野における特殊材料ガスなどに利用されるなど、その活用分野は広範囲である。ただし、高圧ガスは有用な反面、高圧状態であること、さらにガスの種類によって可燃性、支燃性および毒性などの化学的な特性があるため、大規模な事故や災害を巻き起こす危険性がある。

このため、高圧ガス保安法等の関係法令に基づく許認可や届出義務などによる危害予防のための規制があるほか、高圧ガス事業者および高圧ガス保安協会による自主的な保安活動を促進するための各種の講習会などを通じた保安指導を実施している。

国内全体での製造事業所の高圧ガスの事故は、平成23年の1083件をピークに、減少傾向が続いている（平成29年833件、平成30年878件、令和元年649件）。

なお、事故の内訳で最も多いのが、盗難（平成29年256件、平成30年161件、令和元年47件）である。

一方、高圧ガスのうち一般消費者等への販売にかかる液化石油ガス事故については、全国で平成18年に219件（前年比+114件）と急激な増加を見せた後は年によって増減の幅はあるものの、おおむね200件前後で推移しており、令和元年は198件（前年比-13件）である。

県は、法令遵守はもとより、講習会、保安検査および立入検査などを定期または随時に実施し、高圧ガス事業者等に対する指導を行なっている。特に、液化石油ガス事業者に対しては、LPガス設備の点検・調査および改善などの法令遵守ならびに事故防止対策の徹底の指導などを通じ、一般消費者等の安全・安心を推進している。

第1表 市町別高圧ガス関係事業所数

令和2年3月31日現在

事業所 区分	製造事業者										販売事業者(店舗数)										貯蔵所			特定消費事業所			オート ガススタンド	保安機 関	容器檢 査所						
	第1種					第2種					一般 (LPG 販売を 兼ねて いる者 を含む)	液化石油ガス				高圧 法の み	一般		液化 石油 ガス	計	一般		液化 石油 ガス	計	液化 石油 ガス					計					
	一般 石油 ガス	冷凍		一般	液化 石油 ガス	冷凍		計	高圧 法の み	液石法のみ		両方	計	冷凍	計		一般	計			液化 石油 ガス	計			一般	計					液化 石油 ガス	計			
		アンモニア 以外	アンモニア			アンモニア 以外	アンモニア			大臣 所管																							知事 所管	大臣 所管	知事 所管
福井市	11	21	1	10	11	43	26			6	206	212	238	281	93	22	1	6	7	70	106	344	543	21	5	26	8	16	24	5	75	4			
敦賀市	11	5		7	7	23	15			6	73	79	94	117	20	1		1	3	10	15	57	92	13	5	18	5	4	9	1	12				
小浜市	1	1		3	3	5	5				18	18	23	28	7			1	4	7	12	27	46	4		4	2		2	1	8				
大野市		2			2	2	2				24	24	26	28	5			3	3	16	22	33	60	2		2			1	17					
勝山市		3		2	2	5	2			1	20	21	23	28						17	17	19	36	1	1	2		2	2	1	15				
鯖江市	3	7		1	1	11	12				43	43	55	66	3	1	2	1	24	28	53	84	7		7	1	7	1	7	8	25	1			
あわら市	3	1		1	1	5	7				41	41	48	53	1					11	11	20	32	1	2	3	2	2	4	1	11				
越前市	15	8		1	1	24	5			1	98	99	104	128	17	7		2	3	29	41	67	125	11	3	14	8	7	15		26				
坂井市	11	14		5	5	30	14			2	78	80	94	124	5		5	1	48	54	57	116	17	3	20	5	16	21	50	1	50	1			
市計	55	62	1	30	31	148	88	0	16	601	617	705	853	151	31	1	20	22	232	306	677	1134	77	19	96	31	54	85	10	239	6				
永平寺町		1		1	1	2	3				14	14	17	19						6	6	17	23	1		1	1		1		6	1			
池田町							0				2	2	2	2						2	2	2	4								2				
南越前町	3			6	6	9	0			2	5	7	7	16						3	3	6	9								3				
越前町	3	2			5	8			3	15	18	26	31	2				1	24	25	12	39	1	1	1	1	2	2	2	25					
美浜町				1	1	1	2				6	6	8	9						3	3	6	9	8		8	1	1	1	3					
高浜町	1			2	2	3	4		1	7	8	12	15	2					2	2	6	10	15			15	1	1	1	2					
おおい町							1				4	4	5	5		1			1	4	6	4	10	8		8	1	1	1	4					
若狭町	1	3		1	1	5	2				22	22	24	29			1			7	8	11	19	1	1	2	1	3	4	8					
町計	7	7	0	11	11	25	20		6	75	81	101	126	4	1	0	1	2	51	55	64	123	34	1	35	5	5	10	1	53	1				
県計	62	69	1	41	42	173	108	0	22	676	698	806	979	155	32	1	21	24	283	361	741	1257	111	20	131	36	59	95	11	292	7				

第2表 ガスの種類別高圧ガス製造事業所数（冷凍事業所を除く）

令和2年3月31日現在

ガスの種類	第1種製造者（事業所）	第2種製造者（事業所）
空 気	6	37
酸 素	3	14
窒 素	21	43
水 素	—	—
炭 酸 ガ ス	15	7
フ ロ ン ガ ス	1	—
ア ン モ ニ ア	1	—
塩 素	—	—
ア ル ゴ ン	2	4
酸 化 エ チ レ ン	1	—
塩 化 ビ ニ ル	1	—
ヘ リ ウ ム	—	—
プ ロ ビ レ ン	—	—
エ チ レ ン	—	—
天 然 ガ ス	9	2
L P ガ ス	70	—
計	130	107

- 1 第1種製造者とは、1日の処理能力が100 m<sup>3</sup>以上（政令で定める「第一種ガス」にあつては300 m<sup>3</sup>以上）、それ以外のものを第2種製造者という。
- 2 同一事業所で2以上のガスを製造している事業所については、最も処理量が多いガスまたは主たる目的のガスに計上

第3表 処理量別・製造形態別製造事業所数（冷凍事業所を除く）

令和2年3月31日現在

事務所数 処理量区分(m <sup>3</sup> )	空 液 分	気 化 離	L 工 業 消 費	L ガ ス ス タ ン ド	L ガ ス 充 填 所	L P ガ ス ス タ ン ド	L P 充 填 所	L N G ガ ス ス タ ン ド	圧 空 充 填 所	C E の 製 造 事 業 所		移 動 式 製 造 事 業 所	そ の 他	合 計
										充 填 所	消 費			
0以上～ 30未満									6		14		26	46
30～ 100									11		9		5	25
100～ 1,000									24		27	1	8	60
1,000～ 1万			2					1			12		5	19
1万～ 10万	4		28	2	(※4) 9					3		2	4	53
10万～100万	1		10		(※5) 17							3	3	34
100万～1,000万	1											1		2
1,000万～1億														
1億以上														
計	6		40	2	26			1	41	3	62	7	51	239

1 同一事業所で2以上の製造形態がある場合は、もっとも処理量の多い製造形態を当該形態に計上した。(ただし、附属冷凍を除く)

2 ※は充填所に併設されているスタンド数

第4表 高圧ガス貯槽数（冷凍事業所を除く）

令和2年3月31日現在

（単位：基）

ガス名 貯槽の区分 (貯槽能力)	3トン 以上	10トン 以上	50トン 以上	100トン 以上	計
	10トン 未満	50トン 未満	100トン 未満	1,000トン 未満	
液化酸素	8	11		1	20
液化炭酸ガス	13	1			14
液化アンモニア		5			5
液化水素					
液化塩素					
酸化エチレン		1			1
塩化ビニルモノマー			1	1	2
LPガス		108	9		117
液化窒素	38	33	1	2	74
液化フロン		1			1
液化アルゴン	3	13	4		20
液化天然ガス		13	8		21
計	62	186	23	4	275

第5表 令和元年度高圧ガス製造保安責任者試験実施状況

令和元年11月10日  
福井県立大学

種 類	受験者区分	出願者数 (人)	受験者数 (人) (A)	合格者数	
				(人) (B)	合格率 (%) (B/A)
乙種化学	全科目受検者	18	13	3	23.1
	科目免除者	8	8	7	87.5
	計	26	21	10	47.6
丙種化学 (液石丙化)	全科目受検者	35	29	4	13.8
	科目免除者	23	23	23	100.0
	計	58	52	27	51.9
丙種化学 (特別丙化)	全科目受検者	41	36	9	25.0
	科目免除者	21	20	15	75.0
	計	62	56	24	42.9
乙種機械	全科目受検者	25	22	4	18.2
	科目免除者	5	5	3	60.0
	計	30	27	7	25.9
第2種 冷凍機械	全科目受検者	8	8	2	25.0
	科目免除者	2	2	2	100.0
	計	10	10	4	40.0
第3種 冷凍機械	全科目受検者	54	50	18	36.0
	科目免除者	14	13	9	69.2
	計	68	63	27	42.9
計	全科目受検者	181	158	40	25.3
	科目免除者	73	71	59	83.1
	計	254	229	99	43.2

第6表 令和元年度高圧ガス販売主任者試験実施状況

令和元年11月10日  
福井県立大学

種類	受験者区分	出願者数 (人)	受験者数 (人) (A)	合格者数 (人)	
				(B)	合格率 (%) (B/A)
第1種販売主任者	全科目受験者	31	28	15	53.6
	科目免除者	0	0	0	0
	計	31	28	15	53.6
第2種販売主任者	全科目受験者	43	38	21	55.3
	科目免除者	13	11	11	100
	計	56	49	32	66.0
計	全科目受験者	74	66	30	45.5
	科目免除者	14	12	12	100
	計	88	78	42	53.8

第7表 令和元年度液化石油ガス設備士試験実施状況

令和元年12月1日  
福井工業大学

出願者 (人)	受験者 (人) (A)	筆記試験合格者 (人)		技能試験合格者 (人)	
		(B)	筆記試験合格率 (%) (B/A)	(C)	合格率 (%) (C/B)
8	7	3	42.9	3	100

第8表 令和元年度高圧ガス関係免状交付状況

免許の種類	乙種化学	丙種化学 (液石丙化)	丙種化学 (特別丙化)	乙種機械	第2種 冷凍機械	第3種 冷凍機械	第1種 販売	第2種 販売
交付数 (件)	9	28	24	6	5	24 (1)	14	31 (2)

( ) 書きは再交付・書換で外数

## 第9表 令和元年度高压ガス関係申請状況

### (1) 高压ガス保安法

申請種別		区分	件数	申請種別		区分	件数
製 造	新 設	一 般	0	完 成 更 改 含 む 検 査	製 造	一 般	12
		液 石	2			液 石	9
		冷 凍	0			冷 凍	0
		計	2			計	21
	変 更	一 般	15		貯 蔵 所	一 般	6
		液 石	15			液 石	1
冷 凍		1	計	7			
計			31	製造保安責任者免状交付		96	
貯 蔵 所	新 設	一 般	3	〃 再交付	0		
		液 石	1	〃 書換	1		
		計	4	販売主任者免状交付	45		
	変 更	一 般	4	〃 再交付	5		
		液 石	0	〃 書換	2		
		計	4	保安検査	24		
計			4	合 計	173		

### (2) 液化石油ガス法

申請種別	件数
販売事業登録	1
保安機関認定	1
保安機関認定更新	136
一般消費者等増加認定	1
販売事業者謄本交付	3
販売事業者認定	0
貯蔵施設等設置	0
充てん設備許可	2
液化石油ガス設備士免状交付	21
〃 再交付	3
〃 書換	3
合 計	171

第10表 令和元年度高圧ガス事故発生状況

ガスの種類	事故発生日	事故発生場所	事故の概況	人的被害			原因
				死者	重傷	軽傷	
フルオロカーボン	R1. 7. 1	敦賀市	凝縮器付近からガス漏洩	0	0	0	経年劣化
フルオロカーボン	R1. 8. 1	坂井市	圧縮機付近からガス漏洩	0	0	0	腐食管理不足
フルオロカーボン	R1. 8. 1	敦賀市	熱交換器の冷媒配管からガス漏洩	0	0	0	不明
液石	R1. 8. 14	福井市	リバースラインの接合部からガス漏洩	0	0	0	不明
窒素	R1. 11. 29	岐阜県可児市	ポンプ入り側のフレキホースからガス漏洩	0	0	0	振動
フルオロカーボン	R1. 12. 10	坂井市	サービスポート付近からガス漏洩	0	0	0	締結管理不良
フルオロカーボン	R1. 12. 24	敦賀市	冷媒配管溶接部からガス漏洩	0	0	0	経年劣化
フルオロカーボン	R1. 12. 29	敦賀市	凝縮器付近からガス漏洩	0	0	0	経年劣化
窒素	R2. 1. 28	敦賀市	ポンプ入り側のフレキホースからガス漏洩	0	0	0	振動

## 第2章 火薬類保安

### 概況

火薬類は、土木、採石、鉱山等の事業に使用されているほか、身近なものではがらん具煙火にいたるまで様々な種類があり、多岐にわたって利用されている。

しかし、その取扱いによっては大事故につながる恐れがあり、製造から消費にいたるまで厳しく規制を行うなど、安全性の確保が強く要求されている。

本県においては、県公安委員会と密接な連携のもとに立入検査による法の厳格かつ適切な運用、さらに、取り扱う者自らによる自主保安体制づくりが、事故予防上重要であることから、危害予防週間を通じ保安意識の啓蒙と普及に努めている。

また、許認可については、県では危機対策・防災課の他、奥越農林総合事務所、嶺南振興局で行っているが、煙火および空包の許可については、平成8年度から県内各市町（消防本部）で行っている。

第1表 火薬類関係事業所等数

令和2年3月31日現在

(単位：件)

販売業者	火薬・爆薬および火工品	8
	競技用紙雷管	28
	合計	36
火薬庫	1級火薬庫	14
	2級	0
	3級	2
	煙火	5
	実包	2
	合計	23
庫外貯蔵所	販売業者所有	11
	その他所有	10
	合計	21

第2表 銃砲関係事業所数

業 種	事業所数
販 売	1
製造（修理・改造のみ）および販売	3
計	4

第3表 火薬類（爆薬）の消費量の推移

(単位：t)

業種 年度	鉦山	石灰石	土木	採(砕)石	その他	合計
25	11	4	1	62	1	79
26	11	4	68	57	0	140
27	15	5	387	68	0	475
28	9	2	508	79	0	598
29	9	3	694	86	1	793
30	12	4	803	152	0	971
令和元	0	0	156	83	0	239

第4表 火薬類取扱および丙種火薬類製造保安責任者試験実施状況

種 別	出願者数(人)	受験者数(人) (A)	合格者(人) (B)	合格率(%) (B/A)
甲 種	78	73	37	50.7
乙 種	15	15	10	66.7
丙 種	0	0	0	—
計	93	88	47	53.4

会場：9月1日（日）福井県中小企業産業大学校

第5表 令和元年度火薬類保安講習関係講習会実施状況

講 習 会 名	回 数(回)	受講者数(人)
火薬類取扱者保安教育講習会	7	574
火薬類取扱者保安再教育講習会	1	7
火薬類取扱保安責任者養成講習会	1	29
煙火消費保安講習会	0	0

## 第6表 令和元年度火薬類許可申請等の状況

### (1) 県許可申請等

区 分	種 別		件 数 (件)
危機対策・防災課	譲 受	火工品のみ	0
		25kg 以下	1
		上 記 以 外	33
	譲 渡		11
	火 薬 庫 設 置		0
	火 薬 庫 変 更		0
	火薬庫完成検査 (設置)		0
	" (変更)		0
	火 薬 庫 保 安 検 査		10
	免 状 交 付		45
	免 状 再 交 付		4
	販 売 営 業		0
	計		104
奥越農林 総合事務所	譲 受	火工品のみ	0
		25kg 以下	0
		上 記 以 外	15
	譲 渡		5
	計		20
嶺南振興局 企画振興室 若狭	譲 受	火工品のみ	0
		25kg 以下	1
		上 記 以 外	7
	譲 渡		3
	計		11
嶺南振興局 企画振興室 二州	譲 受	火工品のみ	0
		25kg 以下	1
		上 記 以 外	6
	譲 渡		5
	計		12
合 計		147	

### (2) 市町許可申請等

消防(局)本部名	種 別			件 数
	煙火消費	空包譲受	空包譲渡	
福 井 市	9	0	0	9
大 野 市	3	0	0	3
勝 山 市	3	0	0	3
永 平 寺 町	1	0	0	1
嶺 北 消 防 組 合	4	0	0	4
鯖 江 ・ 丹 生 消 防 組 合	4	0	0	4
南 越 消 防 組 合	6	0	0	6
敦 賀 美 方 消 防 組 合	8	0	0	8
若 狭 消 防 組 合	10	0	0	10
計	48	0	0	48

第7表 令和元年度事故発生状況

発生日	発生場所	区分	状況	被害	原因
R1. 7. 28	南越前町	煙火	ダンボールに入った水中花火が、警察署へ届けられたもの。	人的：なし 物的：なし	導火線に火をつけ水中へ投げ入れた際、導火線への着火をより確実にするために二重の措置が取られていなかった為、火が消え不発となった。
R2. 2. 1	大野市	煙火	1.5号玉スターマイン7～8発が低空開発した。	人的：なし 物的：なし	隣接している花火を打ち上げた際に防水シートと筒蓋が外れ、筒に直接火花が入ったもの。